千葉県文化財センター調査報告第460集

東関東自動車道(木更津・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 1

－君津市練木遺跡－

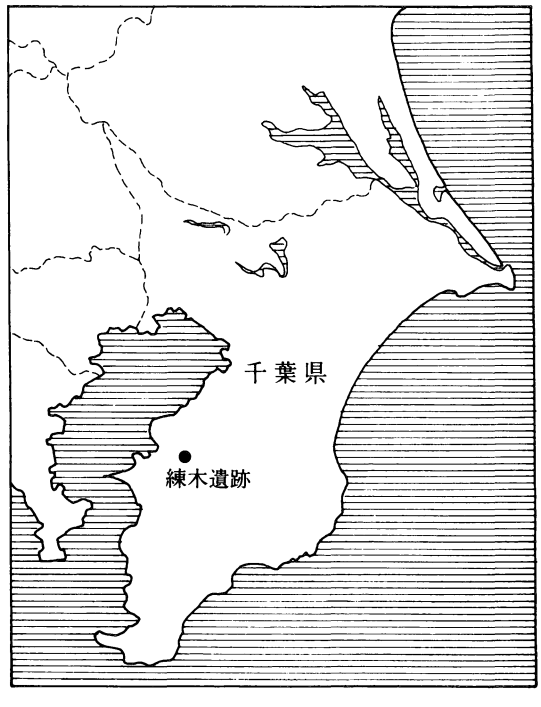
平成15年 3 月

日　本　道　路　公　団

財団法人　千葉県文化財センター

東関東自動車道(木更津・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 1

－君津市練木遺跡－



序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第460集として，日本道路公団の東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴って実施した君津市練木遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，縄文時代の遺物や遺構が発見されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年３月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清水新次

凡　　例

1　本書は，日本道路公団による東関東自動車道（木更津・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県君津市練木字基445-25ほかに所在する練木遺跡（遺跡コード225-018）である。

3　発掘調査から報告書に至る業務は，日本道路公団の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査および整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は第１・２章の一部を主席研究員　高橋博文，第１・２章の一部および第３章を上席研究員田島　新が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化財課，日本道路公団，君津市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は，下記のとおりである。

第４図　　君津市役所発行　1／2,500君津市地形図「F-4」・「F-5」

第５図　　国土地理院発行　1／25,000地形図「木更津」（NI-54-25-4-2）

第５図　　国土地理院発行　1／25,000地形図「鹿野山」（NI-54-26-1-1）

8　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。

10　本文および挿図に使用したスクリーントーンの用例は，次のとおりである。

炉跡

本　文　目　次

序文

凡例

第１章　はじめに……1

第１節　調査の概要……1
1　調査の経緯と経過……1
2　調査の方法……1

第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡……5
1　遺跡の位置……5
2　周辺の遺跡……5

第２章　検出した遺構と遺物……9

第１節　縄文時代……9
1　概要……9
2　遺構・遺物……9
3　遺構外出土遺物……31

第２節　奈良時代以降……49
1　概要……49
2　遺構・遺物……49

第３章　まとめ……60

第１節　縄文時代……60

第２節　奈良時代以降……60

報告書抄録……巻末

挿　図　目　次

第１図　上層確認トレンチ配置図（1／1,000）…２
第２図　下層確認グリッド配置図1／1,000）と
　　基本土層 …… ３
第３図　練木遺跡全体図（1／1,000）…… ４
第４図　練木遺跡周辺地形図（1／5,000）…… ６
第５図　練木遺跡の位置と周辺の遺跡 …… ７
第６図　縄文時代遺構・土器・石器分布状況 …… ８
第７図　SI002 ……10
第８図　SI002出土土器 ……10
第９図　SI002出土石器 ……11
第10図　SI003 ……11
第11図　SI003出土土器 ……11
第12図　SI003出土石器 ……12
第13図　SI004 ……12
第14図　SI004出土土器 ……13
第15図　SI004出土石器 ……13
第16図　SI006 ……14
第17図　SI006出土土器 ……14
第18図　SI007 ……15
第19図　SI009 ……15
第20図　SI009出土土器・土製品 ……16
第21図　SI009出土石器 ……16
第22図　SI010 ……17
第23図　SI010出土土器（１）……18
第24図　SI010出土土器（２）・土製品 ……19
第25図　SI010出土石器 ……19
第26図　SI011 ……20
第27図　SI011出土土器（１）……21
第28図　SI011出土土器（２）……22
第29図　SI011出土石器（１）……23
第30図　SI011出土石器（２）……24
第31図　SK011……25
第32図　SK013 ……25
第33図　SK013出土土器 ……26
第34図　SK013出土石器 ……27
第35図　SK004・005・007・010・012・003,
　　SH121……28
第36図　ピット群分布状況 ……29
第37図　土坑・ピット群出土土器 ……31
第38図　ピット群出土石器 ……31
第39図　石鏃製作跡１群出土石器（１）……32
第40図　石鏃製作跡１群出土石器（２）……33
第41図　石鏃製作跡２群出土石器 ……33
第42図　石鏃製作跡３群出土石器 ……34
第43図　石鏃製作跡４群出土石器（１）……34
第44図　石鏃製作跡４群出土石器（２）……35
第45図　グリッド出土土器（１）……36
第46図　グリッド出土土器（２）……37
第47図　グリッド出土土器（３）……38
第48図　グリッド出土土器（４）……39
第49図　グリッド出土土器（５）……40
第50図　グリッド出土土器（６）……41
第51図　グリッド出土土器（７）……42
第52図　グリッド出土土器（８）……43
第53図　グリッド出土土器（９）……44
第54図　グリッド出土土製品 ……44
第55図　グリッド出土石器（１）……45
第56図　グリッド出土石器（２）……46
第57図　グリッド出土石器（３）……47
第58図　グリッド出土石器（４）……48
第59図　SK002・SK002出土土器……49
第60図　SI001・SI005 ……50
第61図　SA001……51

表　目　次

第１表　遺構観察表 ……52
第２表　縄文土器観察表 ……53
第３表　土器片錘観察表 ……55
第４表　土製円盤観察表 ……55
第５表　縄文時代石器観察表 ……56

図　版　目　次

図版１　練木遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影）
図版２　１．練木遺跡全景（北から）
　　２．練木遺跡全景（南から）
図版３　１．第１トレンチ（東北東から）
　　２．第２トレンチ（北から）
　　３．第３トレンチ（南から）
　　４．第４トレンチ（南南西から）
図版４　１．第13トレンチ（南西から）
　　２．第14トレンチ（南西から）
　　３．第17トレンチ（南から）
　　４．第22トレンチ（東から）
図版５　１．第18トレンチ遺構検出状況（西から）
　　２．８Ｇグリッド遺構検出状況１（北から）
　　３．８Ｇグリッド遺構検出状況２（北から）
　　４．基本土層（8F-19グリッド西壁）
図版６　１．SI002（南西から）
　　２．SI003（北から）
　　３．SI004（東から）
図版７　１．SI006（北から）
　　２．SI007（北東から）
　　３．SI009（南西から）
図版８　１．SI010（東から）
　　２．SI011（南から）
　　３．9F-00～10G-00グリッド遺物出土状況（南西から）
　　４．10G-00グリッド遺物出土状況（西から）
図版９　１．SK003（北から）
　　２．SK004（北から）
　　３．SK007（北東から）
　　４．SK010（西から）
　　５．SK011（北から）
　　６．SK012（西から）
　　７．SK013（北東から）
　　８．SK013遺物出土状況１（北東から）
　　９．SK013遺物出土状況２（南東から）
図版10　１．SH121（東から）
　　２．7F-68グリッド埋甕（西から）
　　３．SK002（１）東から
　　４．SK002（２）東から
　　５．出土土器（１）
　　６．出土土器（２）
　　７．出土土器（３）
　　８．出土土器（４）
図版11　１．SI005（西から）
　　２．SI001（南東から）
　　３．SA001（南東から）
図版12　遺構出土土器（１）
図版13　遺構出土土器（２）・グリッド出土土器（１）
図版14　遺構出土土器（３）
図版15　遺構出土土器（４）
図版16　遺構出土土器（５）
図版17　遺構出土土器（６）
図版18　グリッド出土土器（２）
図版19　グリッド出土土器（３）

図版20　グリッド出土土器（４）
図版21　グリッド出土土器（５）
図版22　グリッド出土土器（６）
図版23　グリッド出土土器（７）
図版24　グリッド出土土器（８）
図版25　グリッド出土土器（９），遺構・グリッド出土土製品
図版26　遺構出土剥片石器，遺構出土礫石器
図版27　石鏃製作跡出土剥片石器，石鏃製作跡出土礫石器
図版28　グリッド出土剥片石器，グリッド出土礫石器

第1章　は　じ　め　に

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過

日本道路公団では，千葉市から富津市に至る高速自動車道である館山自動車道（路線名：東関東自動車道　千葉富津線）を計画した。この路線のうち，先に建設が終わった千葉市から木更津市に続く路線として，木更津市から君津市を経て富津市に至る21.6kmの区間が事業化され，木更津・富津線として建設が行われることとなった。

用地内には数多くの遺跡が所在することから，その取扱いについて，千葉県教育委員会と日本道路公団との慎重な協議が重ねられた。その結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整い，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

練木遺跡の発掘調査は，平成12年5月8日から平成12年9月29日までの5か月間にわたって上層の確認調査および本調査，下層の確認調査を実施した。

整理作業は，発掘調査が終了した翌年の平成13年度から実施した。発掘調査および整理作業を行った組織と担当者は以下のとおりである。

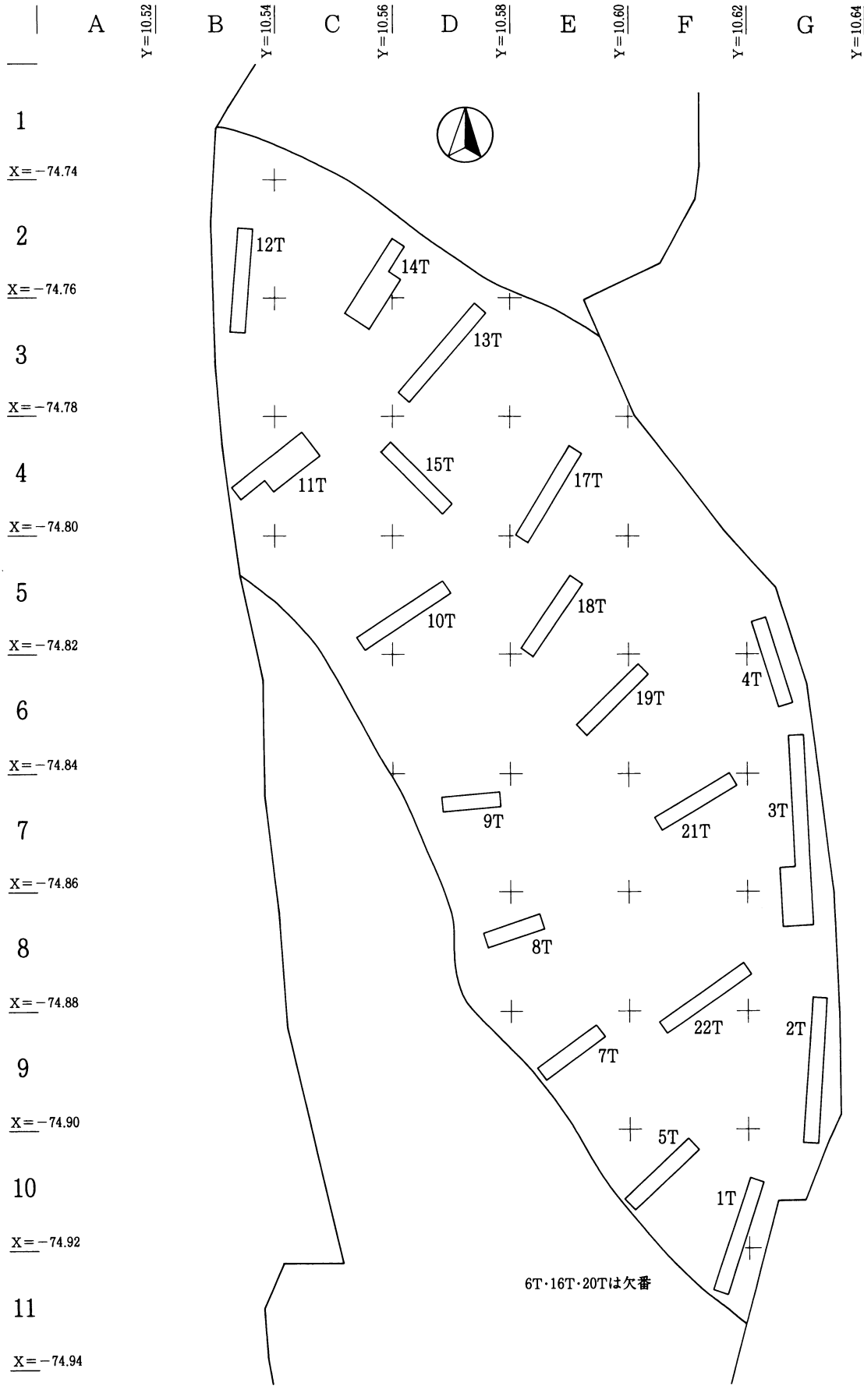
発掘調査　平成12年度　所長　高田　博
　　主席研究員　土屋治雄　　研究員　城田義友，行川　永
整理作業　平成13年度　所長　高田　博
　　主席研究員　高橋博文
　　平成14年度　所長　鈴木定明
　　主席研究員　高橋博文　　上席研究員　田島　新　　研究員 半澤幹雄

2　調査の方法（第1・2・3図）

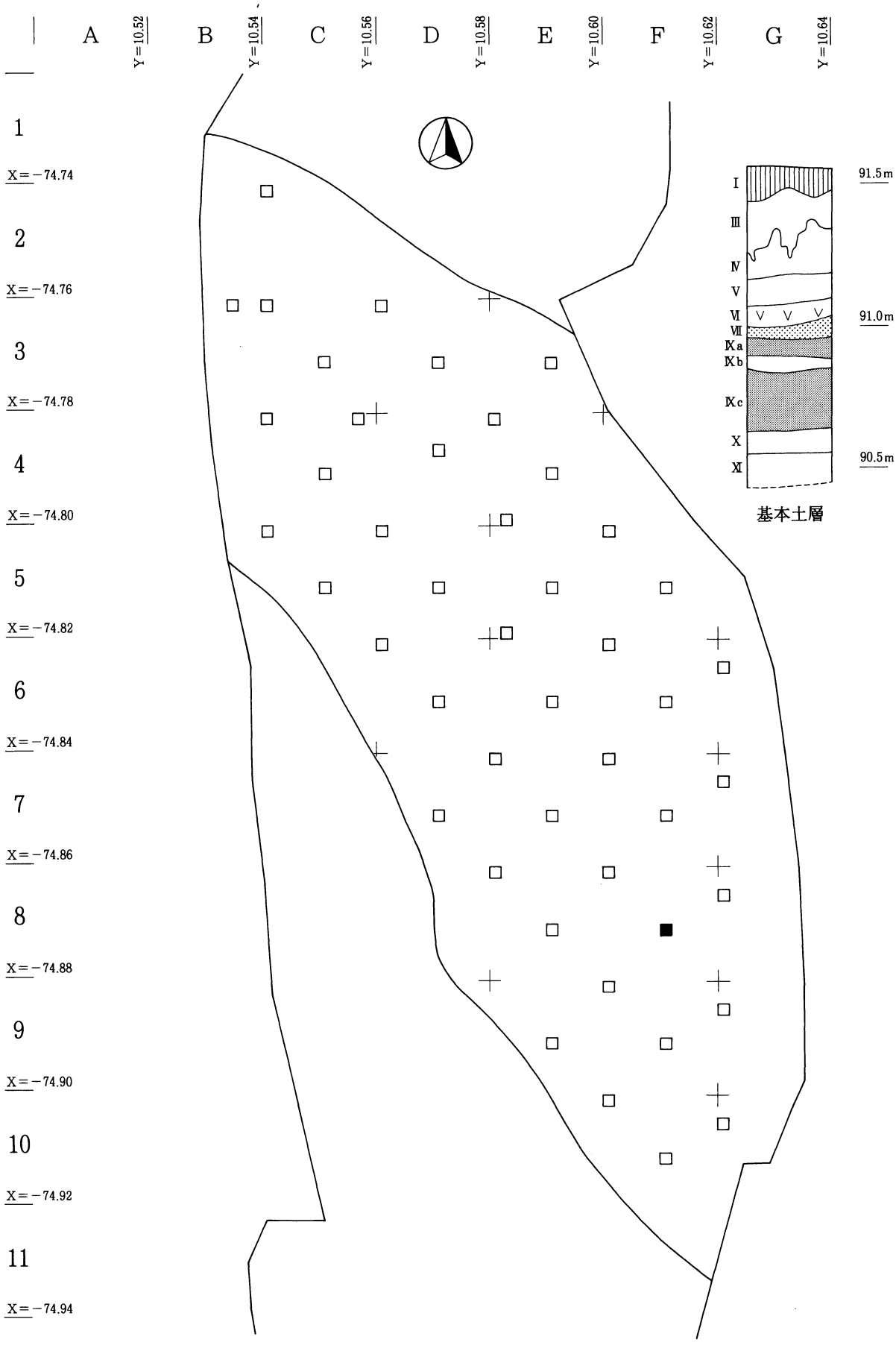
発掘調査の開始に際して，対象となる区域を包括するように国土地理院国家座標（第Ⅸ座標）を基準とした発掘区の設定を行った。大グリッドとして一辺20mとする区画を設定し，北西隅のグリッドを起点に西から東へA，B，C…とアルファベットの大文字を付し，北から南へは1，2，3…と数字を付し，数字とアルファベットの組み合わせで大グリッドの名称とした。さらにその大グリッドを一辺2mの小グリッドに分割し，大グリッドの北西隅に位置する小グリッドを00とし，東へ向かって01，02，03…と，南へ向かって10，20，30…と命名し，100の小グリッドに分割して最小区域の調査区とした。

上層の確認調査は調査開始時に行い，幅2mのトレンチを調査区の状況に合わせて調査対象面積9,200㎡の10%に当たる920㎡について設定し，遺構・遺物の分布状況および表土等の堆積状況などを把握する作業を行った。その結果，遺構および遺物が検出された6,000㎡の範囲について，確認調査に引き続き上層の本調査を実施した。

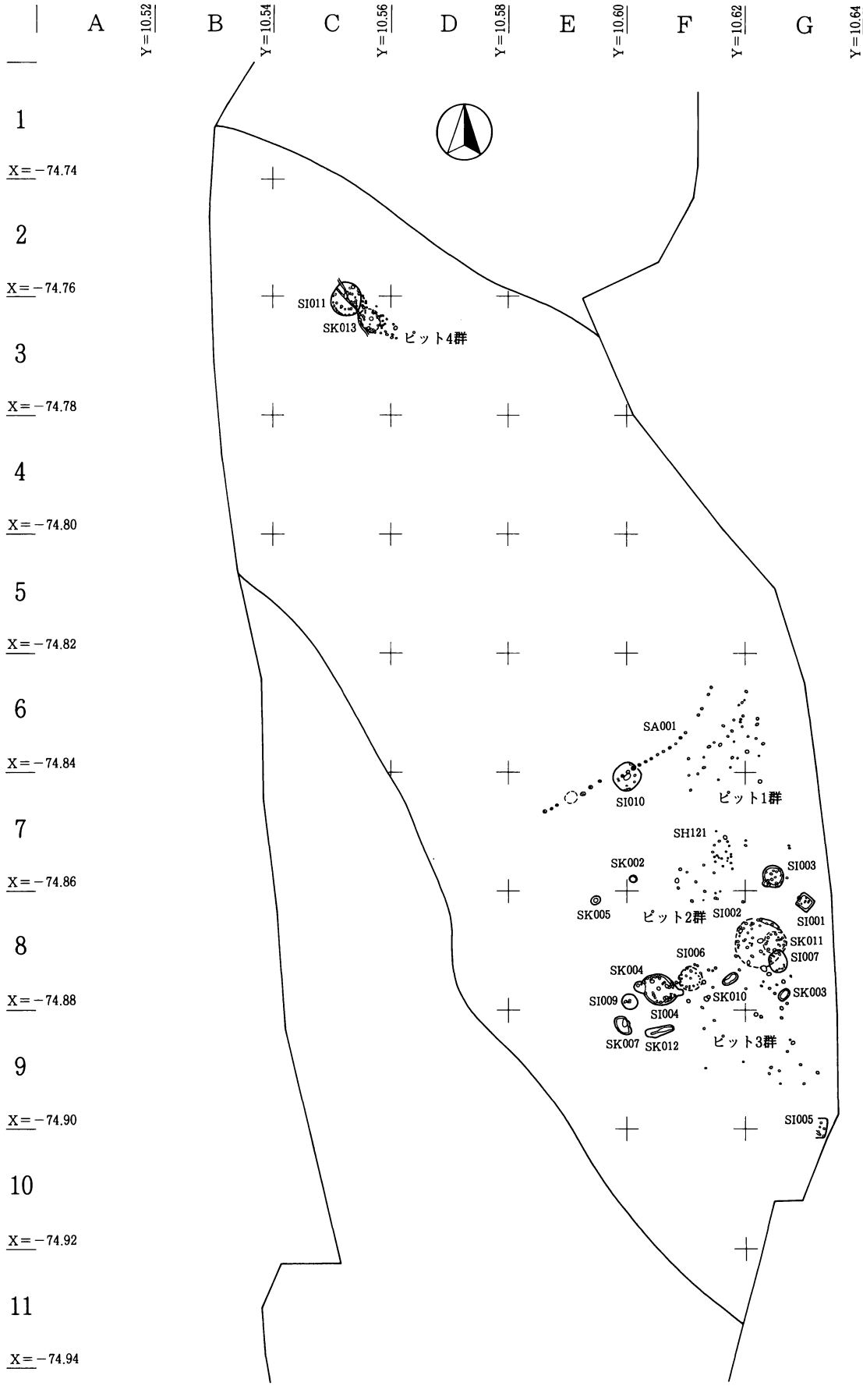
下層の確認調査は，上層の本調査終了に引き続いて，一辺2mの方形グリッドを調査対象面積9,200㎡



第１図　上層確認トレンチ配置図（1／1,000）



第２図　下層確認グリッド配置図（1／1,000）と基本土層



第3図　練木遺跡全体図（1／1,000）

の２％にあたる184㎡について一定間隔を持って46か所にわたって設定し，クラムシェルと人力を併用して実施した。なお，遺物が出土したグリッドはなく，下層については確認調査をもって終了とした。

第２節　遺跡の位置と周辺の遺跡

１　遺跡の位置（第４・５図，図版１）

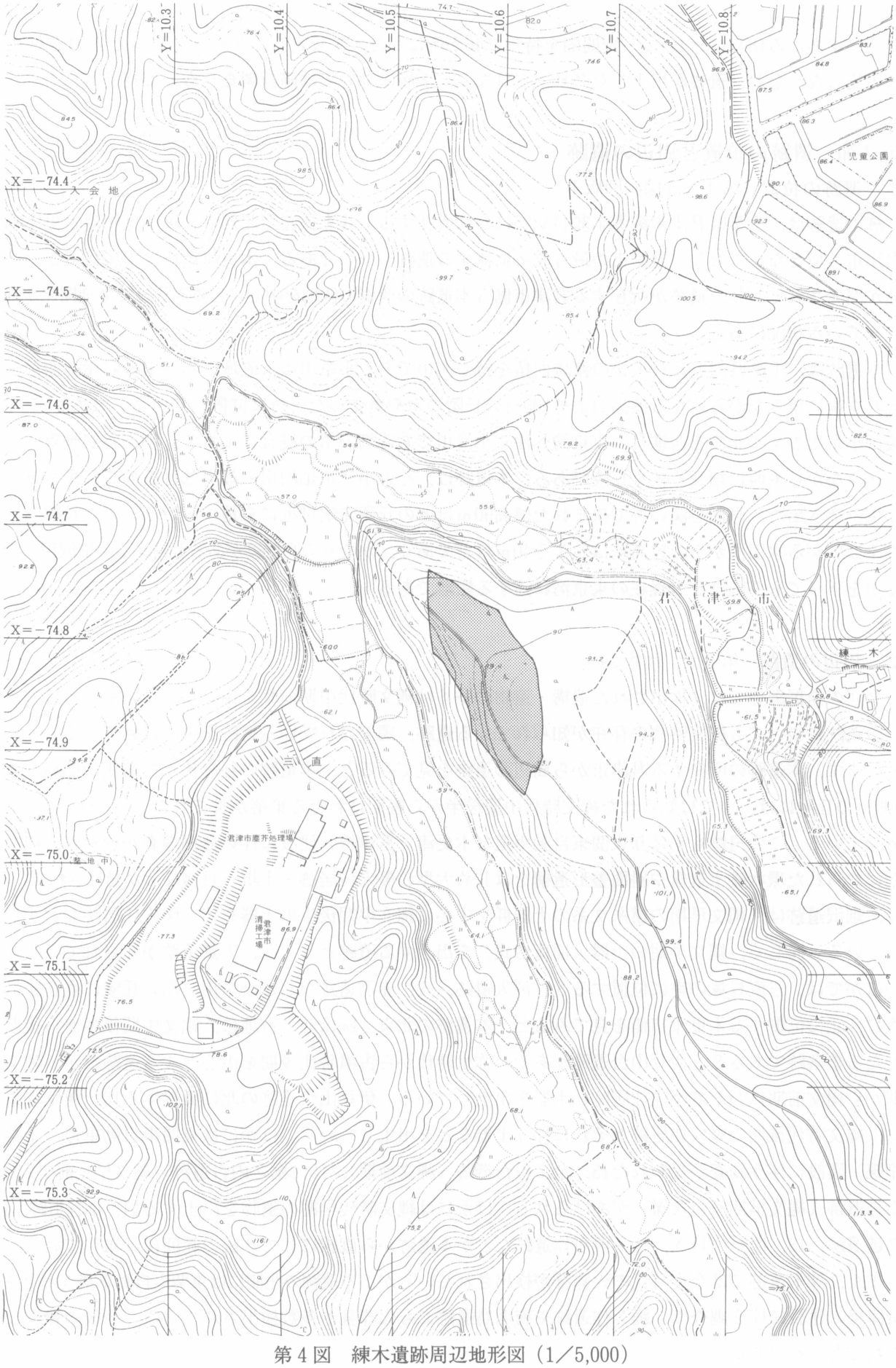
練木遺跡は，千葉県君津市練木字基445-25ほかに所在する。谷を挟んだ北側の丘陵の尾根は木更津市と君津市の境となっており，君津市の最も北に位置する遺跡の一つである。木更津市側は市境付近まで住宅地が開発されており，遺跡が所在する君津市側も本遺跡の西側の低地を中心に丘陵周辺まで宅地開発が迫ってきている状況にある。

本遺跡は，千葉県内では最大級の流域面積を持つ河川である小糸川の下流域，本河川の右岸，西進する流れを南に望みながら連なる標高およそ100ｍの丘陵のやや奥まった一角に位置している。また，この丘陵は小糸川のすぐ北側を西進し，東京湾へ注ぐ小河川である畑沢川の浸食によって，小支谷が幾重にも入り込みながら東西に細長く続く丘陵である。本遺跡は，その小河川畑沢川の最奥部付近のこれまた細長く北東へ突き出た，両側を深い谷で挟まれた標高90ｍほどの丘陵先端付近に立地する。そして，丘陵下部の谷津に広がる水田面からの比高差はおよそ40ｍほどであり，かなりの高低差があると言える。畑沢川に沿って川を下っても７㎞ほどで現在の東京湾に達する距離である。

２　周辺の遺跡（第５図，図版１）

今回の発掘調査では，検出された遺構・遺物の多くは縄文時代中期前葉を中心としている。そこで，周辺の遺跡についても縄文時代の存在が知られている遺跡，調査されている遺跡を中心に見ていくことにする。まず，本遺跡の所在する君津市から周辺の遺跡を見てみると，本遺跡の谷を挟んだ南側の標高およそ100ｍの丘陵には，すでに知られた縄文時代中期後半から晩期にわたる集落が営まれた２．三直貝塚が位置している。この遺跡もやはり東関東自動車道（木更津・富津線）建設に伴い発掘調査が行われ，縄文後期に作られた環状盛土遺構や斜面整形遺構をはじめ大型の竪穴住居跡・土坑・貝層などが発見されている。４．畑沢遺跡は，縄文早期の撚糸文系の土器群を中心に縄文中期後半の土器を伴う竪穴住居跡などが出土している。同じく，縄文早期の土器（稲荷台式）を出土する遺跡として５．大鷲遺跡が知られている。そのほかでは，三直貝塚の南に位置する３．沖入遺跡，６．赤羽遺跡などが小糸川右岸の丘陵に点在する。次に，北に位置する木更津市側を見てみると，本遺跡の北東２㎞ほどの台地に，縄文中期後半から後期にわたる集落跡である８．伊豆山台遺跡がある。弥生時代から古墳時代後期を中心とする遺跡だが，縄文早期から縄文前期にわたる竪穴住居跡と土器を出土している。伊豆山台遺跡の北に隣接する10．蓮華寺遺跡は，縄文時代後期の竪穴住居跡とそれに伴う土器などを出土している。ほかには東関東自動車道（千葉富津線）建設に伴う調査が行われた13．金二谷台遺跡（縄文前期），15．堀之内台遺跡（縄文早・前期），16．山神遺跡（縄文早期－包含層）があげられる。ほかには縄文時代早期の遺物を出土する14．小谷追跡，17．打越遺跡，18．葭が作貝塚，19．葭が作遺跡などが本遺跡から直線にして３㎞の範囲に分布している。

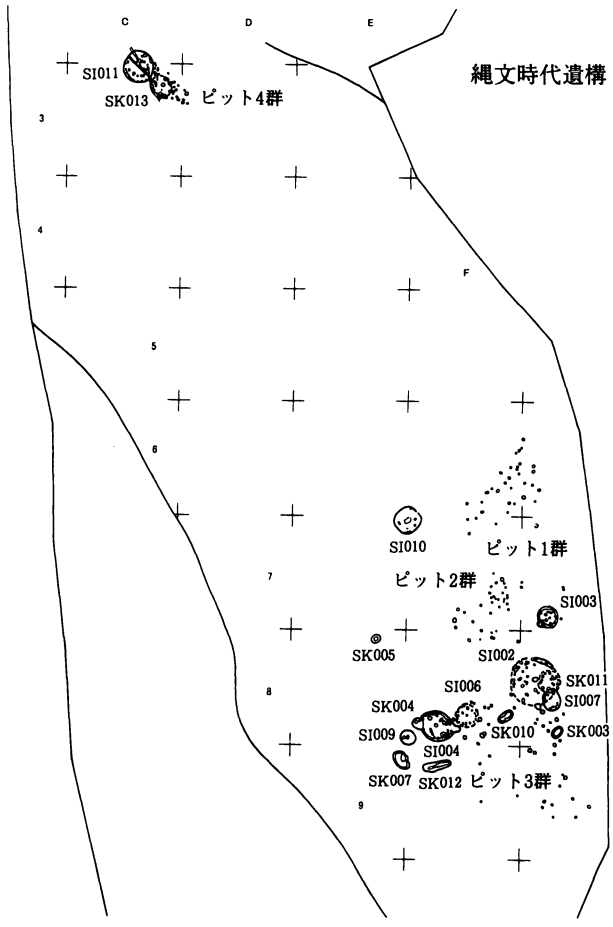
また，練木遺跡では奈良時代の火葬墓が検出されているが，本遺跡の北側には東関東自動車道（木更津・富津線）建設に伴う調査で，踊ヶ作遺跡や南羽鳥遺跡でも火葬墓が多数検出されている。今後の報告が待たれるところである。

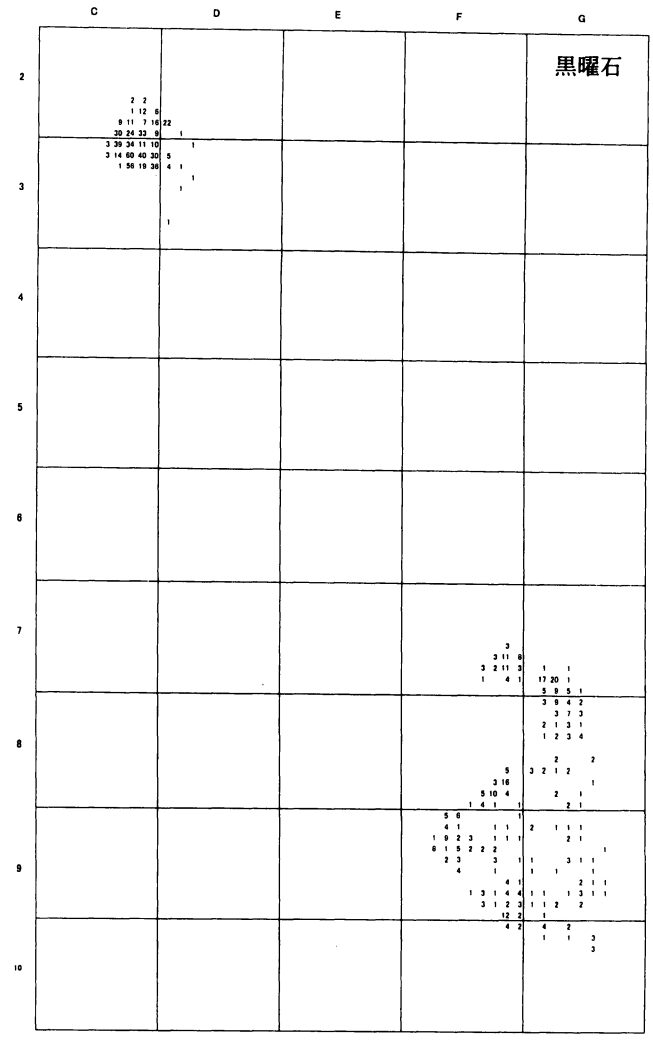


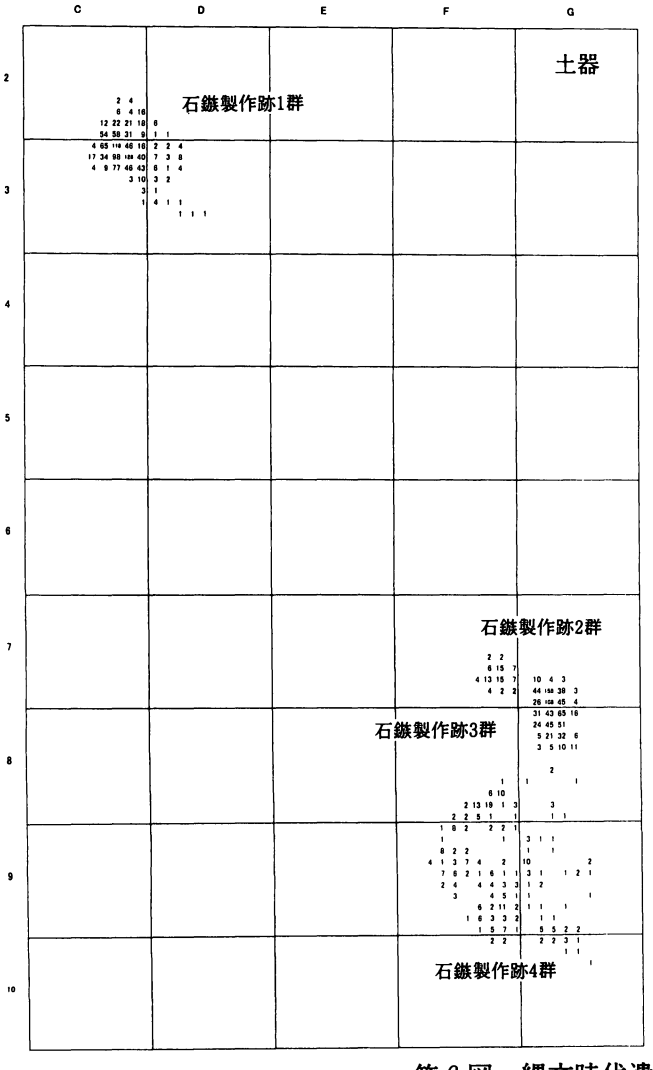
第４図　練木遺跡周辺地形図（1／5,000）

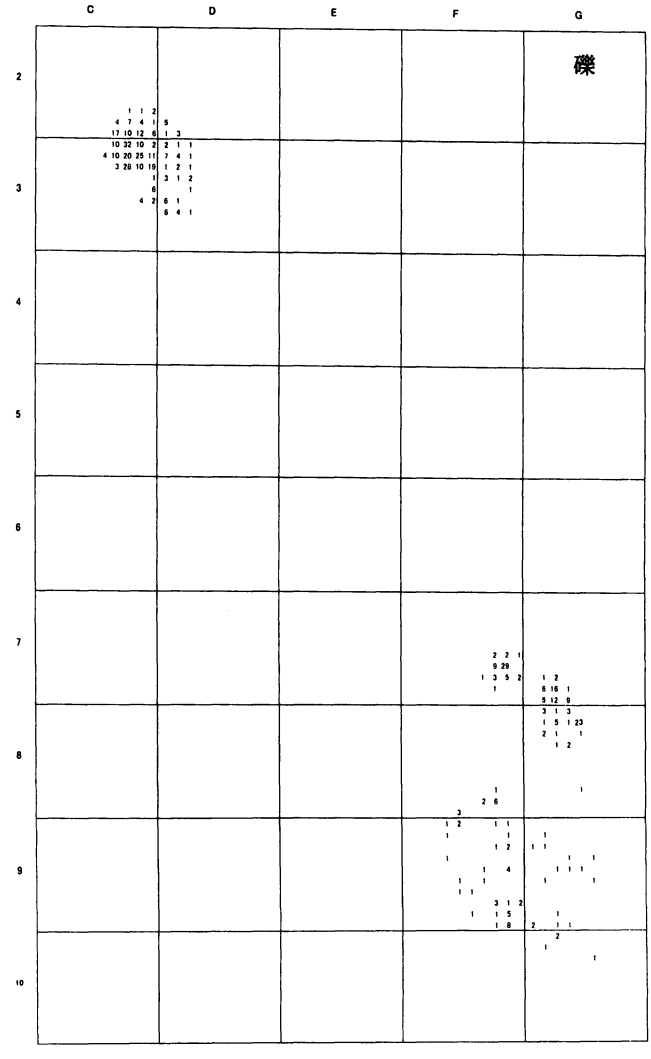
1．練木遺跡(君津)　2．三直貝塚(君津)　3．畑沢遺跡(君津)　4．沖入遺跡(君津)
5．大鷲遺跡(君津)　6．赤羽遺跡(君津)　7．東谷遺跡(木更津)　8．伊豆山台遺跡(木更津)
9．山田遺跡(木更津)　10．蓮華寺遺跡(木更津)　11．天袖前遺跡(木更津)　12．大門口遺跡(木更津)
13．金二谷台遺跡(木更津)　14．小谷遺跡(木更津)　15．堀ノ内台遺跡(木更津)　16．山神遺跡(木更津)
17．打越遺跡(木更津)　18．葭ヶ作貝塚(木更津)　19．葭ヶ作遺跡(木更津)

第5図　練木遺跡の位置と周辺の遺跡









第6図　縄文時代遺構・土器・石器分布状況

第２章　検出した遺構と遺物

第１節　縄文時代

１　概　要

練木遺跡は，館山自動車道（東関東自動車道　千葉富津線）建設に伴う埋蔵文化財調査の中で，新たに確認された遺跡である。丘陵の両側は現在，畑沢川と呼ばれる川によって深く削られ，幅およそ250ｍ，長さ1,000ｍほどの標高が，約100ｍの細長い台地の北西先端部の付近に位置する。南側の谷を挟んだ台地上には，周知の遺跡である縄文時代後期を中心とする三直貝塚が立地する。また，本遺跡が乗る台地の南側約２㎞ほどの所には，県内でも流域面積が最大級の小糸川が，西の東京湾に向かって流れている。

今回発掘調査を実施した地域は，館山自動車道の工事に関連する9,200㎡についてである。ほぼ半年にわたる発掘調査の成果は縄文早期の陥穴１基，中期前半の竪穴住居跡８軒，小竪穴２基，土坑５基，ピット群４か所，石鏃製作跡４か所などが検出され，関連する遺物が出土した。縄文早期の遺構は陥穴１基のみであるが，撚糸文系の土器などが少量確認されている。この早期の陥穴を除けば，他のほとんどは縄文中期前半の時期が中心で，土器型式で言えば，阿玉台式および勝坂式と若干の加曽利Ｅ式の中期初頭から中葉にかけての期間に集落が営まれたと考えられる。

２　遺構・遺物

竪穴住居跡（第３・６図）

今回の調査で確認・検出された竪穴住居跡は合計８軒である。これら竪穴住居跡のほとんどは，台地の中央付近である調査区の南側にまとまって，それも接近した状態で検出されている。また，ほかの遺構との重複はあったものの，竪穴住居跡同士の重複は一か所を除き，なかった。また，台地の縁辺に近い北側の調査区には，竪穴住居跡が一軒離れて検出されているのが興味深い。

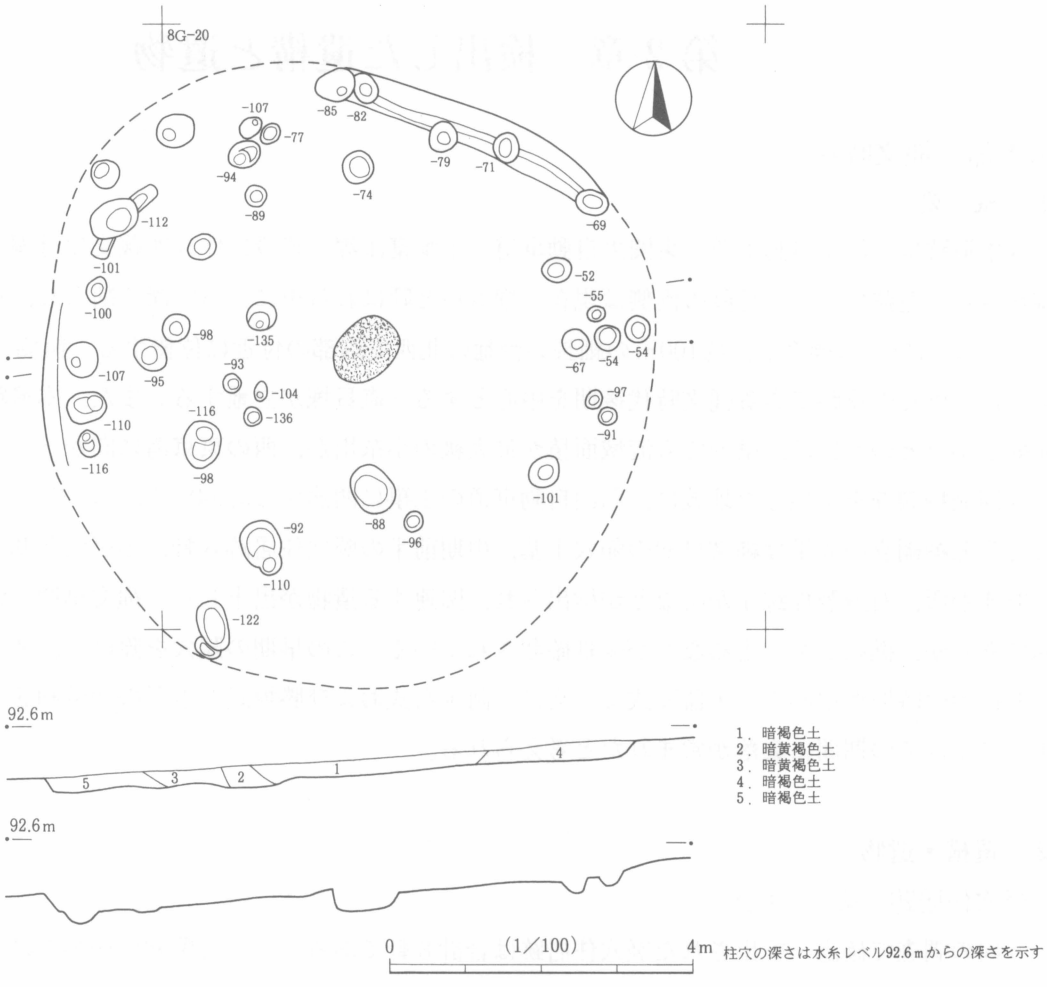
SI002（第７～９図，第１・５表，図版６・14・26）

調査区の南東側，8G-60に位置する。北東側に一部が確認された壁溝と壁，および検出された柱穴の状況から，平面形状は直径が4.0ｍほどの円形を呈すると考えられる。南東側で住居SI007と，東側で土坑SK011と重複する。確認面からの掘り込みは，最大で0.2ｍと浅い。床面は一部掘り過ぎており，硬化面なども確認できなかった。炉の検出は一か所のみで，中央付近に地床炉が検出されている。建て替えによる炉の移動や拡張はなかったようである。壁溝は，北東側の一部で浅い溝が検出されたのみである。柱穴は39か所検出されているが，ほとんどは壁を巡るようにほぼ一定の間隔を持って掘られ，西側では二重に検出されており，住居西側への拡張または建て替えも考えられる。主柱穴については，内側の壁溝と重なるように検出されている５本がそれと考えられる。

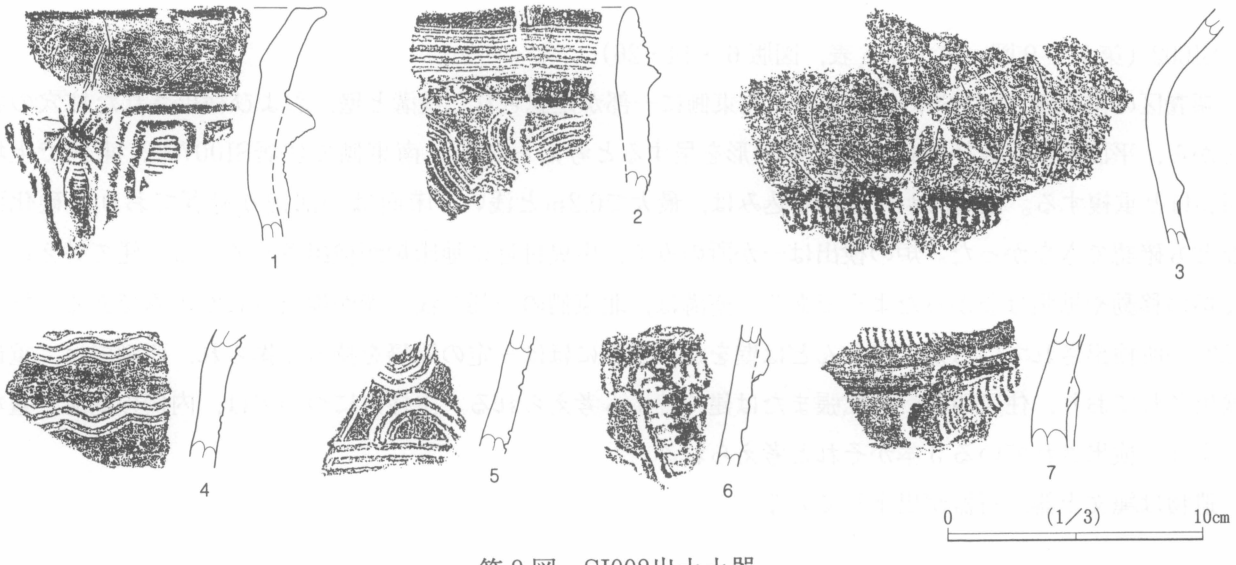
遺物は縄文土器，石器が出土している。

SI003（第10～12図，第１・５表，図版６・14・26）

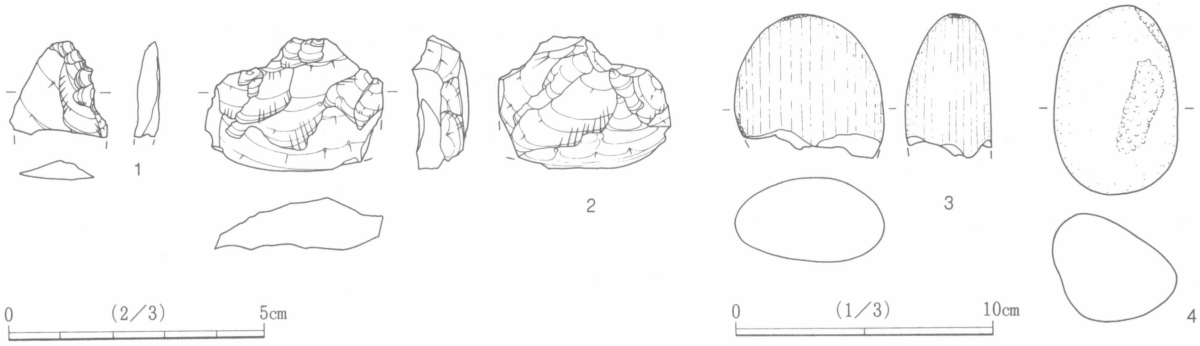
SI002の北側，7G-82に位置する。平面形状は長径3.9ｍ，短径3.4ｍを測る，円形に近い楕円形を呈する。



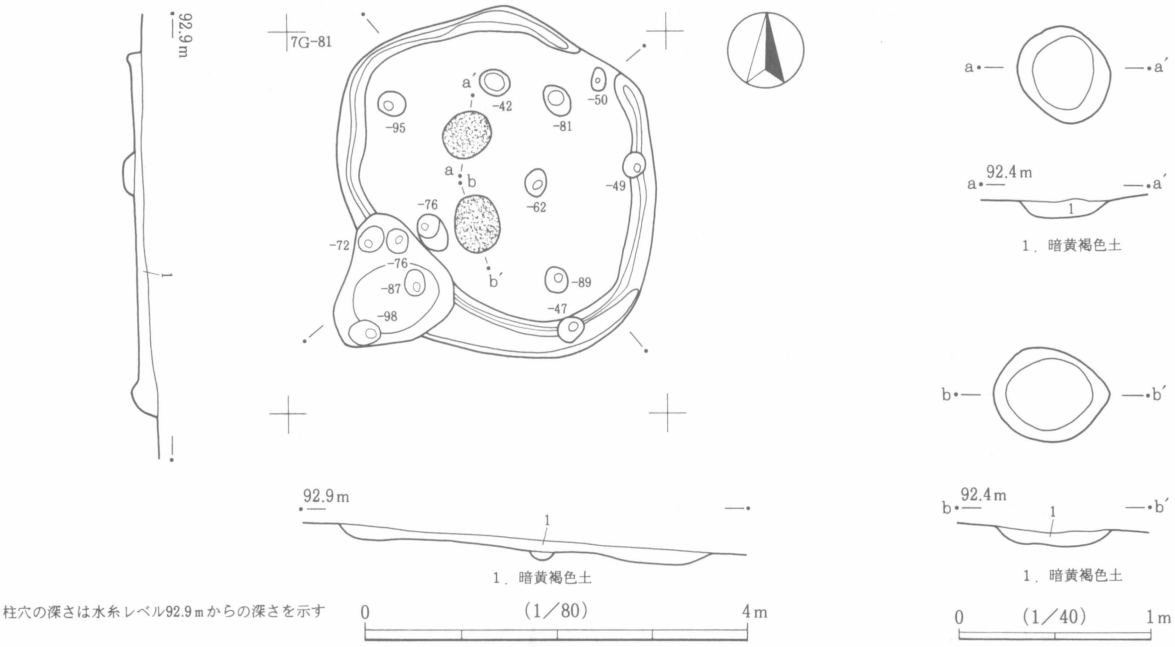
第7図　SI002



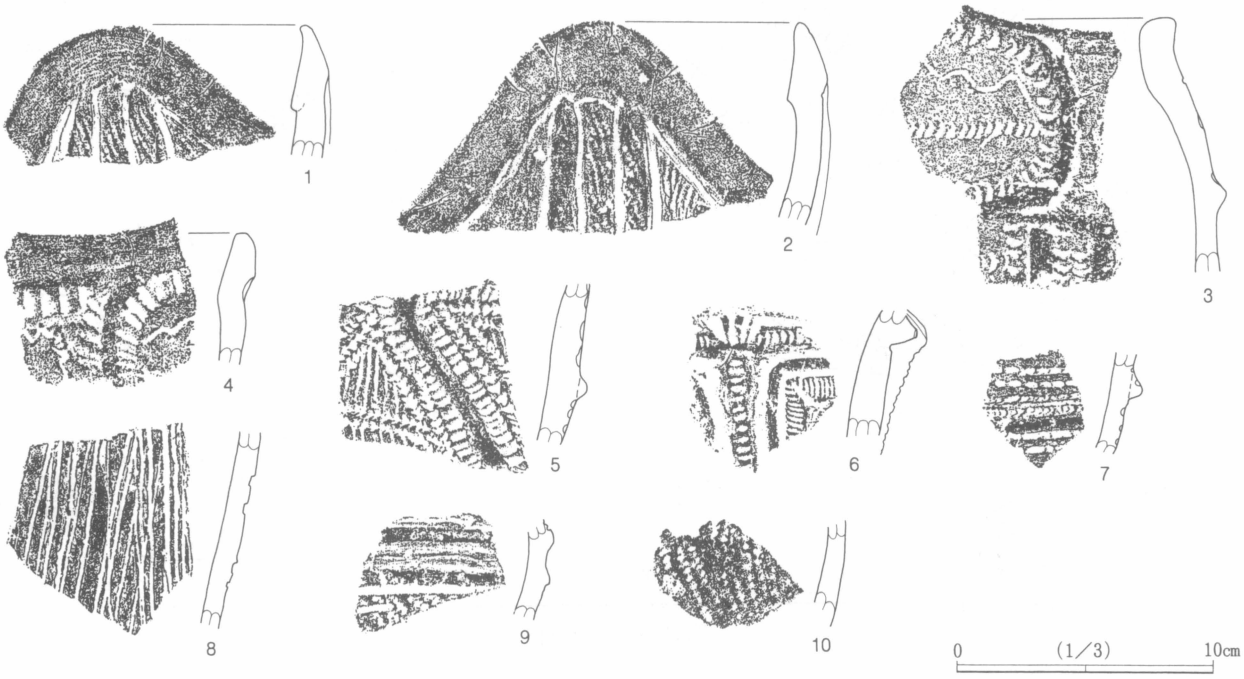
第8図　SI002出土土器



第９図　SI002出土石器



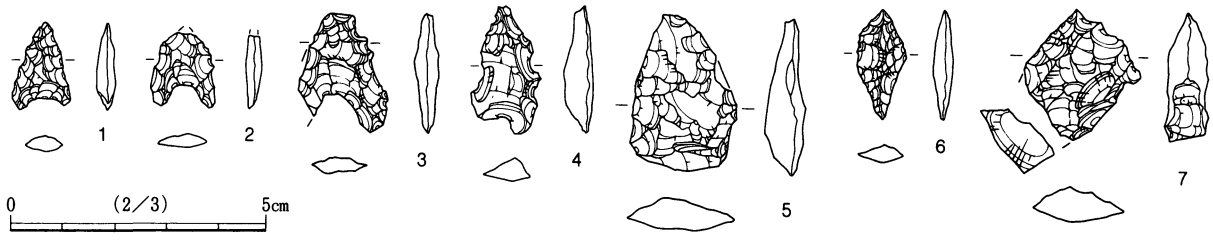
第10図　SI003



第11図　SI003出土土器

確認面からの掘り込みは，最大でも0.2mと浅い。床面はほぼ平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。炉は住居の中央付近に，やや間隔をおいて南北に分かれて2か所検出されている。いずれも地床炉である。壁溝はほぼ一周するが，南東部では結果的に主柱穴の内側へ入り込むなど不規則である。この南東壁付近には，床面からの深さ0.1mほどの楕円形を呈する浅いくぼみが張出部に付き，またこれに続くようにして南端には，壁溝の外側に沿って床面からの高低差がおよそ5cmの高まりをもって細長く巡る。柱穴は13本検出されている。主柱穴については，2か所の炉を囲む4本が考えられる。

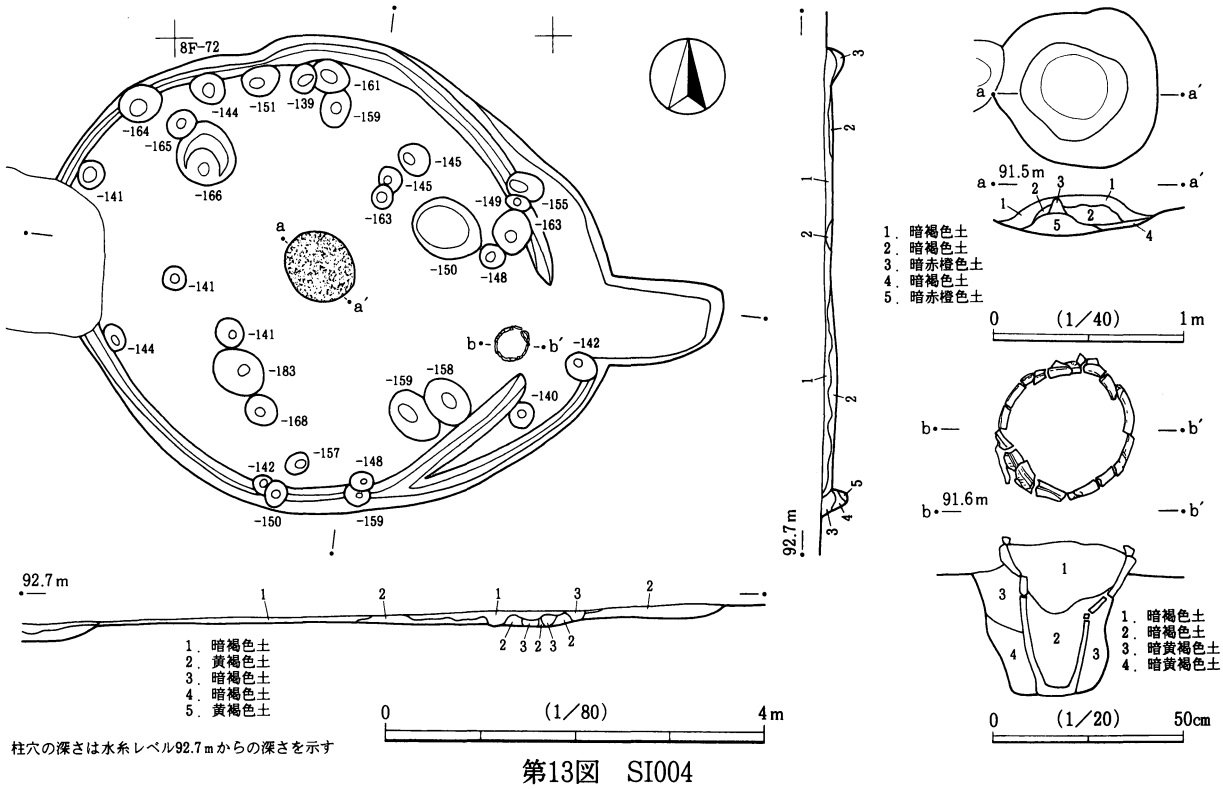
遺物は縄文土器，石器が出土している。



第12図　SI003出土石器

SI004（第13～15図，第1・2・5表，図版6・12・14・26）

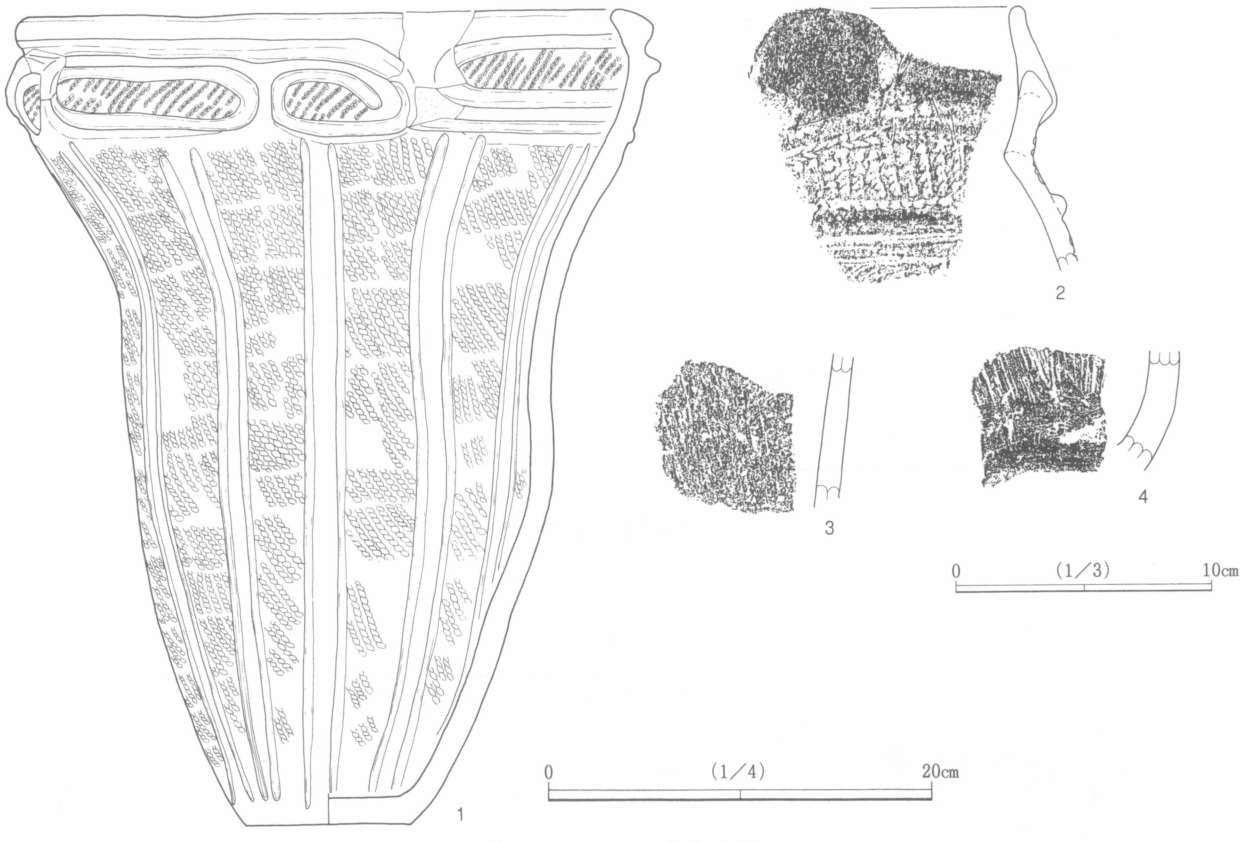
SI002の南東側，8F-82に位置する。西側で土坑SK004と重複する。平面形状は長径6.3m，短径5.9mを測り，やや楕円形を呈する。また，確認面からの掘り込みは，最大で0.1mと非常に浅い。床面は比較的平坦であり，硬化面は確認できなかった。住居の東側では，床面が壁溝の外側に沿ってほぼ半周にわたっ



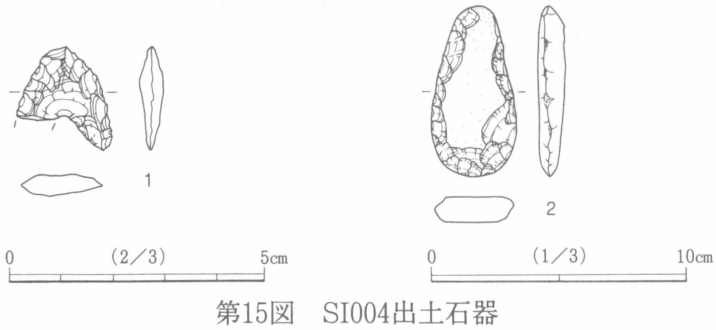
第13図　SI004

て検出されている。また，東端には長さ1.4mほどの張り出しが見られる。壁溝で囲まれた範囲は，直径がほぼ5mの円形を呈しており，本住居は東側への拡張が行われたと考えられる。炉は住居のほぼ中央に1か所，地床炉が検出されている。壁溝はほぼ一周すると考えられる。柱穴は31か所検出されたが，多くは壁に沿って検出されている。主柱穴については，炉を囲みほぼ等間隔に位置する4本が，それと考えられる。また，本住居東側の壁溝の内側に，溝に接して穴が掘られ，深鉢形土器の完形品が正位の状態で埋設されていた。

遺物は縄文土器，石器が出土している。



第14図　SI004出土土器

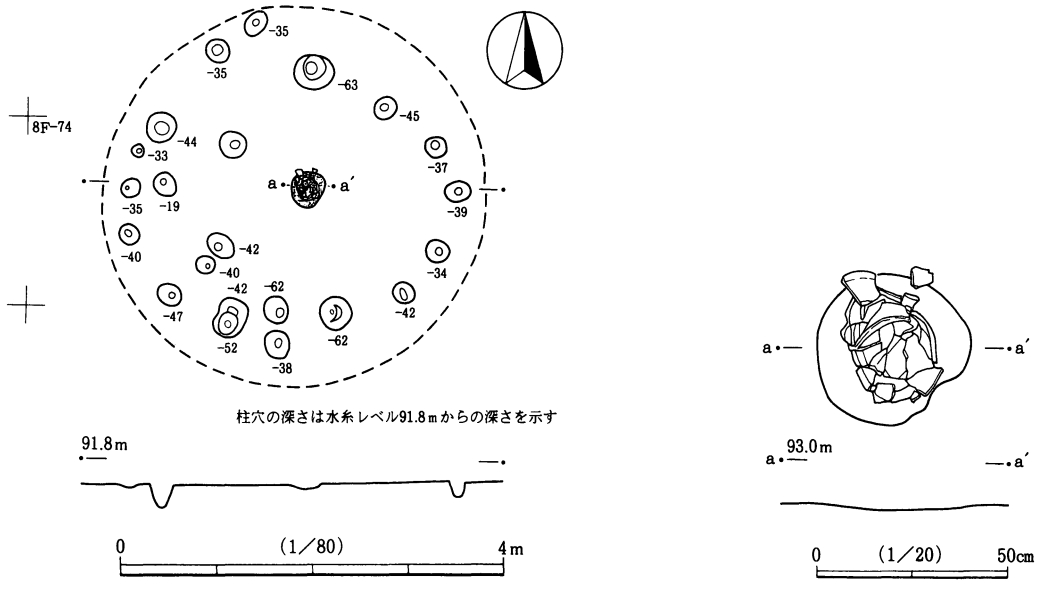


第15図　SI004出土石器

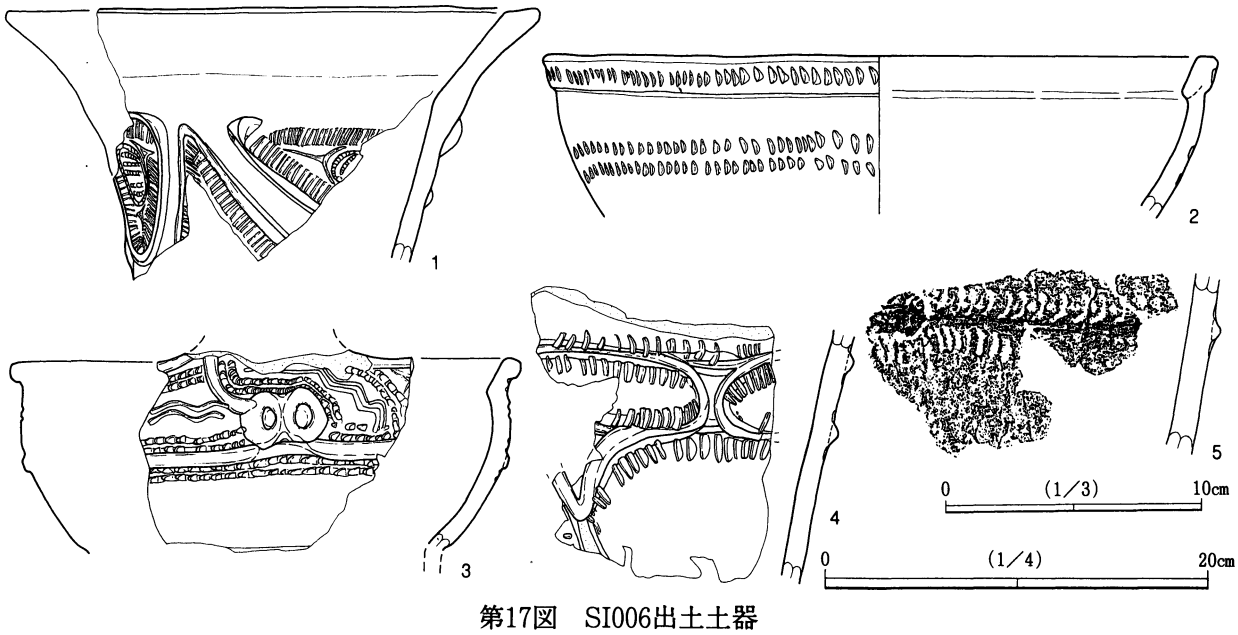
SI006（第16・17図，第１・２表，図版７・12・14）

SI004の北東側に接するようにあり，8F-75に位置する。柱穴と炉が検出されたのみである。平面形状は柱穴の位置などから，直径が4.0ｍの円形を呈すると考えられる。床面は，それとはっきりわかるものは検出できなかった。炉は住居のほぼ中央と思われる位置から検出されている。やや大きめな土器片が一周して埋設されている，土器片囲い炉である。

遺物は縄文土器が出土している。



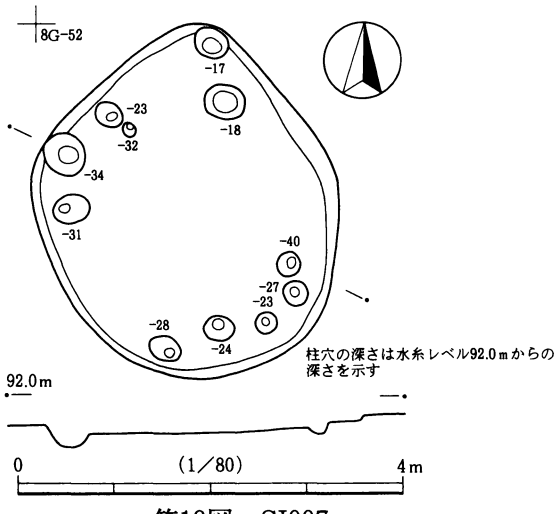
第16図　SI006



第17図　SI006出土土器

SI007（第18図，第１表，図版７）

SI002の南東側で重複する，8G-62に位置する。平面形状は長径3.4ｍ，短径3.1ｍを測る，やや楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大でも0.1ｍと非常に浅い。床面はほぼ平坦である。炉および壁溝は検出されなかった。柱穴は壁に沿うように11か所検出された。主柱穴は４本と考えられる。遺物は出土していない。

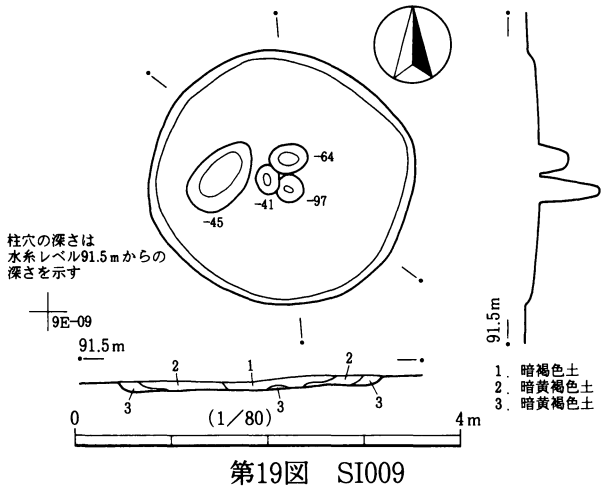


第18図　SI007

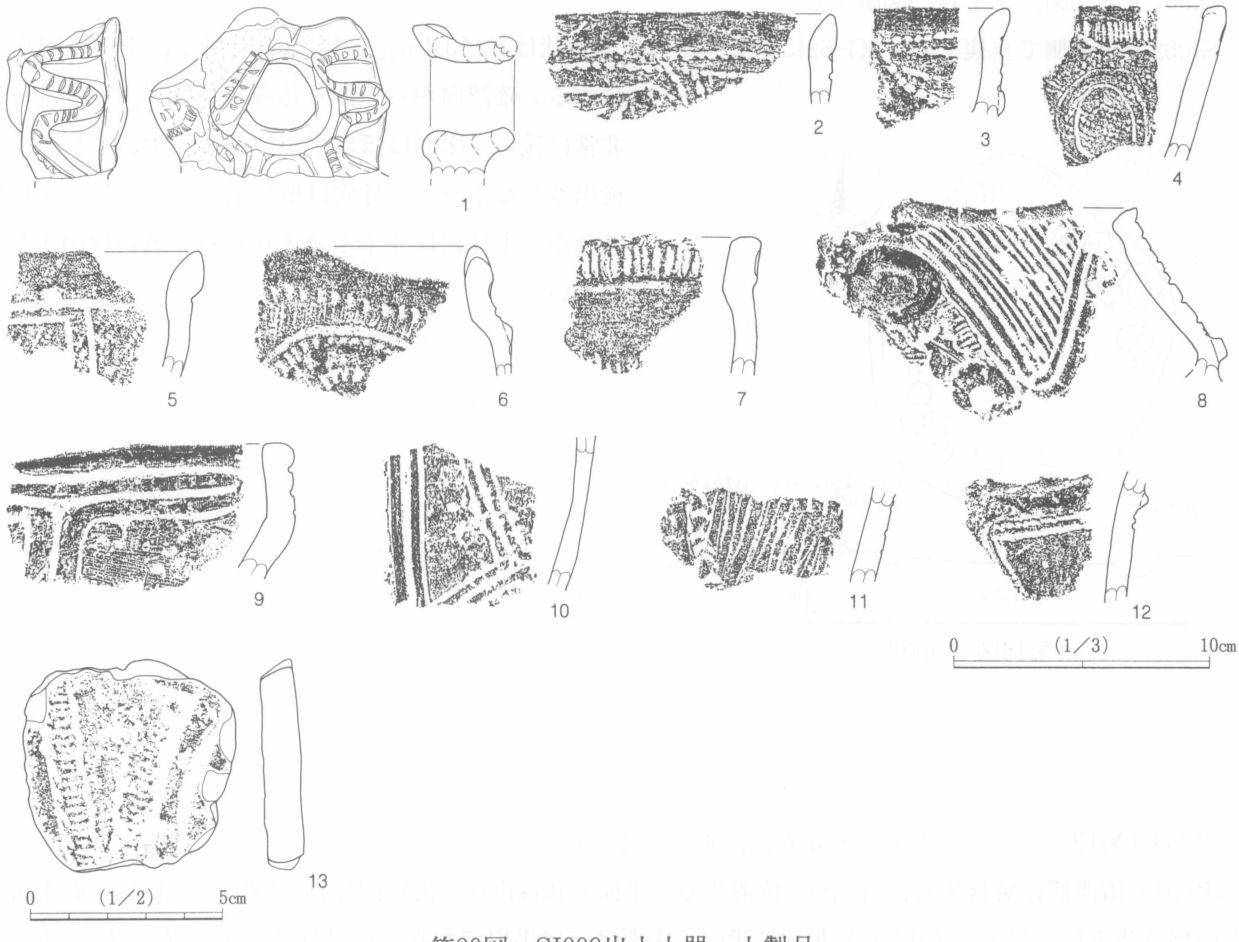
SI009（第19～21図，第１～３・５表，図版７・12・15・26）

SI004の南西側に隣接する，8F-90に位置する。平面形状は直径が2.4ｍの円形と考えられる。確認面からの掘り込みは，最大でも0.1ｍと非常に浅い。床面はほぼ平坦である。炉は検出されなかった。柱穴は住居の中心付近にまとまって４か所検出されているが，主柱穴も含めて本住居に伴うものかどうか詳細は不明である。

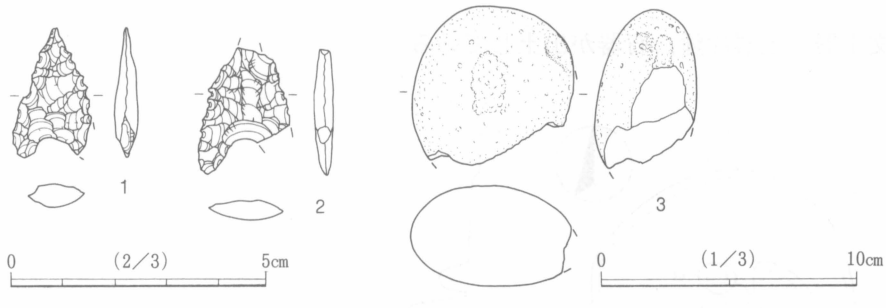
遺物は縄文土器，土器片錘，石器が出土している。



第19図　SI009



第20図　SI009出土土器・土製品

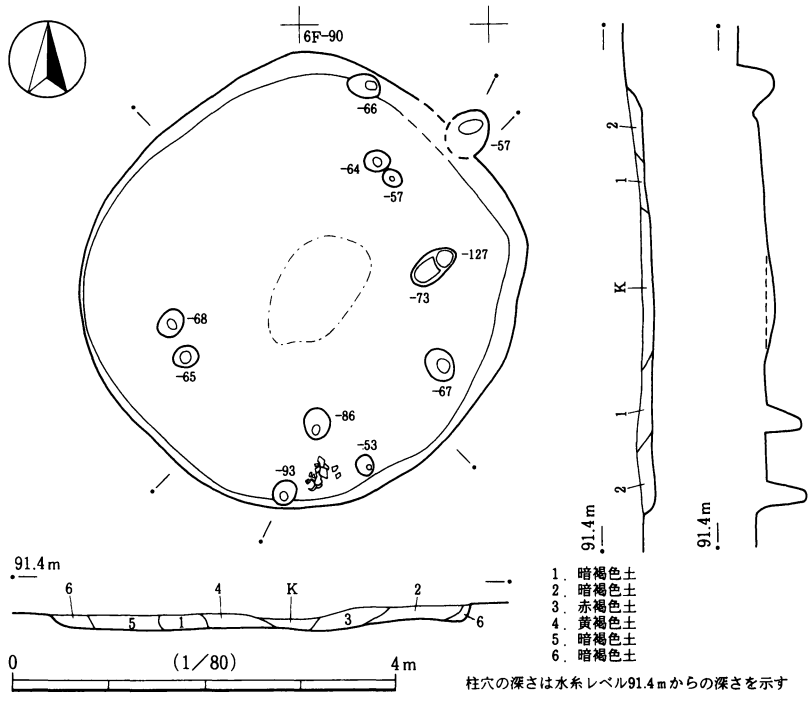


第21図　SI009出土石器

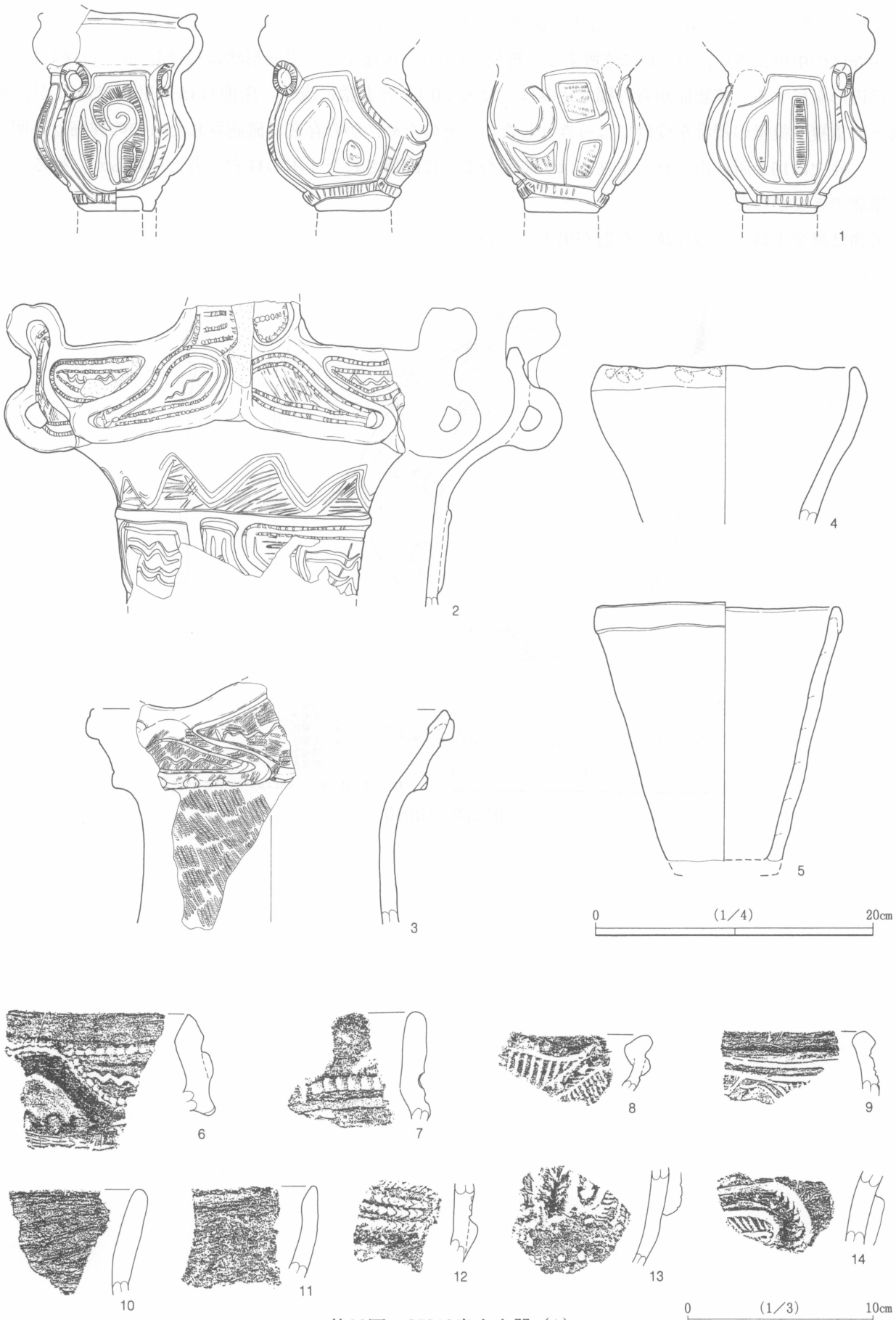
SI010（第22～25図，第１～３・５表，図版８・12・15・26）

調査区の中央に近い，7E-00に位置する。柵列SA-001と重複する。平面形状は長径4.5ｍ，短径4.4ｍのほぼ円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大で0.1ｍと非常に浅い。床面はほぼ平坦であるが，遺構との重複や後世の攪乱を受けてはっきりしない。そのため，炉の存在は確認されたものの詳細は不明である。柱穴は10か所検出され，主柱穴は炉を囲むように配置された４本の柱穴と考えられるが，残る１本が確認できなかった。

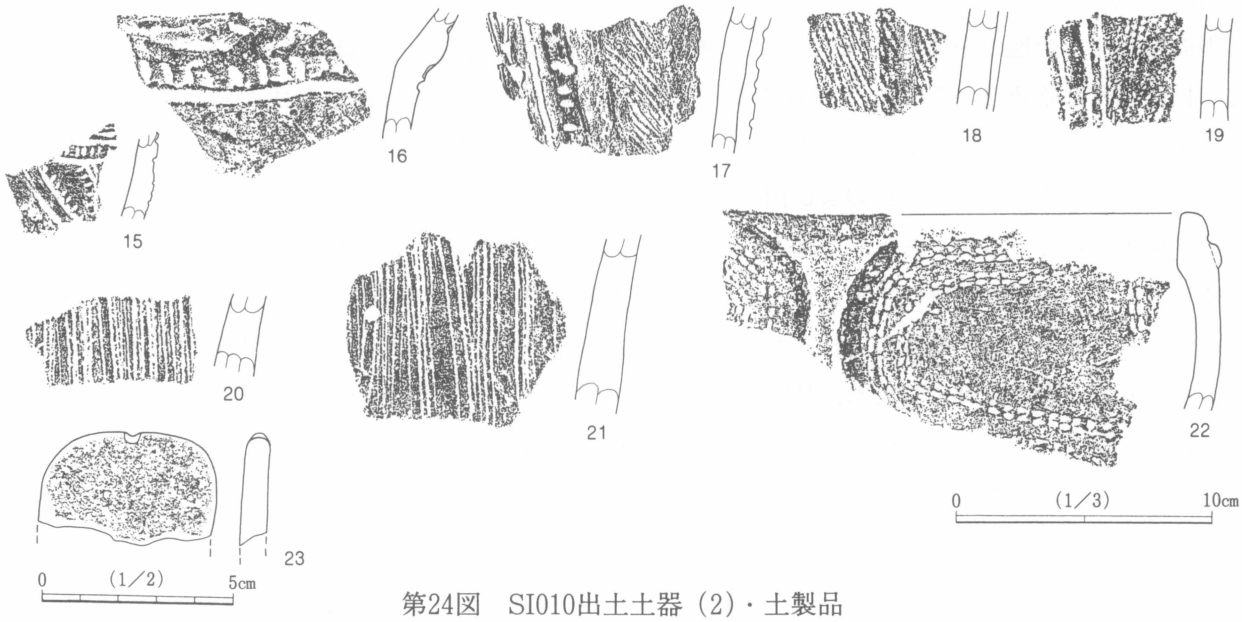
遺物は縄文土器，土器片錘，石器が出土している。



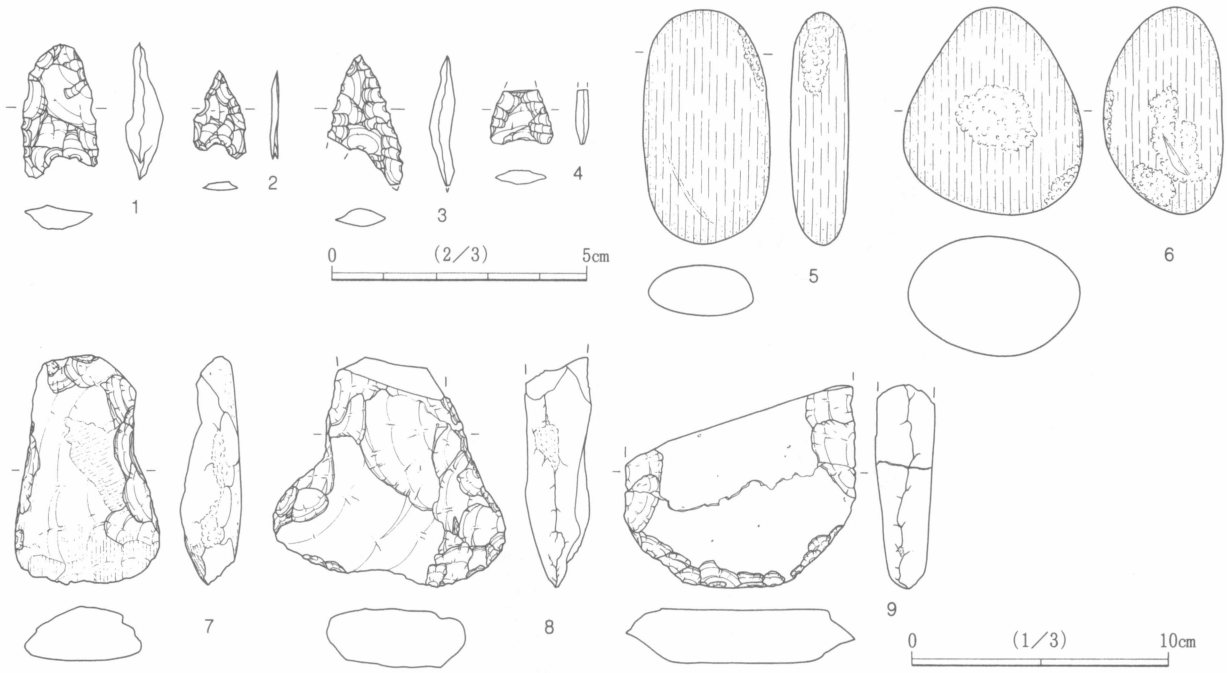
第22図　SI010



第23図　SI010出土土器（1）



第24図　SI010出土土器（2）・土製品

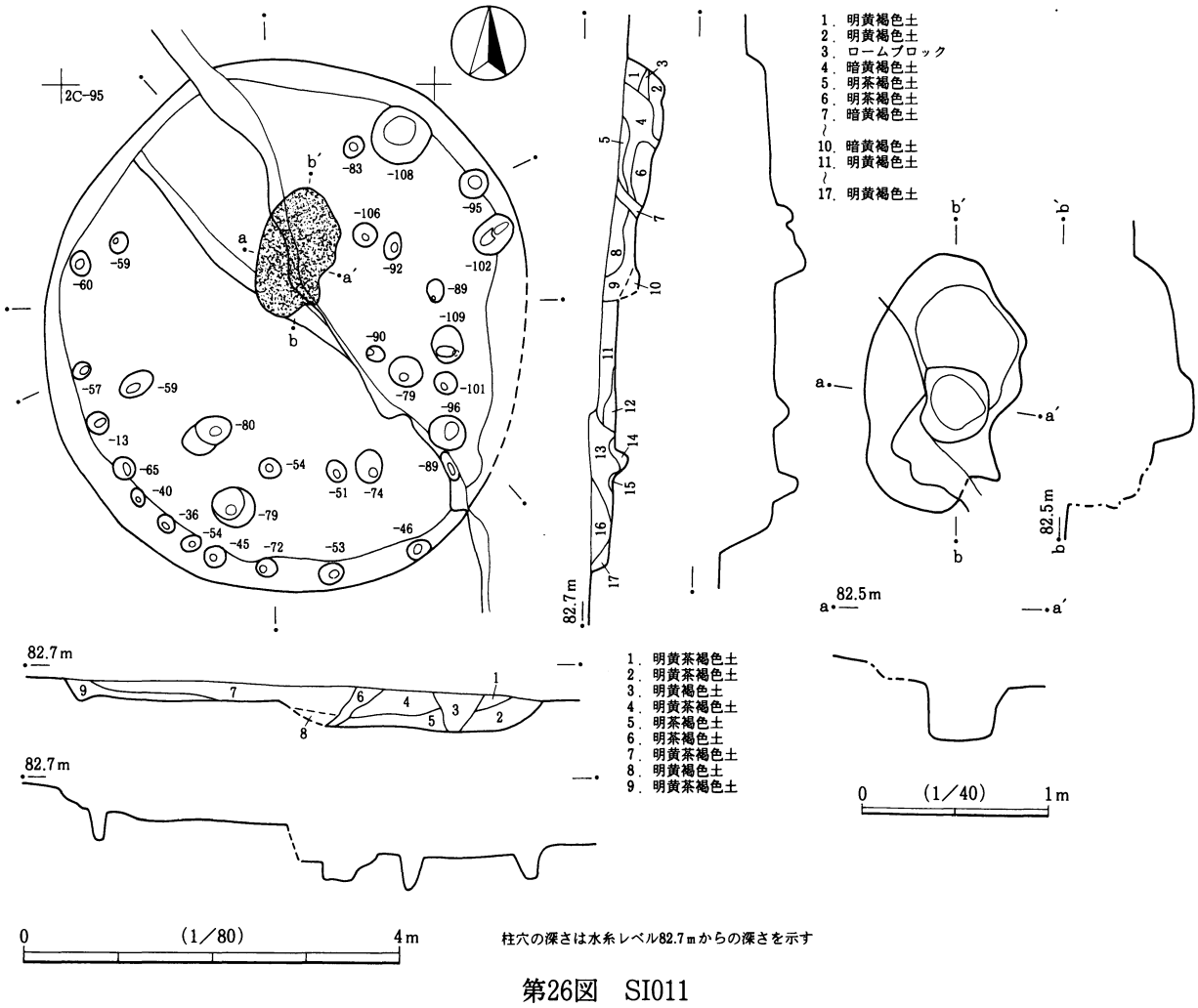


第25図　SI010出土石器

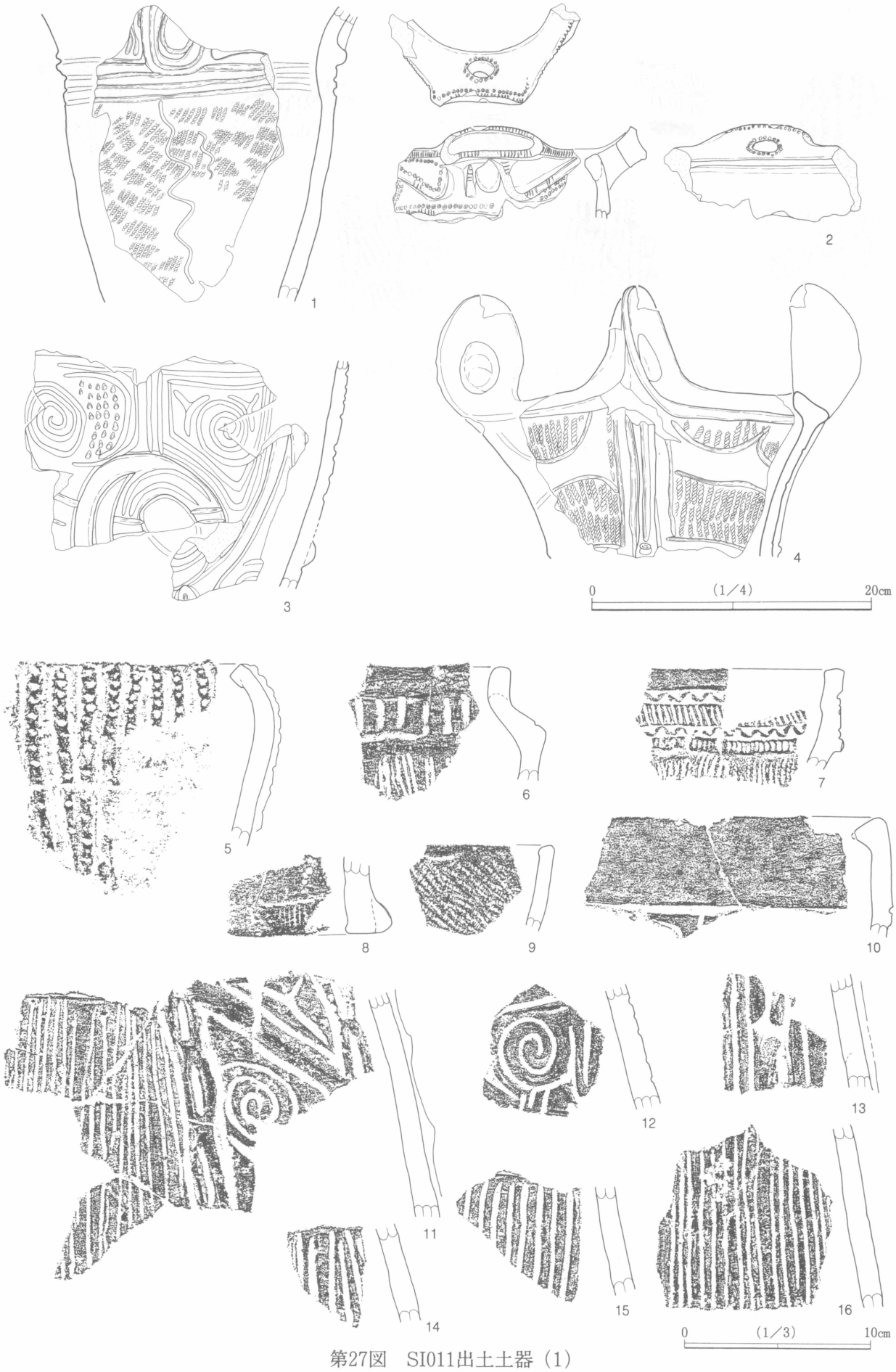
SI011（第26～30図，第１～３・５表，図版８・12・16・26）

調査区北側，台地の先端に近い3C-06に位置する。平面形状は直径5.5ｍほどの円形を呈すると考えられる。掘り込みは確認面から0.3ｍと比較的浅い。ただし，本住居の中央付近を北西から南東にかけて，地震によるものなのか地割れが原因と思われる，南西側が高く北東側が低い，およそ0.2ｍの段差（地割れ）が生じているため，本来の形状および掘り込みの深さの詳細は不明である。炉は住居中央やや北寄りに地床炉が検出されているが，ちょうど地割れと重なり，攪乱を受けたようで詳細は不明である。柱穴は住居の壁に沿って，内側と外側に二重に巡るように炉の南側を中心に30か所検出された。住居は建て替えまたは拡張したと考えられ，最後の主柱穴が何本であったかは不明であるが，内側の配列の状況からいずれの住居とも６本が考えられる。なお，地割れと本住居の関係は，本住居の構築された以降であることが調査の過程で確認されているが，破棄後であるかなど詳細は不明である。

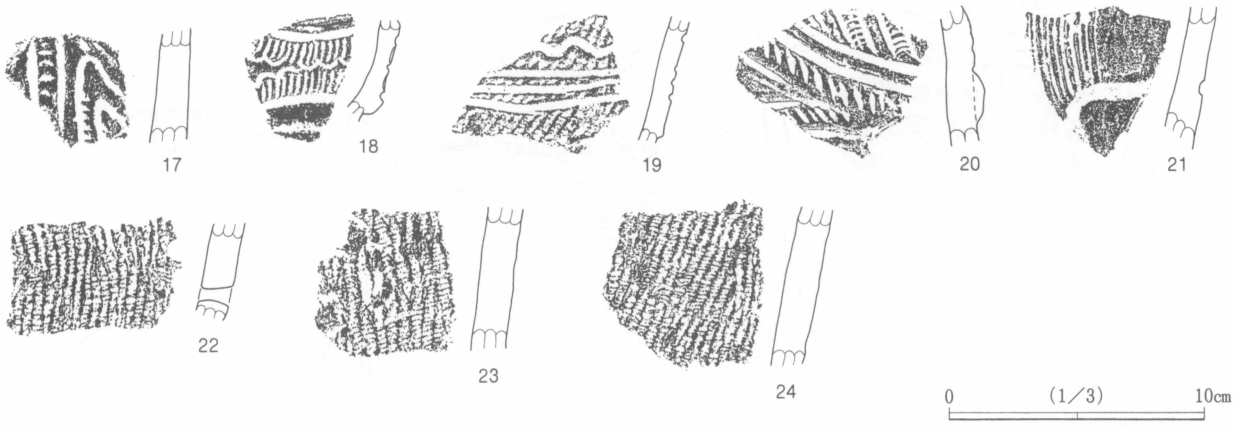
遺物は縄文土器，石器が出土している。



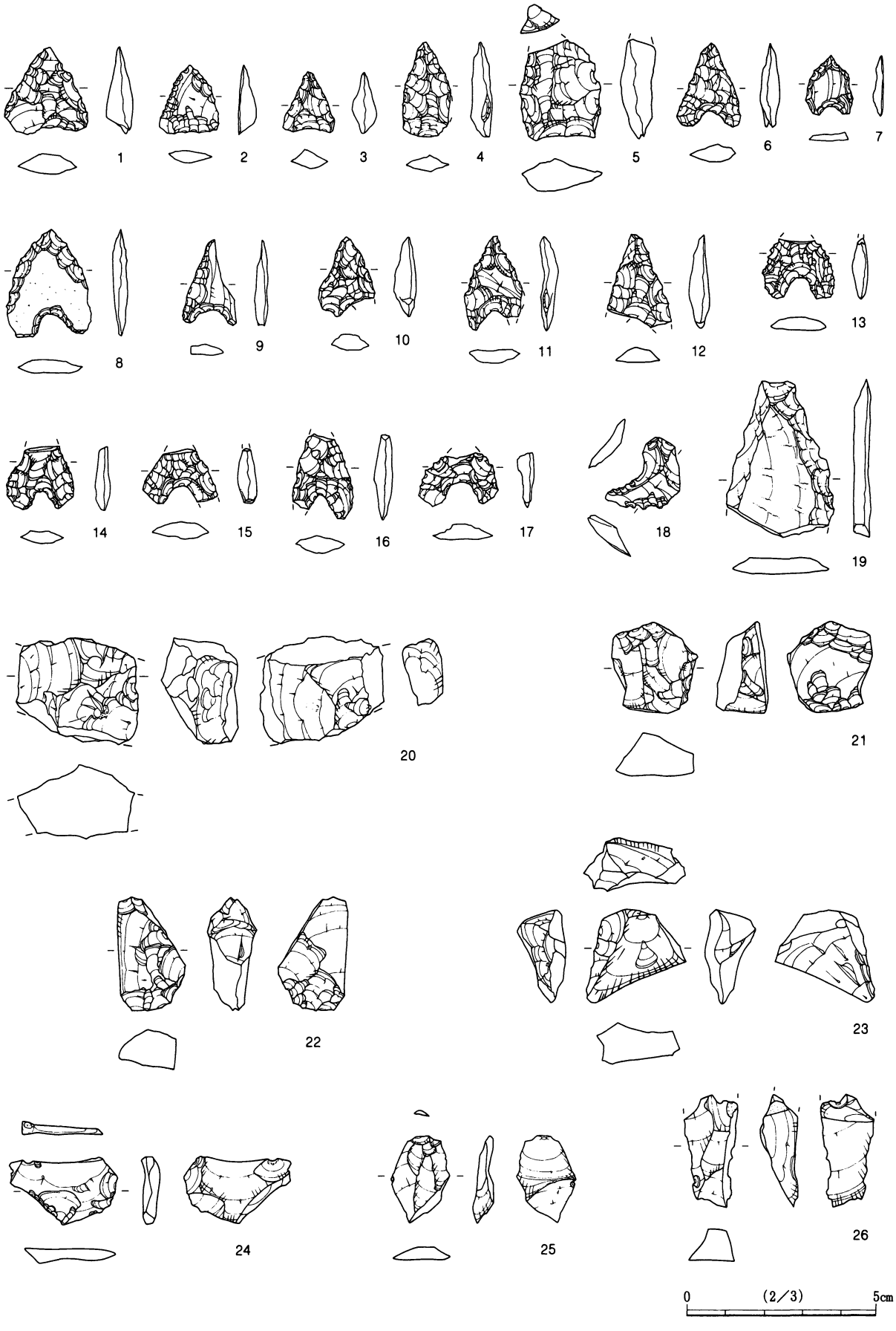
第26図　SI011



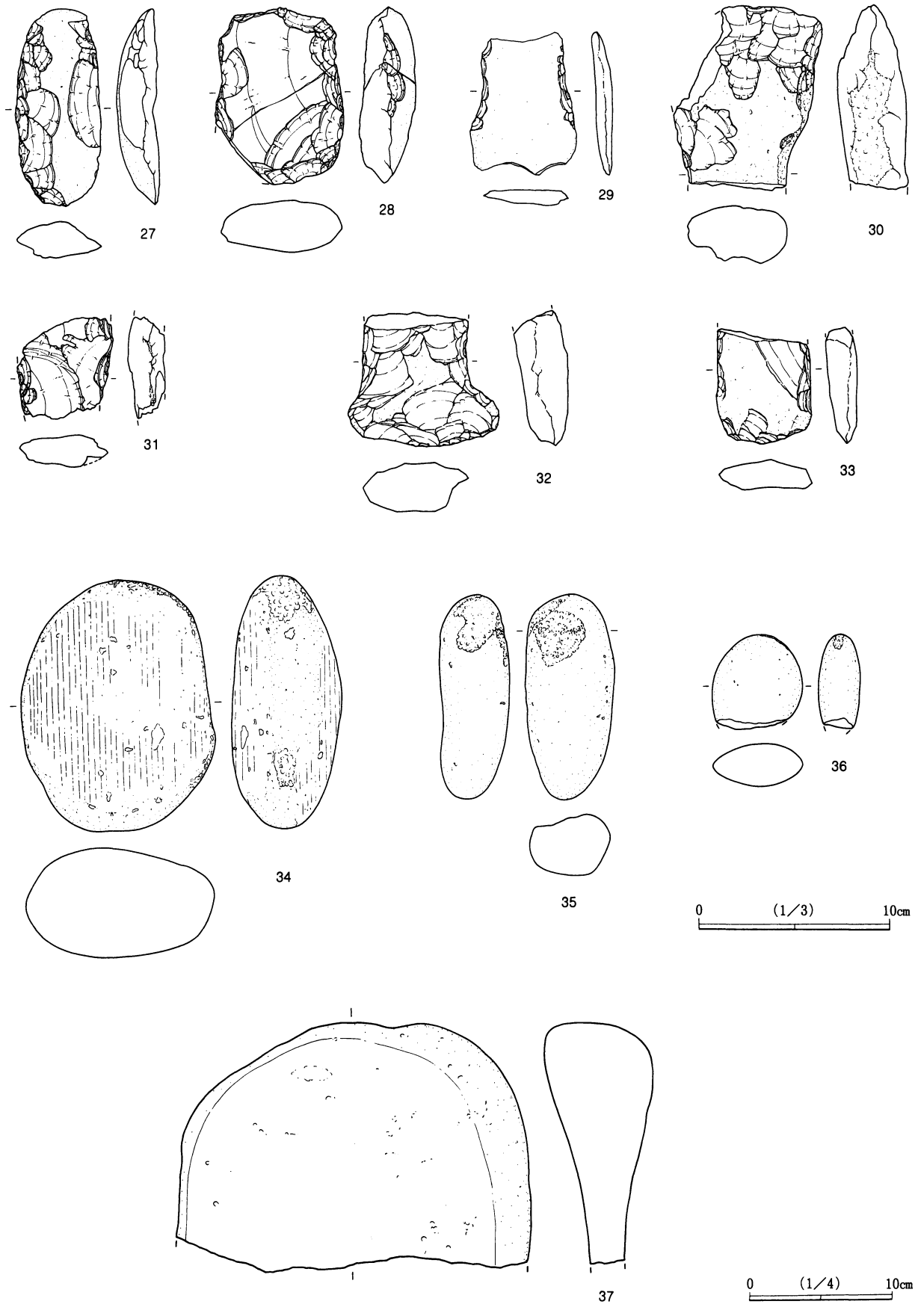
第27図　SI011出土土器（1）



第28図　SI011出土土器（2）



第29図　SI011出土石器（1）



第30図　SI011出土石器（2）

小竪穴（第３・６図）

小竪穴は，竪穴住居跡と重複または隣接した２基が検出されたのみである。その中でも，SK013は竪穴住居跡SI004と接し，また伴うピットに土器を埋設するなどの特徴も見られた。これらの小竪穴は，あるいは住居跡の可能性もある。

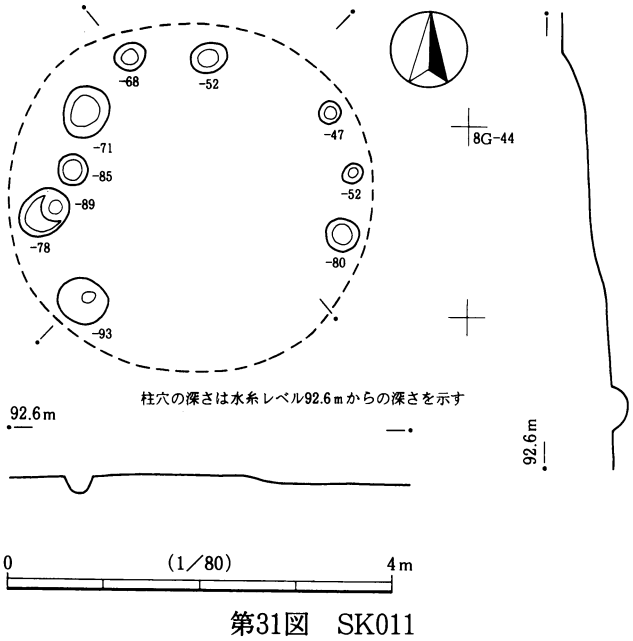
SK011（第31図，第１表，図版９）

竪穴住居跡SI002の東側で重複し，南側では竪穴住居跡SI007と隣接する。8G-42に位置する。ピットのみの検出で，その位置などから平面形状は直径およそ1.9ｍの円形を呈すると考えられる。ピットは９か所，遺構の壁に沿うように円を描くように検出されている。炉は検出されていないが，あるいは住居跡と思われる。遺物で図示できるものはなかった。

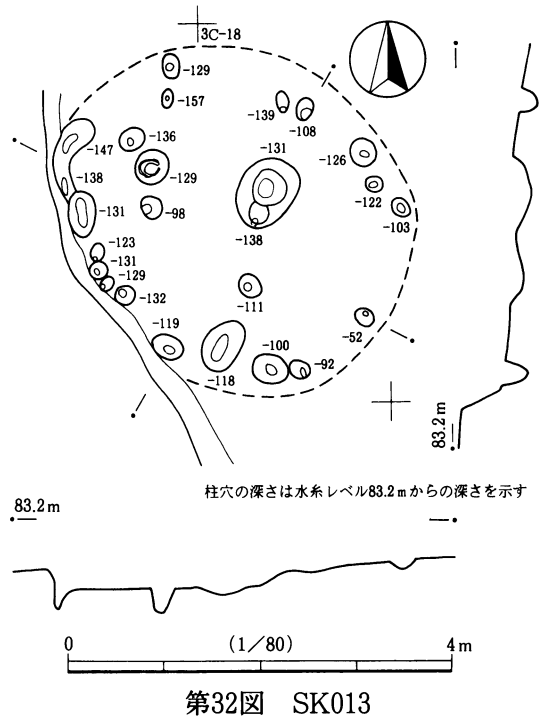
SK013（第32～34図，第１～３・５表，図版９・13・17・26）

調査区北側に位置する，竪穴住居跡SI011の南側に隣接している。3C-28に位置する。本小竪穴もSI011と同様に，地割れの痕跡を西側の壁付近に残している。平面形状は検出されたピットの位置などから，直径およそ3.5ｍの円形を呈すると考えられる。ピットは21か所検出されているが，その多くが遺構の壁に沿うようにほぼ円形を描くように検出されている。そのうちの北西部に位置し，やや内側に入っている若干大きめのピットからは，深鉢形土器の胴部分が埋設されていた。炉は検出されていないが，あるいは住居跡と思われる。

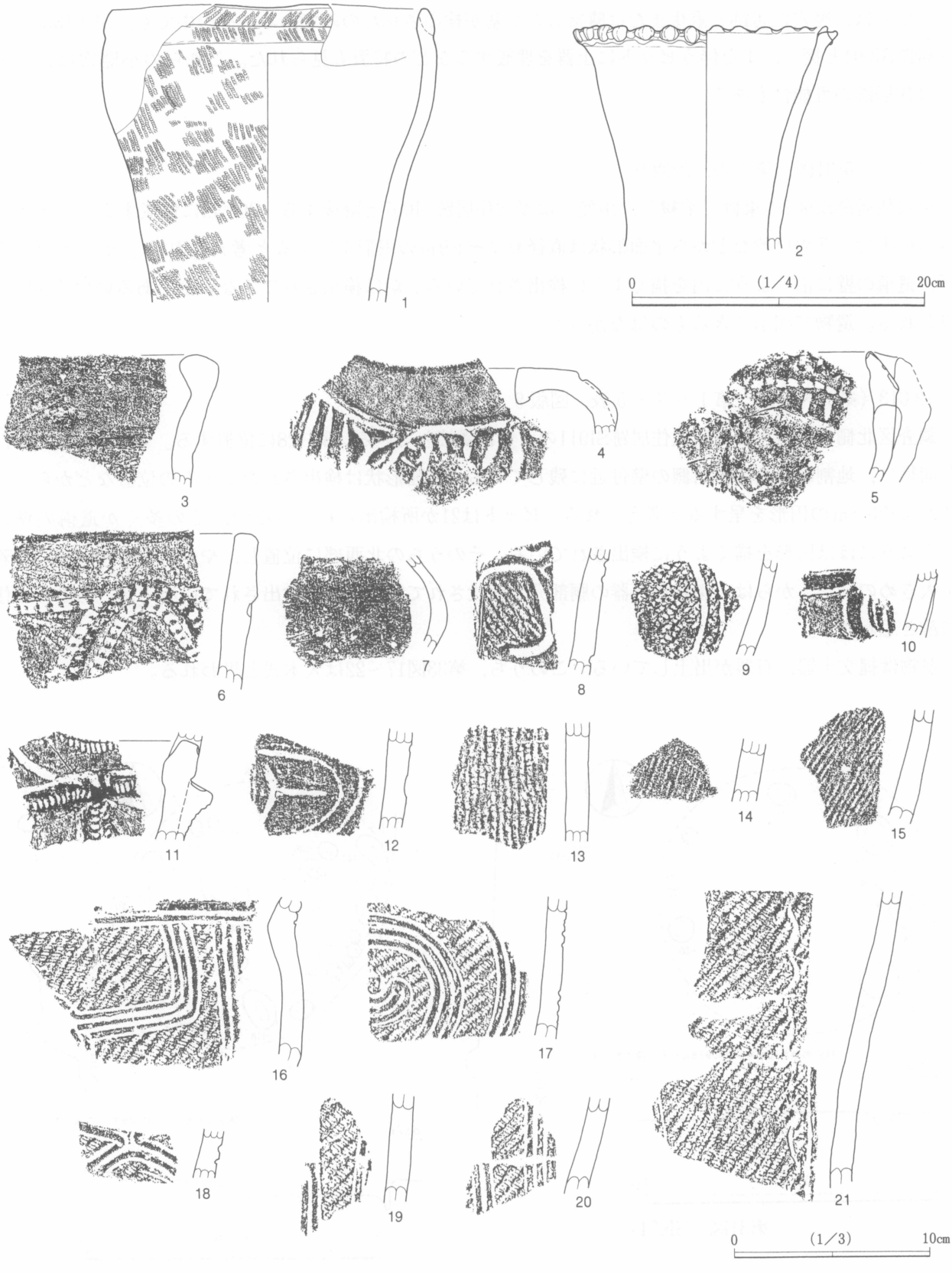
遺物は縄文土器，石器が出土している。このうち，第33図17～22は大木式と思われる。



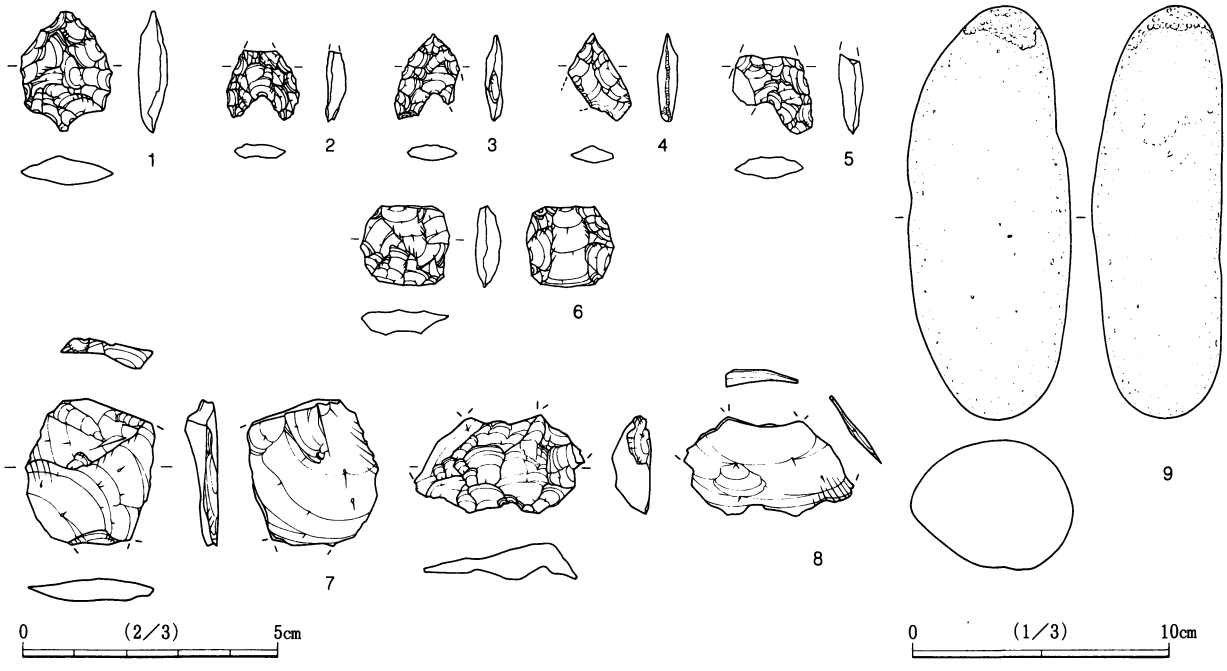
第31図　SK011



第32図　SK013



第33図　SK013出土土器



第34図　SK013出土石器

土　坑（第３・６図）

土坑は，調査区の南側に散在して５基検出されている。

SK004（第35図，第１表，図版９）

竪穴住居跡SI004の西側で，本土坑の東側一部が重複する。7F-81に位置する。平面形状は長径が2.0m，短径が1.6mを測る，不整の楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大でも0.1mと非常に浅い。西寄りに大きな浅いくぼみを伴い，北東壁際にピットが２か所検出されている。SI004との新旧関係は，土層断面観察により本遺構が新しい。遺物で図示できるものはなかった。

SK005（第35図，第１表）

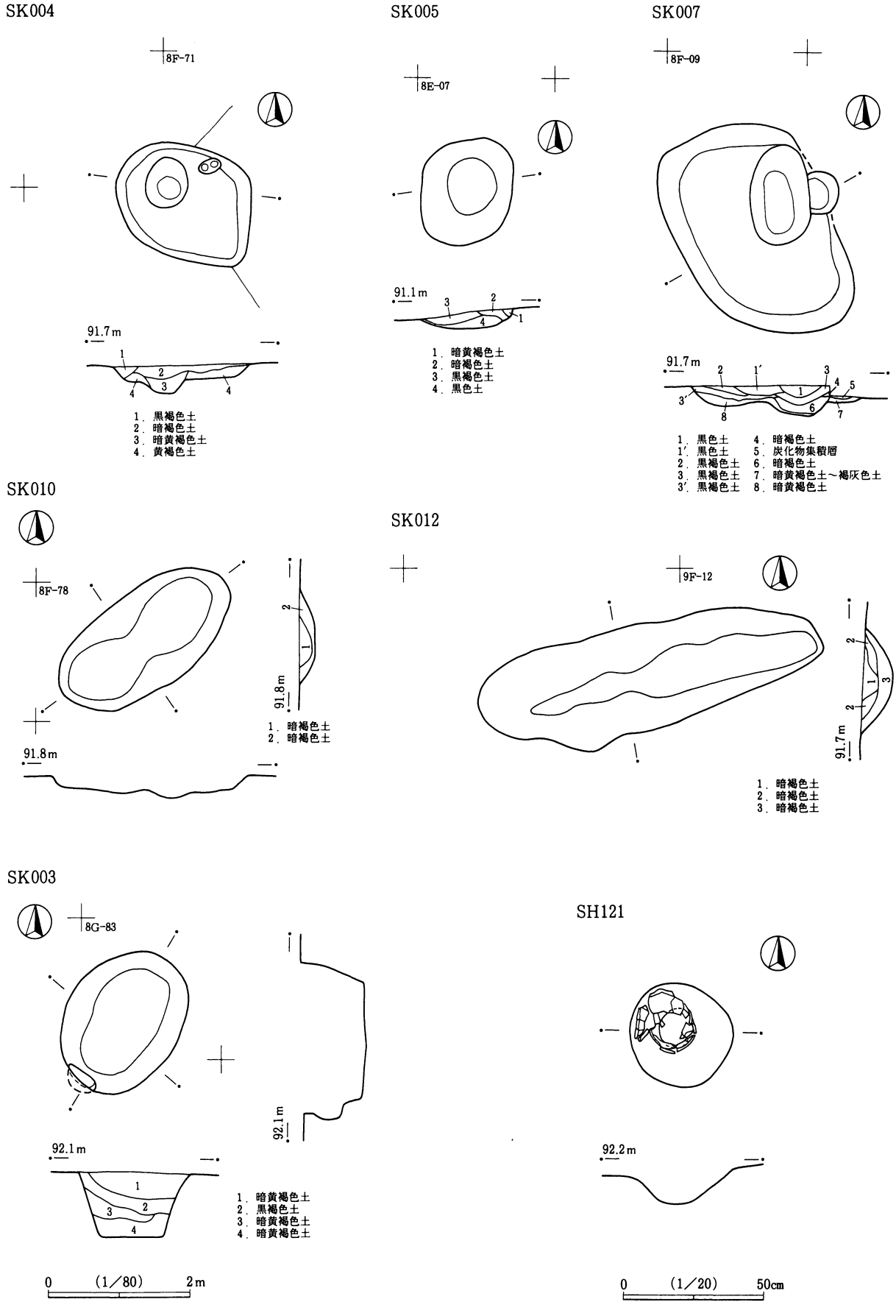
調査区南側，8E-07に位置する。平面形状は長径1.6m，短径1.3mを測る，楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大0.3mと比較的浅い。底面は鍋底状を呈しており，ピットなどの検出はなかった。遺物で図示できるものはなかった。

SK007（第35図，第１表，図版９）

竪穴住居跡SI004の南西側，9E-19に位置する。平面形状は長径3.2m，短径2.4mを測る，不整の楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大でも0.2mと浅い。床面はほぼ平坦である。北東側壁近くに，浅い大小の窪みが並んで検出されている。遺物で図示できるものはなかった。

SK010（第35図，第１表，図版９）

竪穴住居跡SI002の南西側に近い，9E-78に位置する。平面形状は長径2.9m，短径1.4mを測る，長楕円



第35図　SK004・005・007・010・012・003、SH121

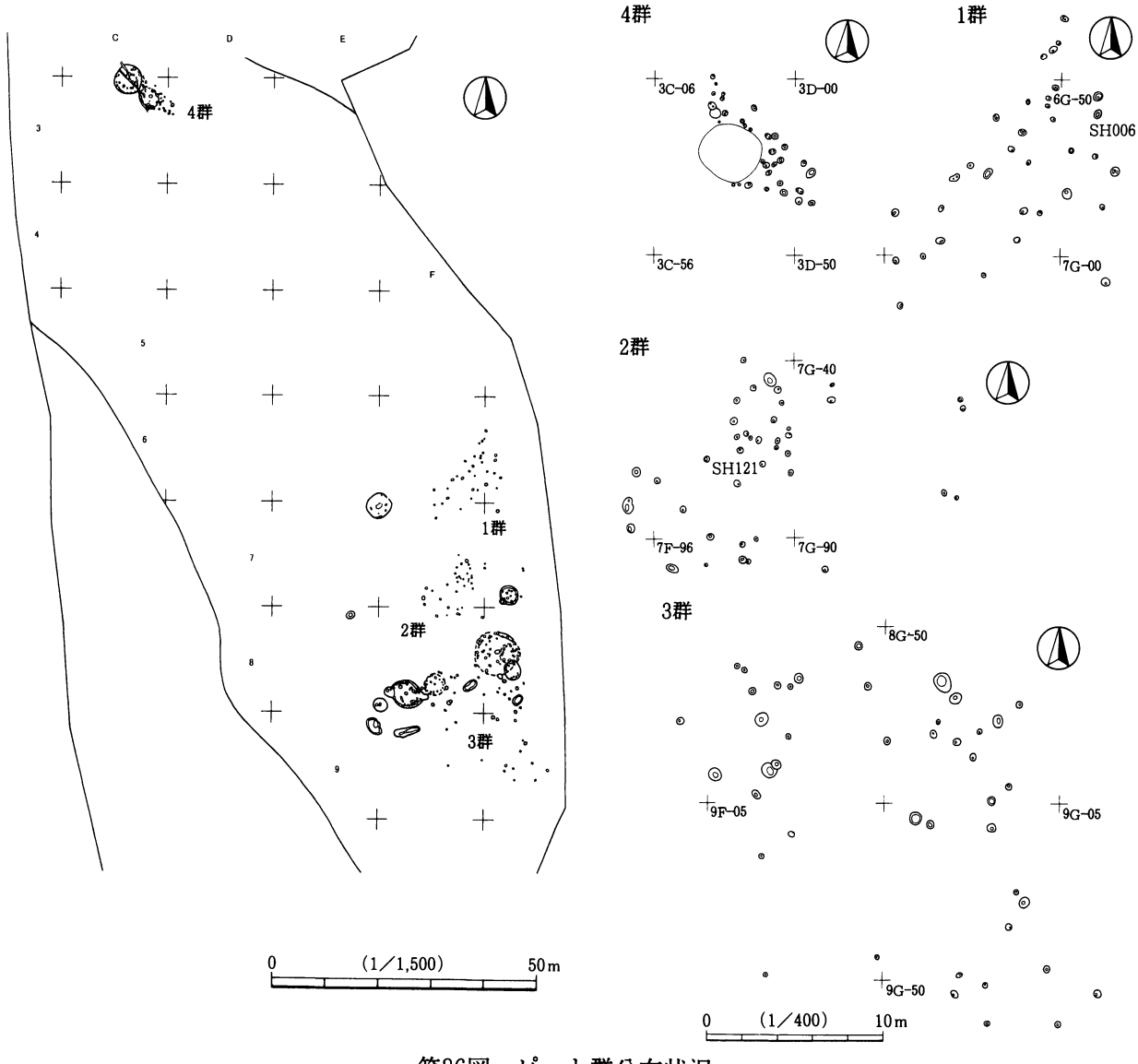
形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大で0.3mと比較的浅い。底面はやや凹凸があり，平面形状がヒョウタン状を呈する。ピットの検出はなかった。遺物で図示できるものはなかった。

SK012（第35・37図，第1表，図版9・17）

竪穴住居跡SI004の南側，土坑SK007の東側にやや離れる，9F-12に位置する。平面形状は長径2.5m，短径0.8mを測る，長楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，最大で0.3mと比較的浅い。底面は比較的平坦だが，不整形である。第37図1～4が出土した土器である。

陥　穴（第3・6図）

縄文早期の所産である陥穴が，調査区の南東端近くから1基のみ検出されている。



第36図　ピット群分布状況

SK003（第35図，第１表，図版９）

竪穴住居跡SI003の南側にやや離れた，8G-93に位置する。平面形状は長径2.1ｍ，短径1.7ｍの，長軸を北東－南西に持つ楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは，0.9ｍとやや深い。底面は平坦で，壁は外へ向かって緩やかに開きながら立ち上がる。底部にはピットなどの施設は検出されなかったが，南西の壁やや確認面近くに，壁に直交するように掘り込みが検出された。用途・目的の詳細は不明である。遺物で図示できるものはなかった。

ピット群（第３・６図）

ピット群は大きく４か所で検出されており，それぞれ１群～４群と呼称した。これらのピット群の一部は，住居跡の柱穴の可能性もある。なお，SH121は埋甕を伴う。

SH006・121（第35・36・37・38図，第１・２・５表，図版13・26）

SH006は１群のやや東側の，6G-51に位置する。遺物で図示できるものはなかった。

SH121は２群のほぼ中央の，7F-68に位置する。このうち，SH121の北側のピット群は，ほぼ円形を呈すことから住居跡の可能性もある。第37図５が出土した土器である。

石鏃製作跡（第６図）

今回の調査では，大量の石器，礫，土器類がまとまって発見された地点が４か所検出された。石鏃が多く発見されたことから，石鏃製作跡と呼称した。また，これらは北側１か所と南側３か所に分離され，それぞれ１群～４群とした。このうち，４群はさらに細分される可能性もあるが，明確に識別することはできなかった。

１群（第６・39・40図，第５表，図版８・27）

１群は遺跡の北西に位置する。比較的広い範囲に分布している。また，３群とともに多量の剥片類が出土している。

２群（第６・41図，第５表，図版27）

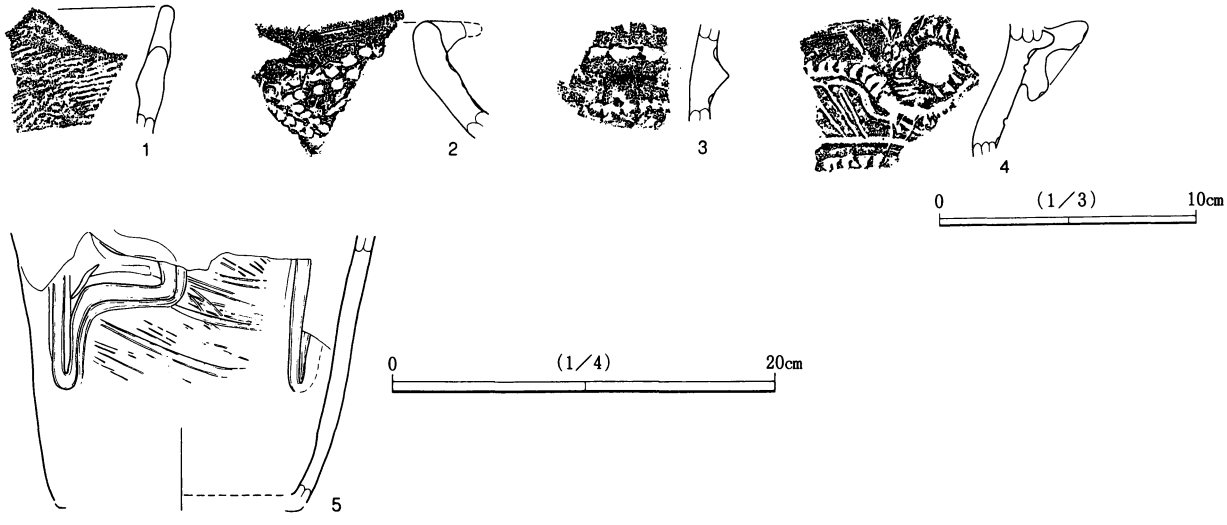
２群は３群に近接して，遺跡の南東に位置する。比較的狭い範囲に分布している。出土量も他の製作跡に比べ，少ない。

３群（第６・42図，第５表，図版27）

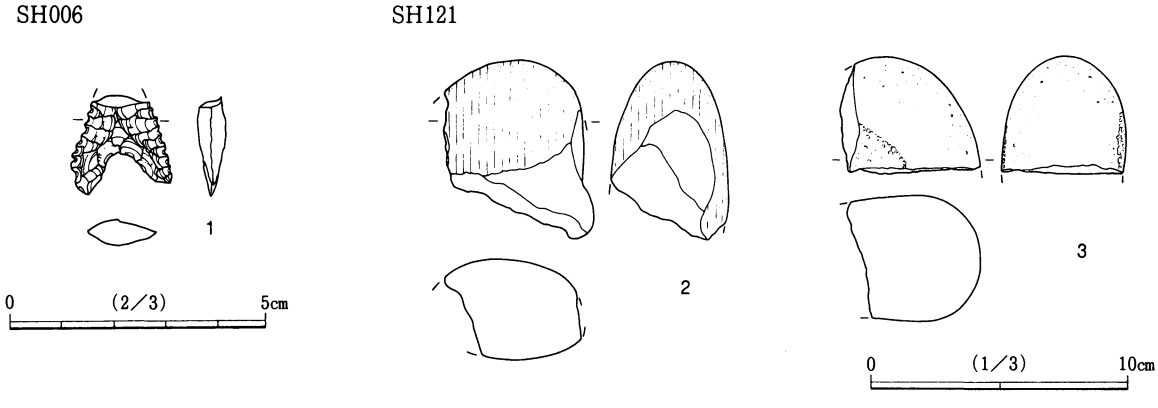
３群は遺跡の南東に位置する。また，１群とともに多量の剥片類が出土しているが，分布する範囲は比較的狭い。

４群（第６・43・44図，第５表，図版27）

４群は遺跡の南東に位置し，２・３群のさらに北側に分布する。散漫な分布状態を示しており，さらに細分される可能性もあるが，出土量は少ない。



第37図　土坑・ピット群出土土器（1～4 SK012，5 SH121）

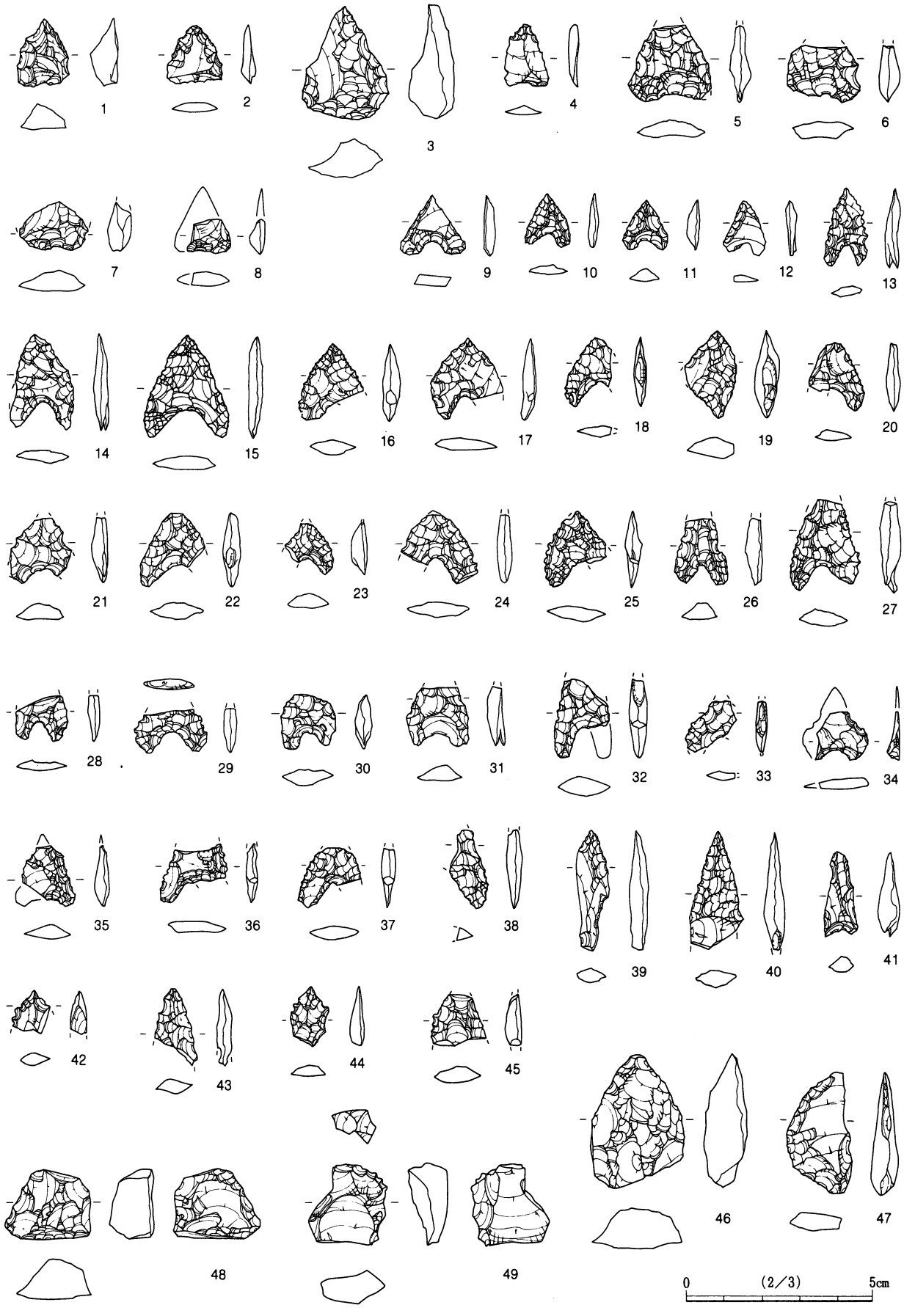


第38図　ピット群出土石器

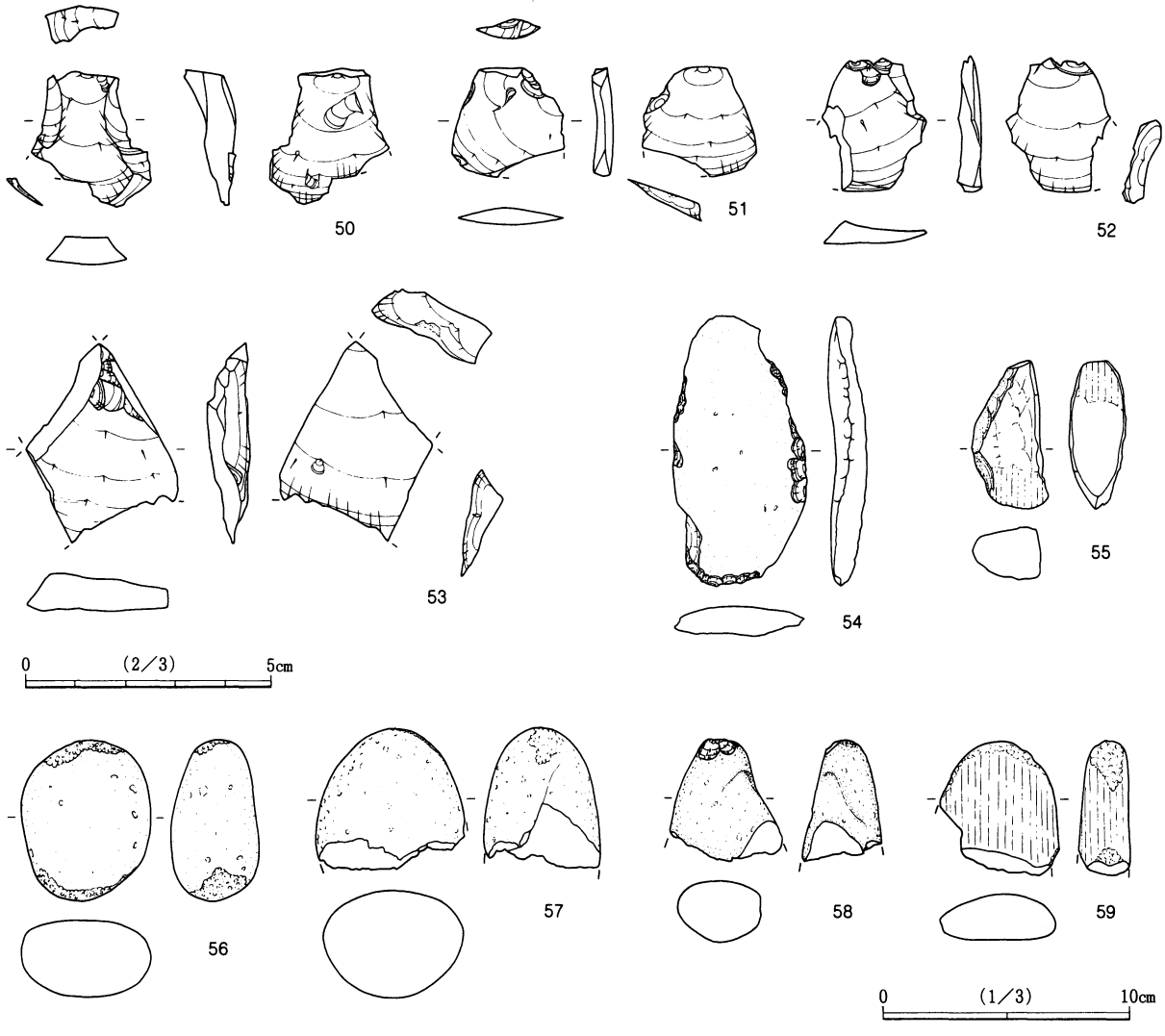
3　遺構外出土遺物（第45～58図，第２～５表，図版13・18～28）

遺構外からも縄文土器，土製品，石器などが出土しており，グリッド出土の遺物として扱った。

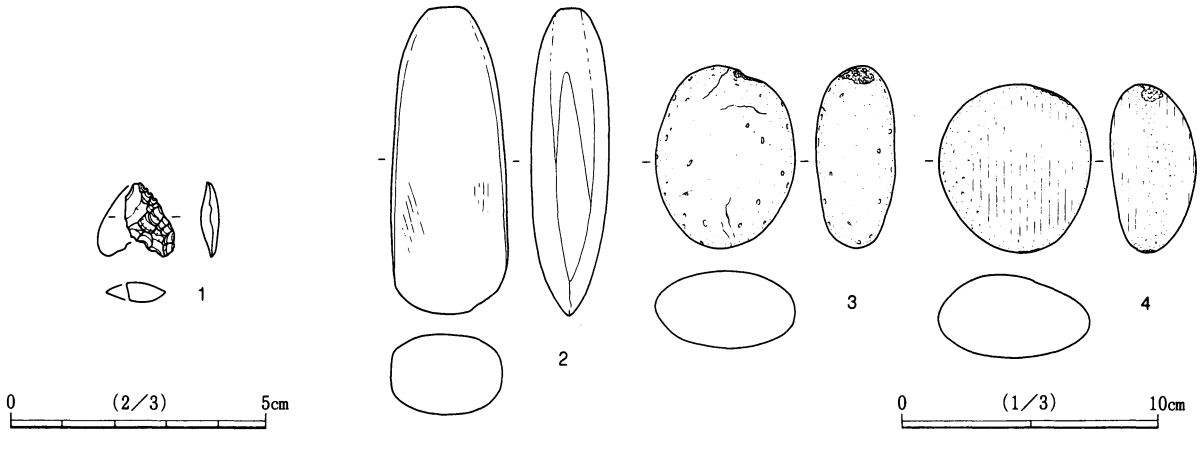
縄文土器は阿玉台式，勝坂式中期初頭から中葉にかけてのものが主体で，他にごく少量の早期と後期の縄文土器が発見されている。第45図に中期の比較的大型の土器を掲載した。第46図は早期の土器，第53図は後期の土器，第47～52図に中期の阿玉台式，勝坂式などの破片を掲載した。詳細は挿図，表，図版などを参照して頂くことにして，第45図４など，県内あるいは全国的にもほとんど類例のない資料が発見されている。



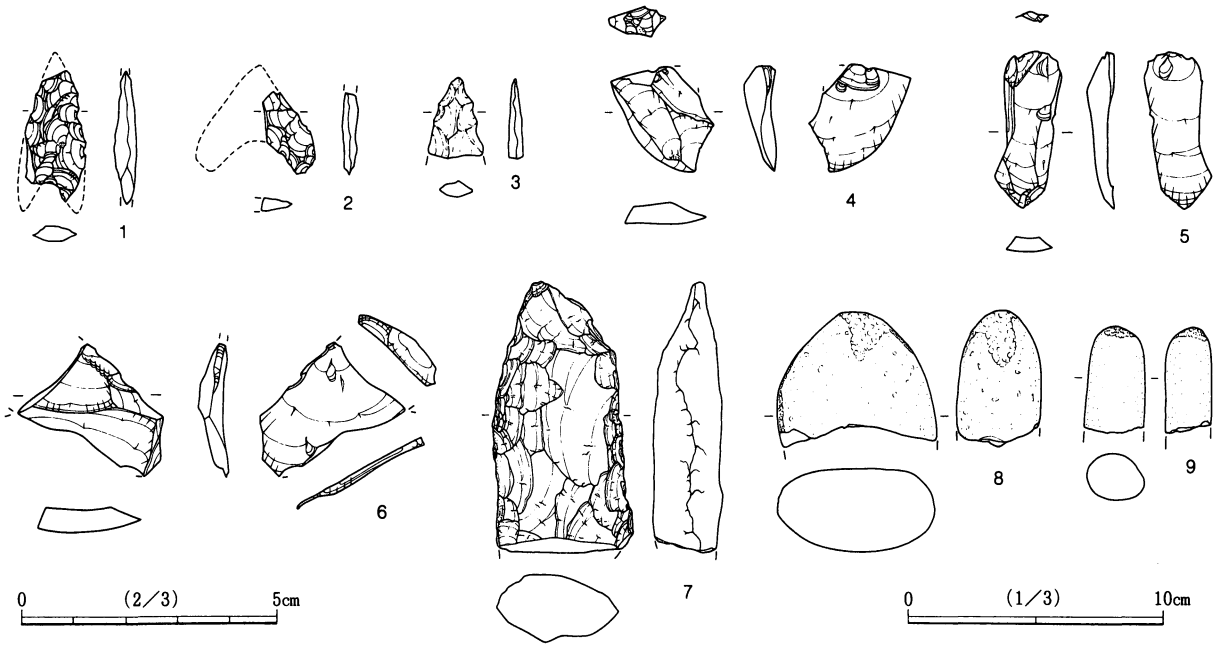
第39図　石鏃製作跡１群出土石器（1）



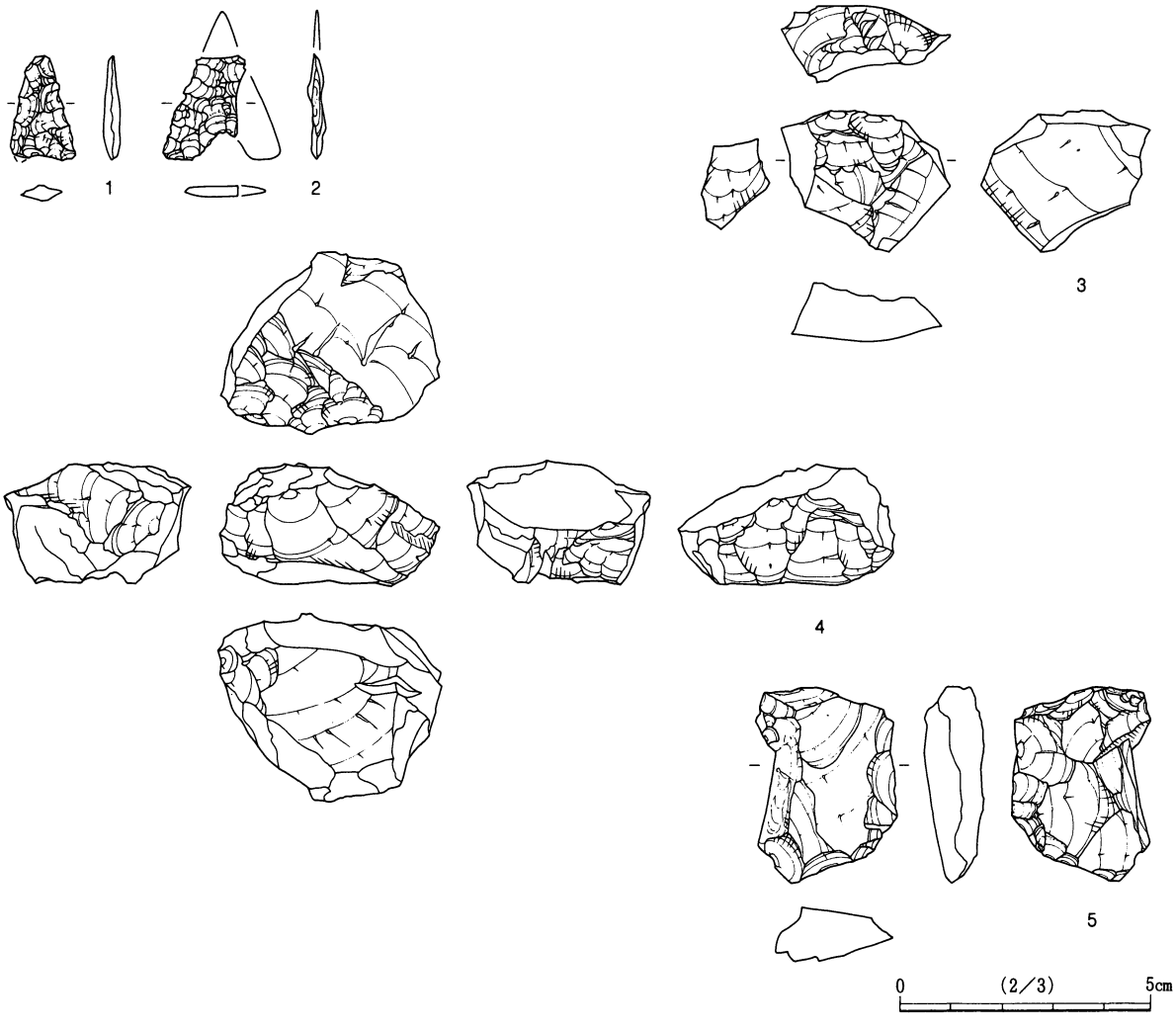
第40図　石鏃製作跡１群出土石器（2）



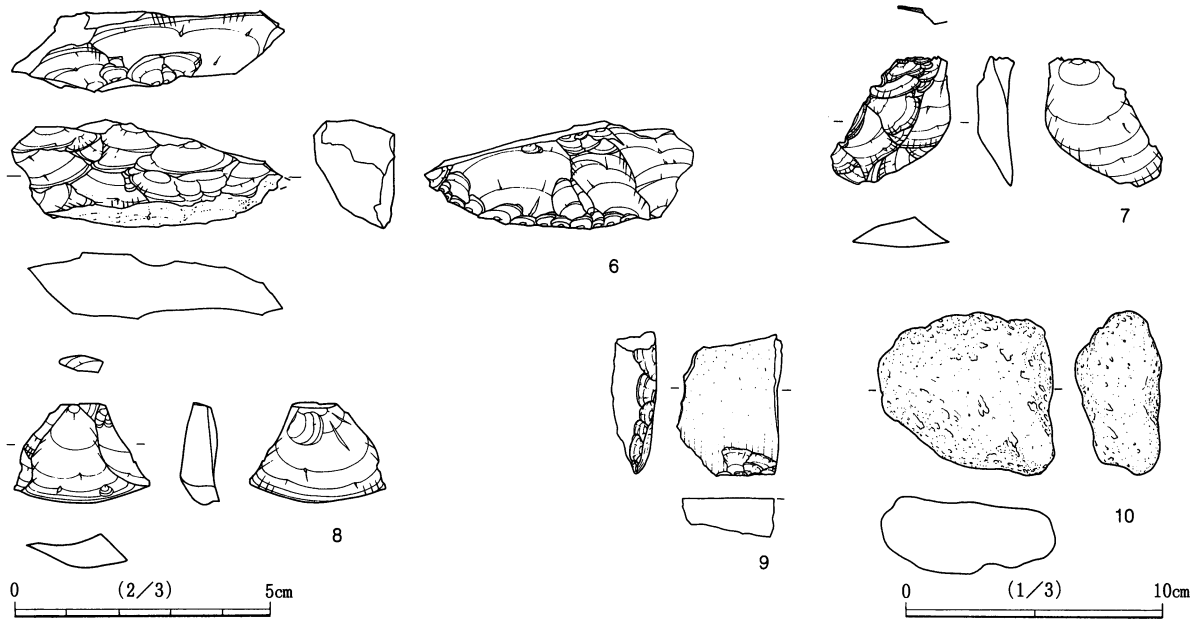
第41図　石鏃製作跡２群出土石器



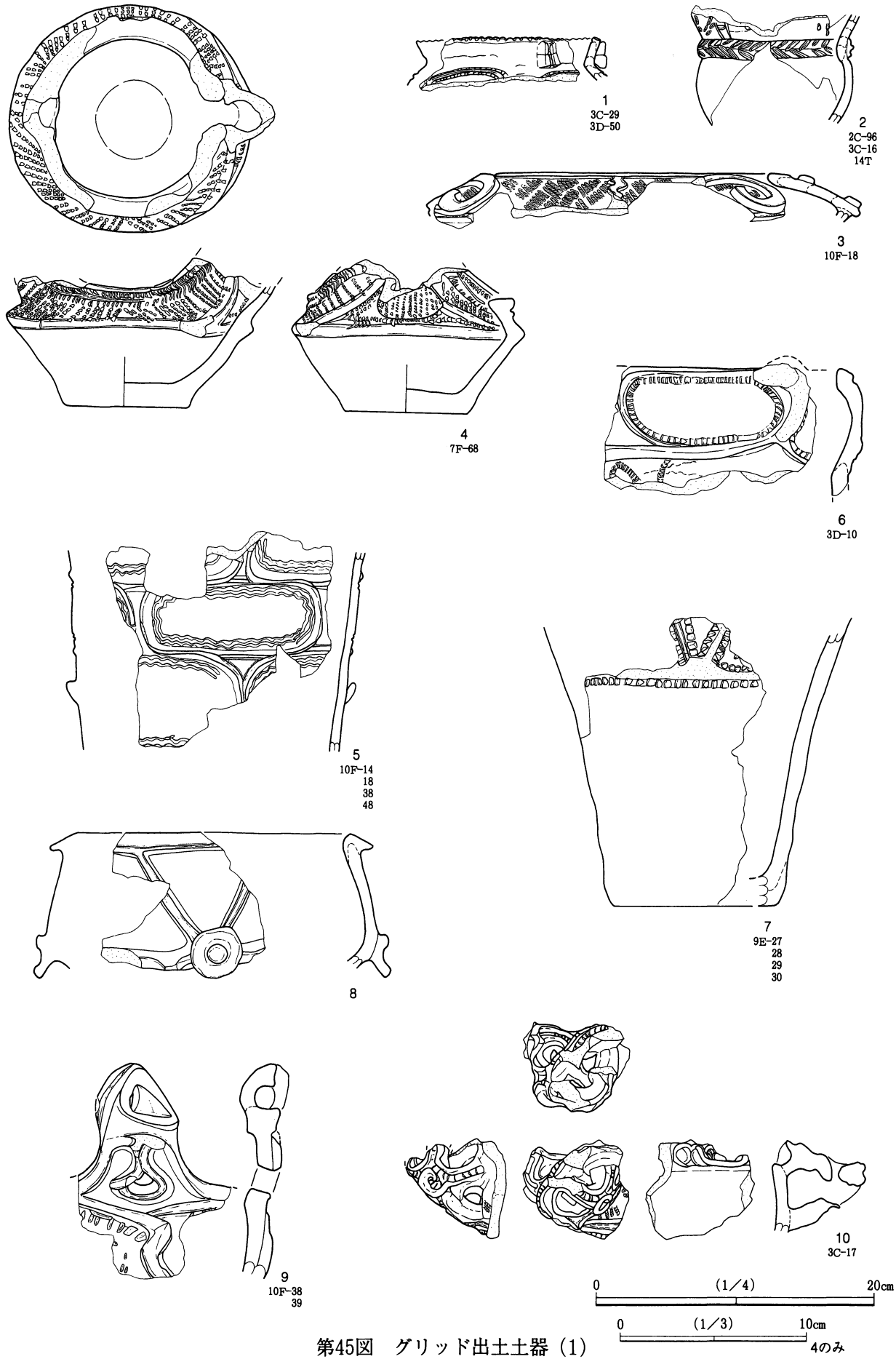
第42図　石鏃製作跡３群出土石器



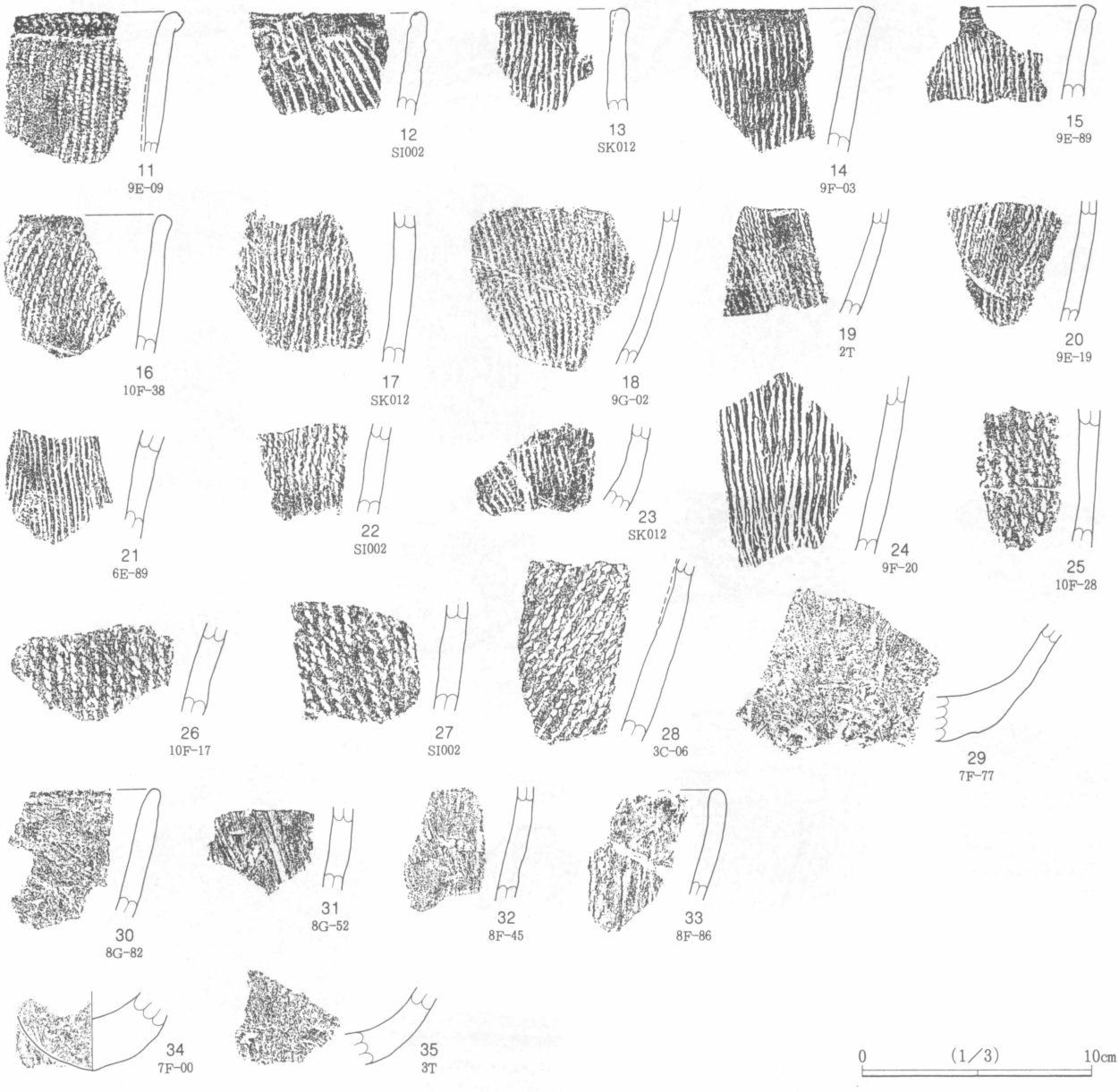
第43図　石鏃製作跡４群出土石器（1）



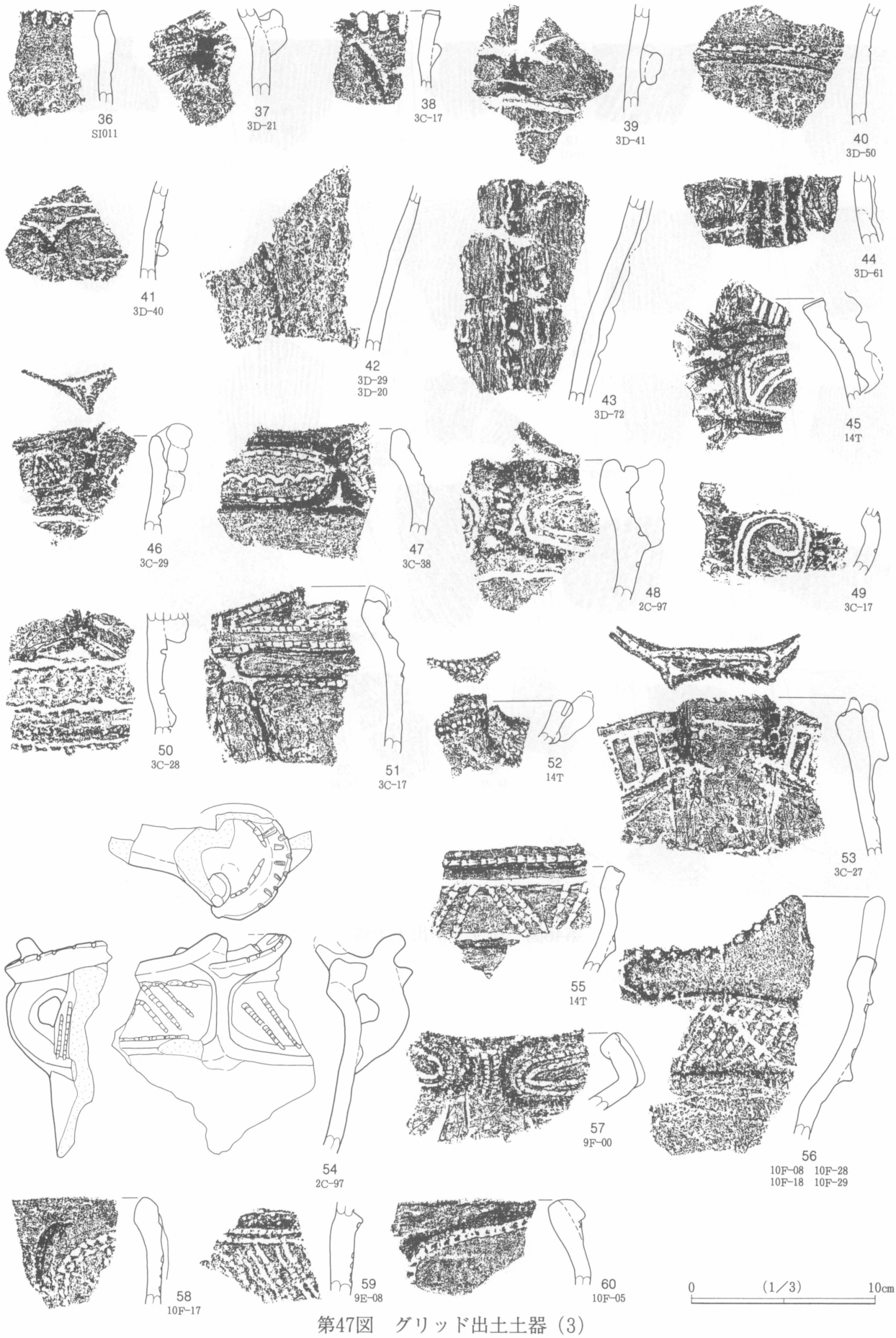
第44図　石鏃製作跡４群出土石器（2）



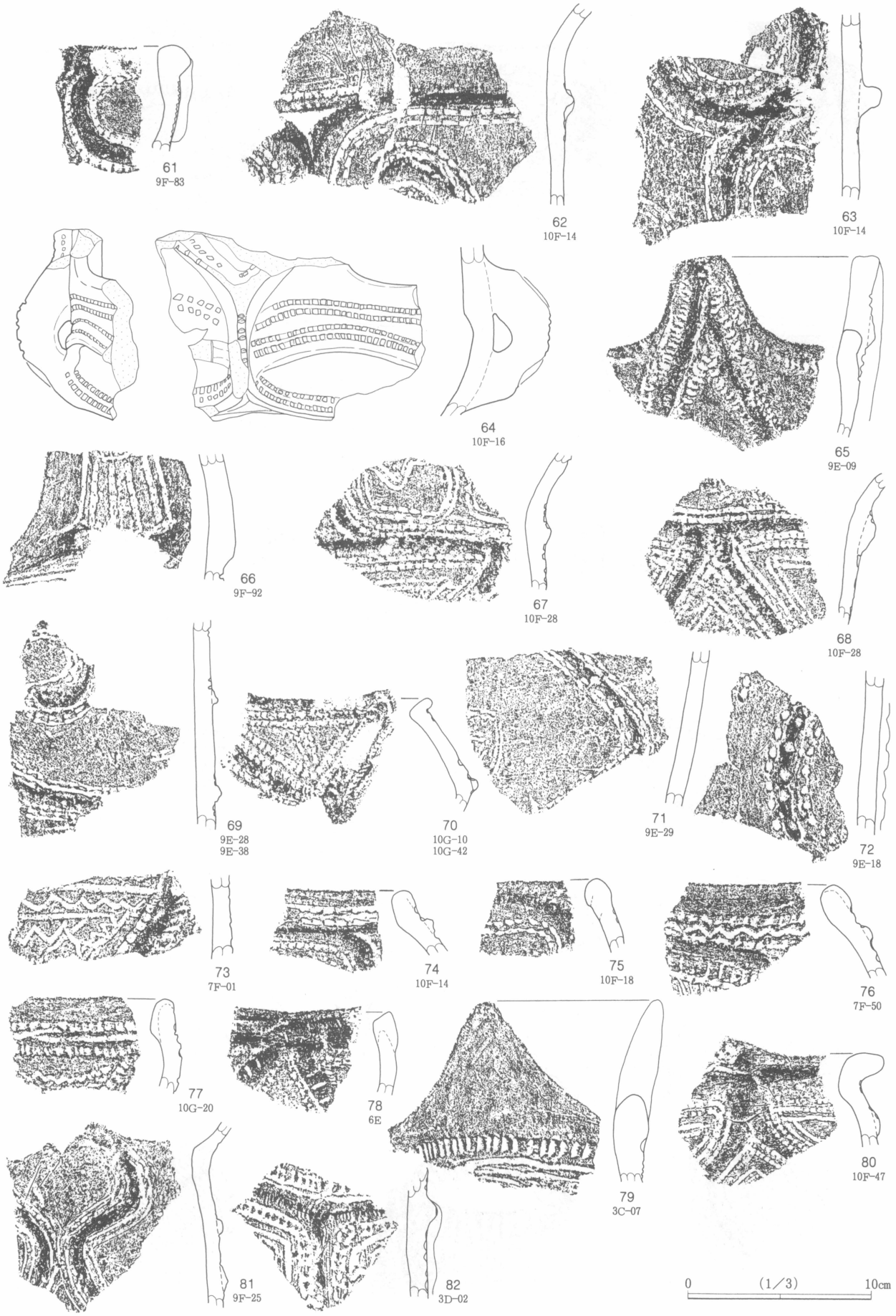
第45図　グリッド出土土器（1）



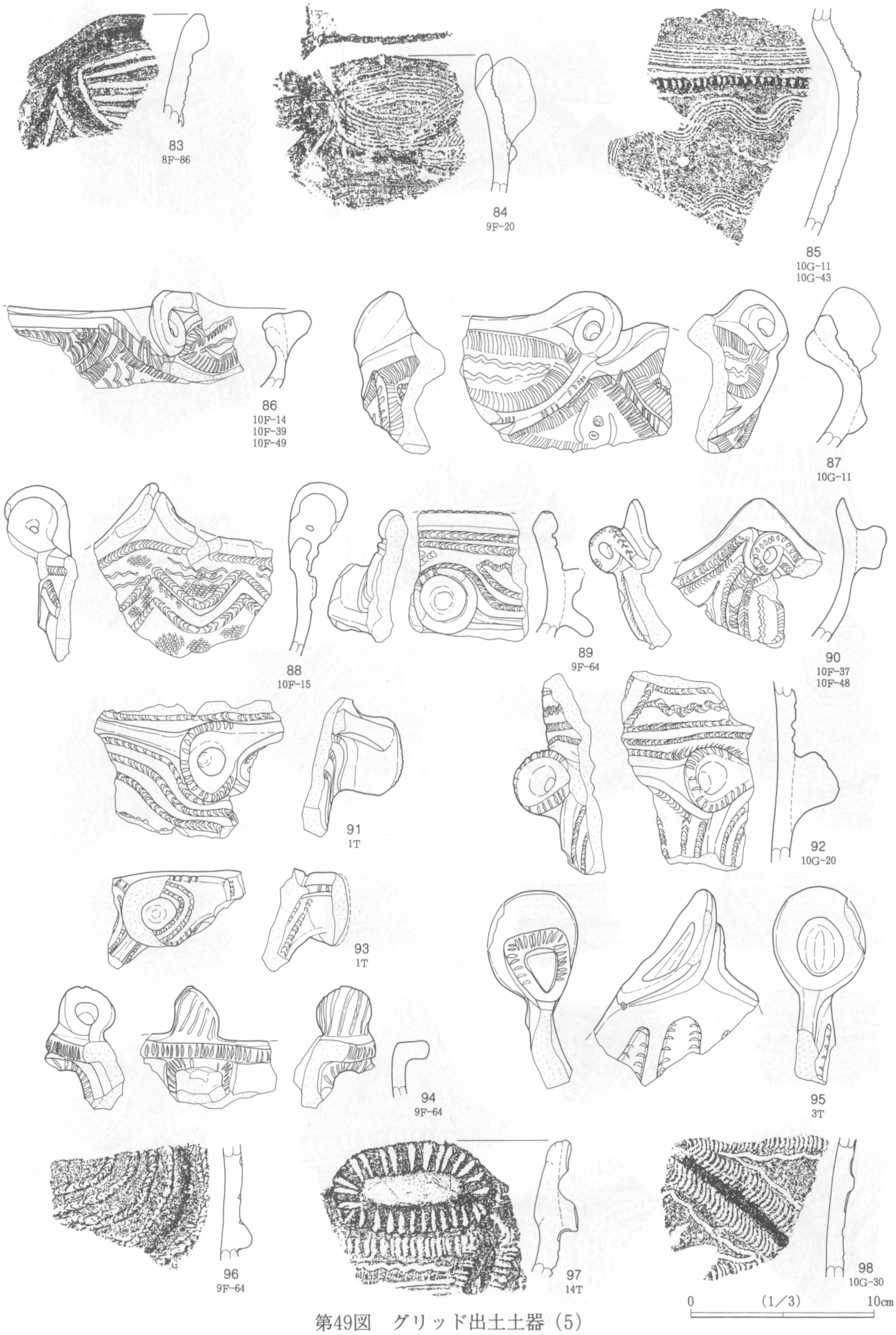
第46図　グリッド出土土器（2）



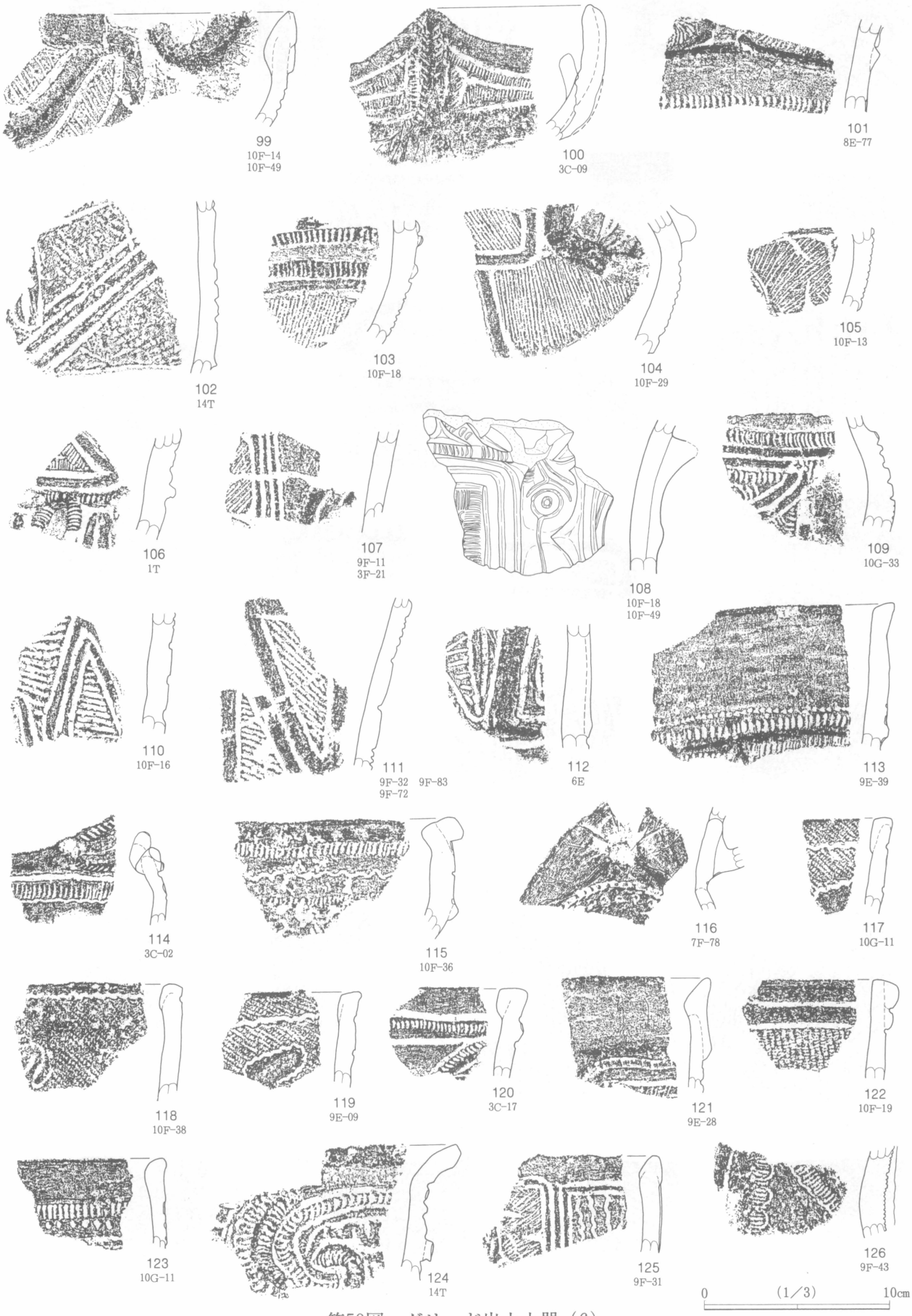
第47図　グリッド出土土器（3）



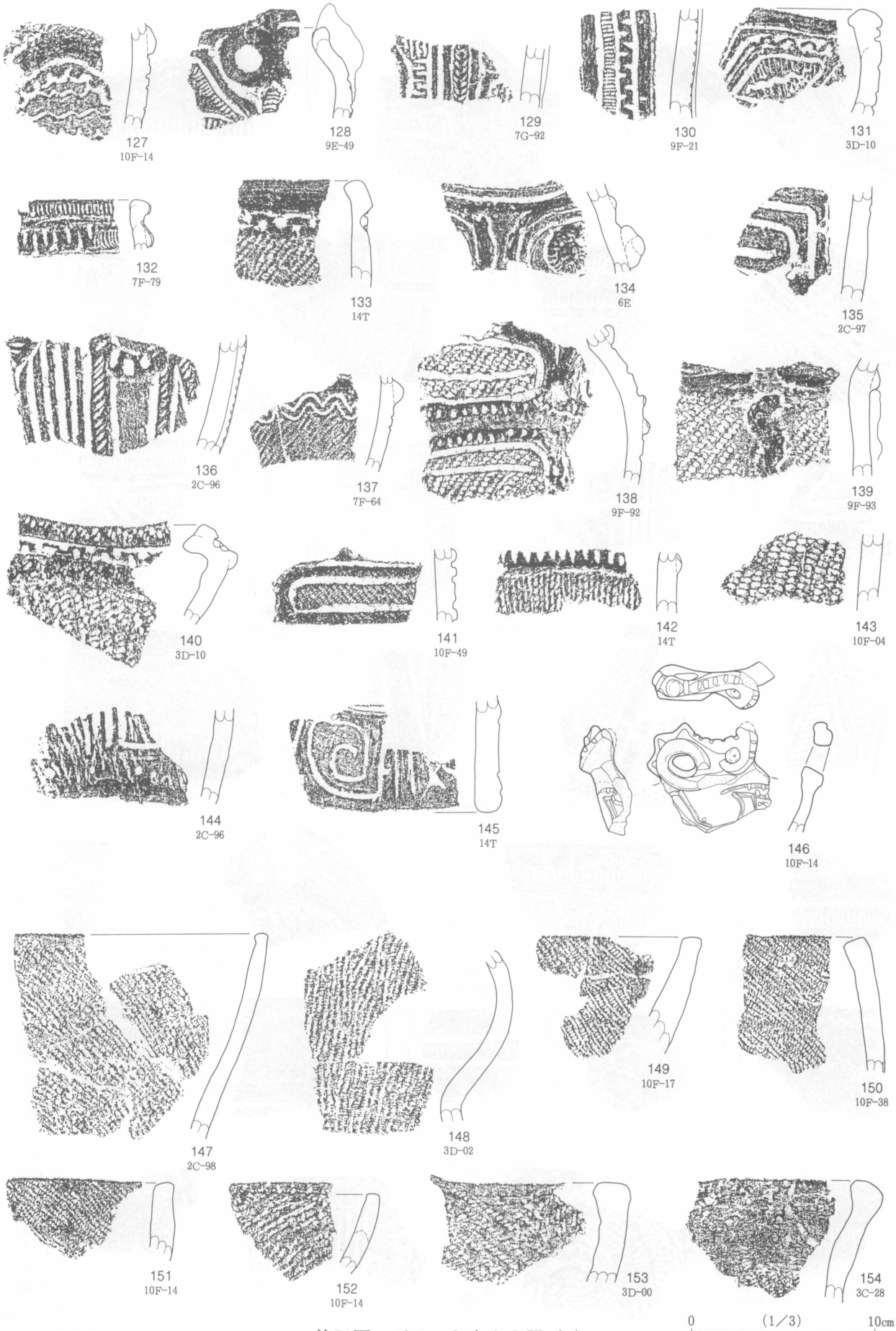
第48図　グリッド出土土器（4）



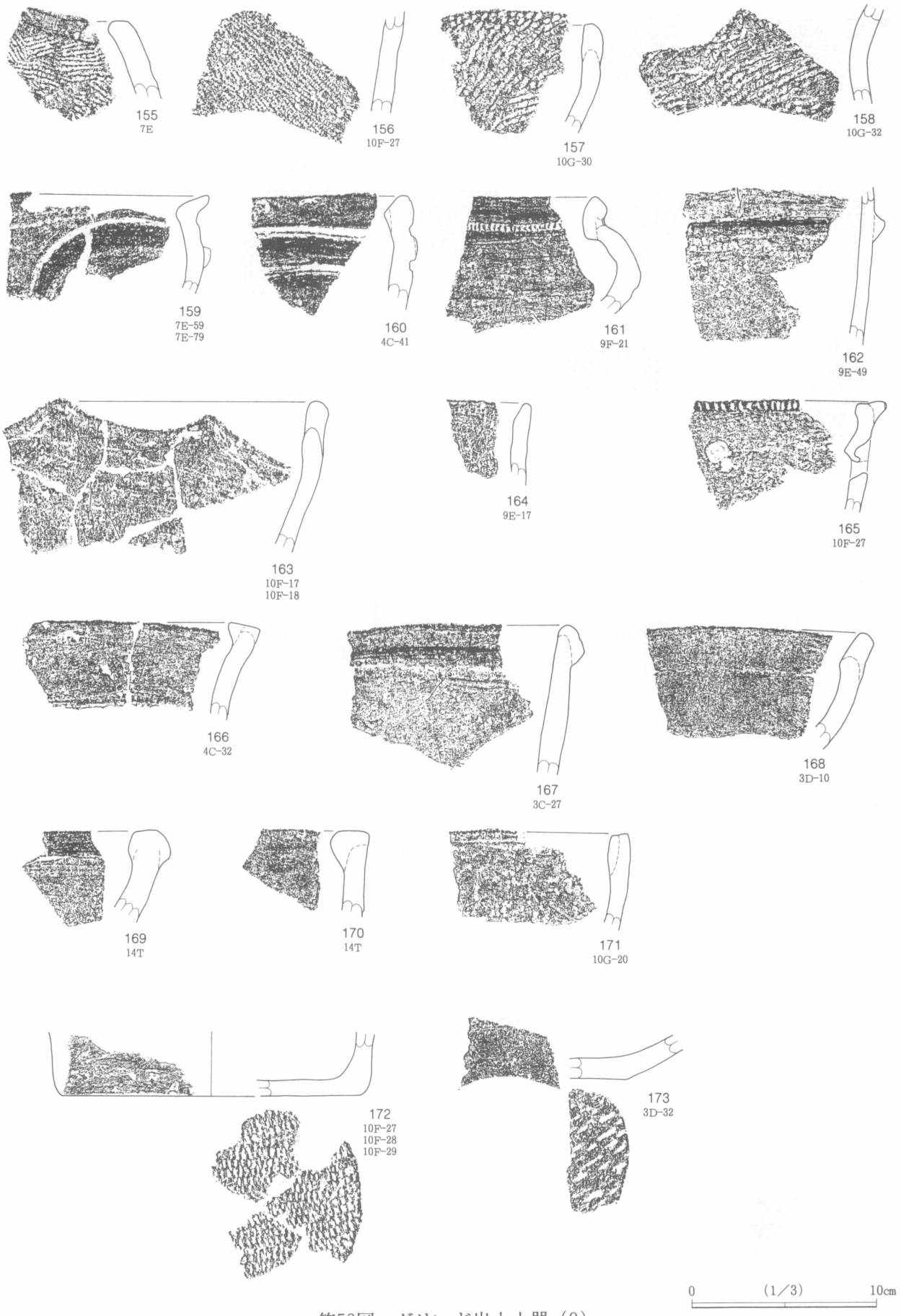
第49図　グリッド出土土器（5）



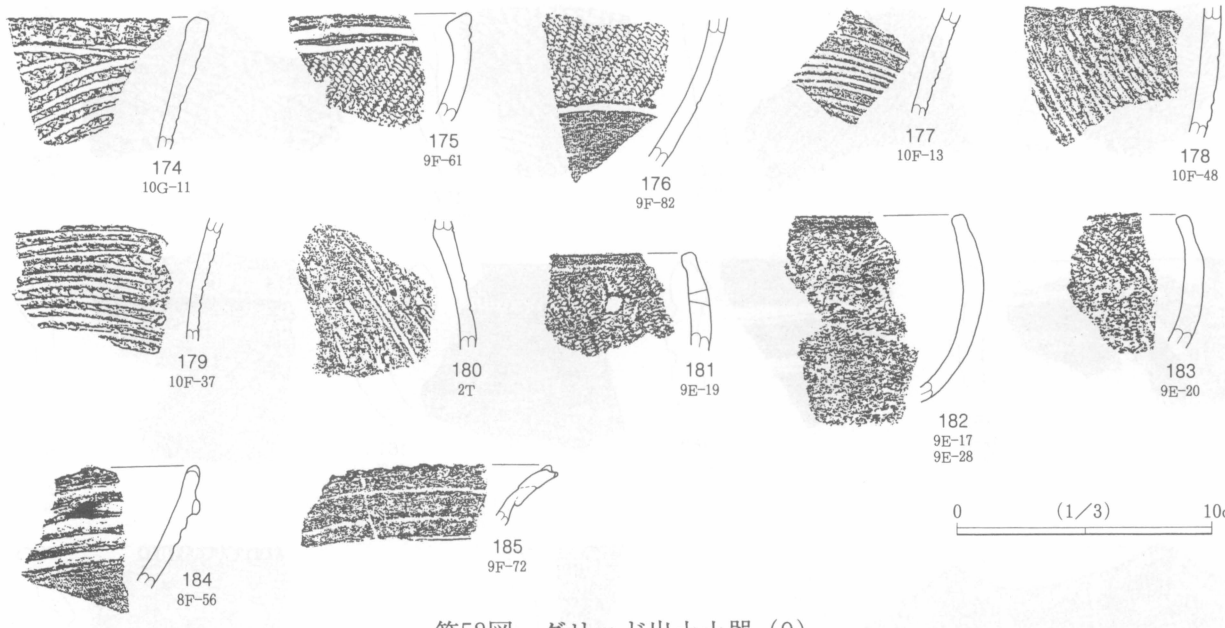
第50図　グリッド出土土器（6）



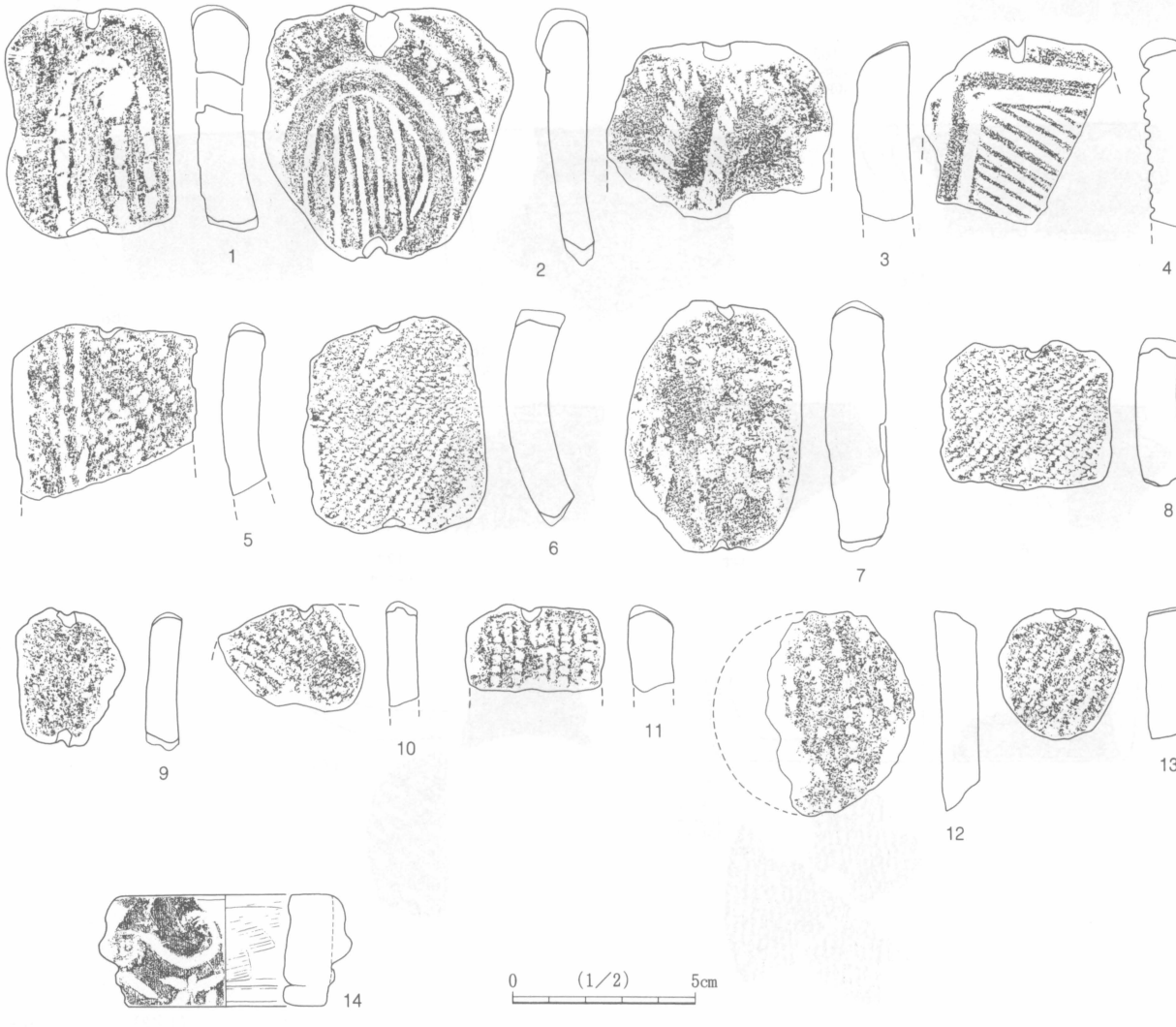
第51図　グリッド出土土器（7）



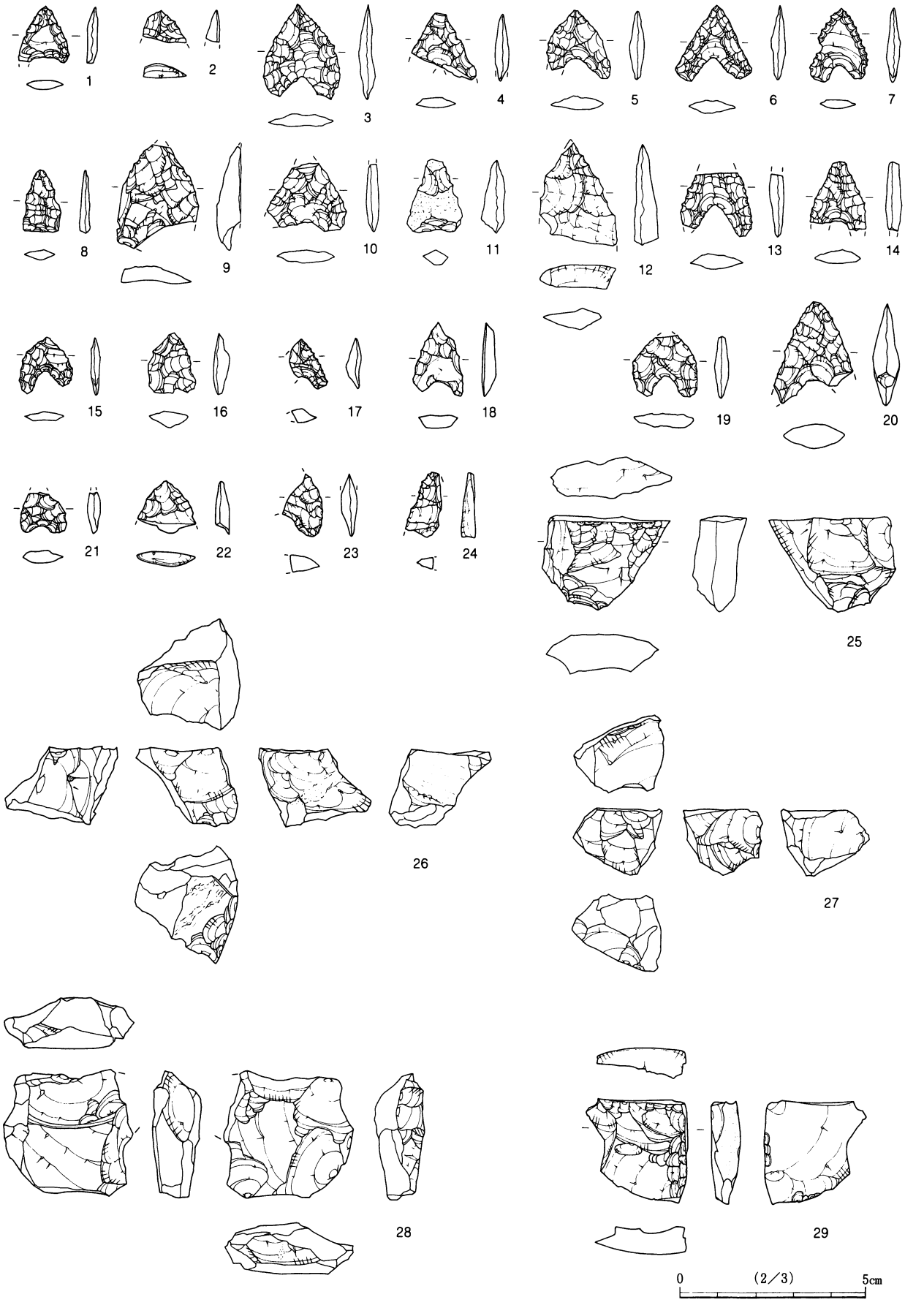
第52図　グリッド出土土器（8）



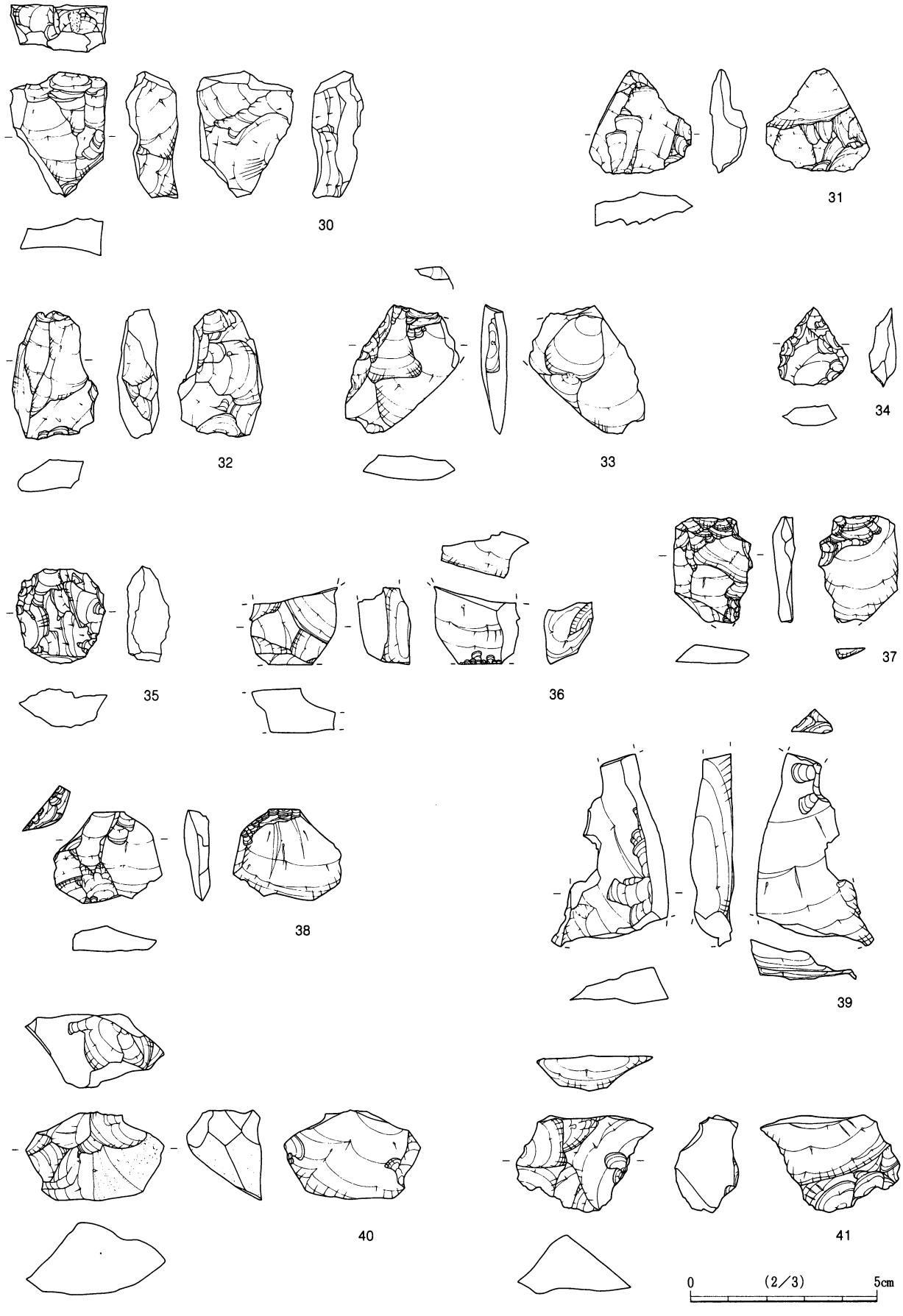
第53図　グリッド出土土器（9）



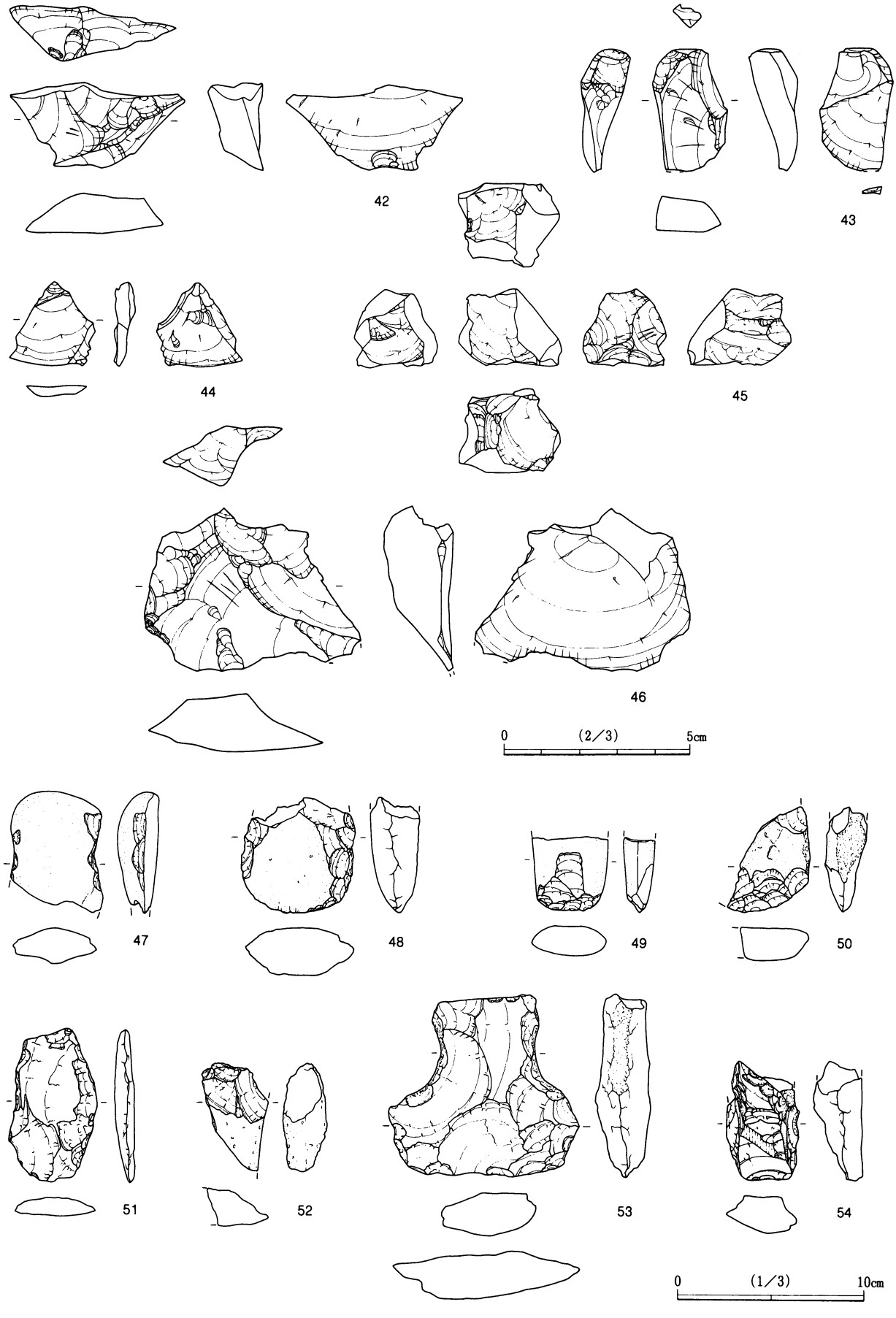
第54図　グリッド出土土製品



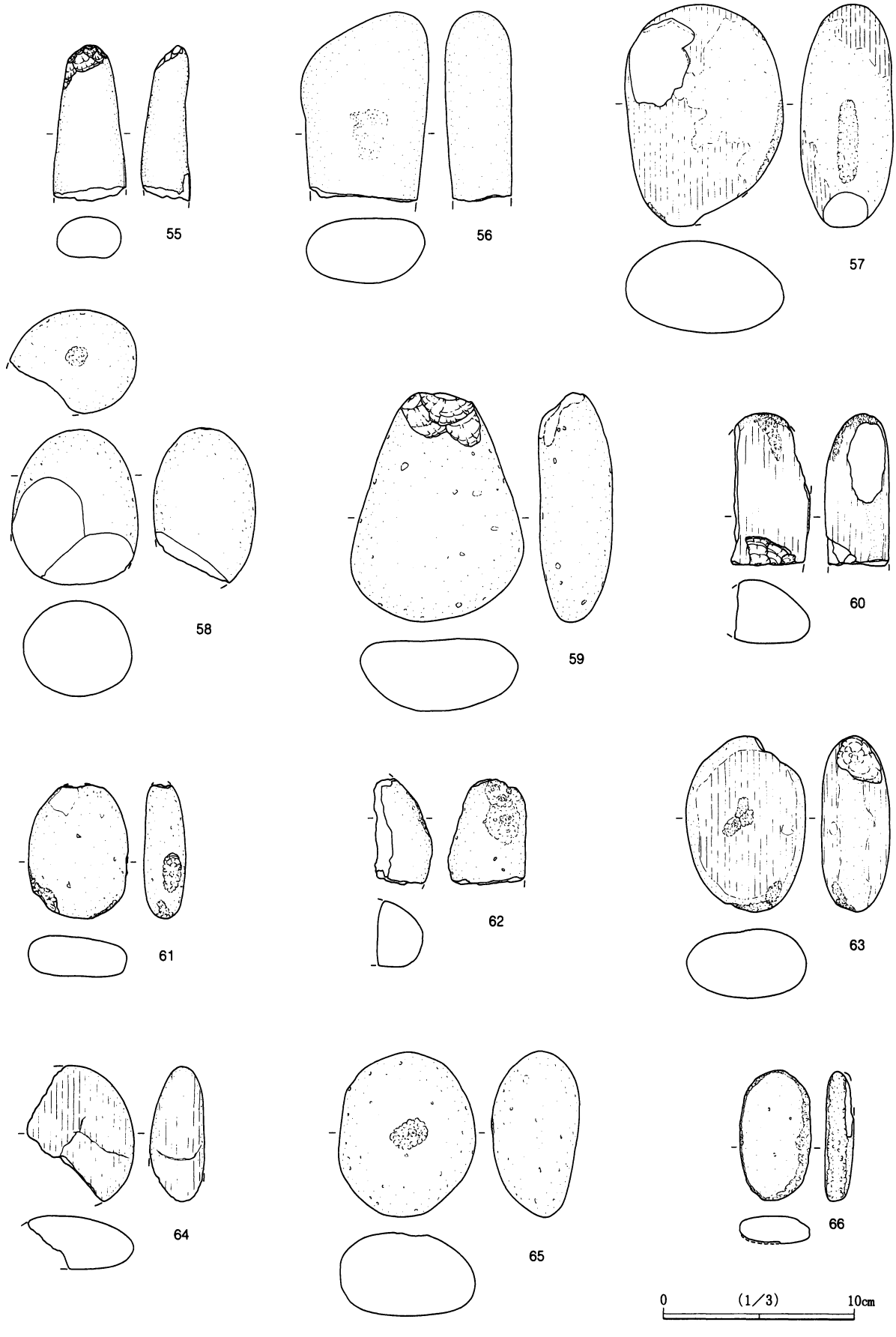
第55図　グリッド出土石器（1）



第56図　グリッド出土石器（2）



第57図　グリッド出土石器（3）



第58図　グリッド出土石器（4）

第2節　奈良時代以降

1　概　要

今回の発掘調査では，検出された遺構・遺物の中心は縄文中期であるが，ほかに奈良時代の火葬墓，平安時代の竪穴住居跡2軒，中世の柵列1条が，調査区の南側に混ざって散在している。

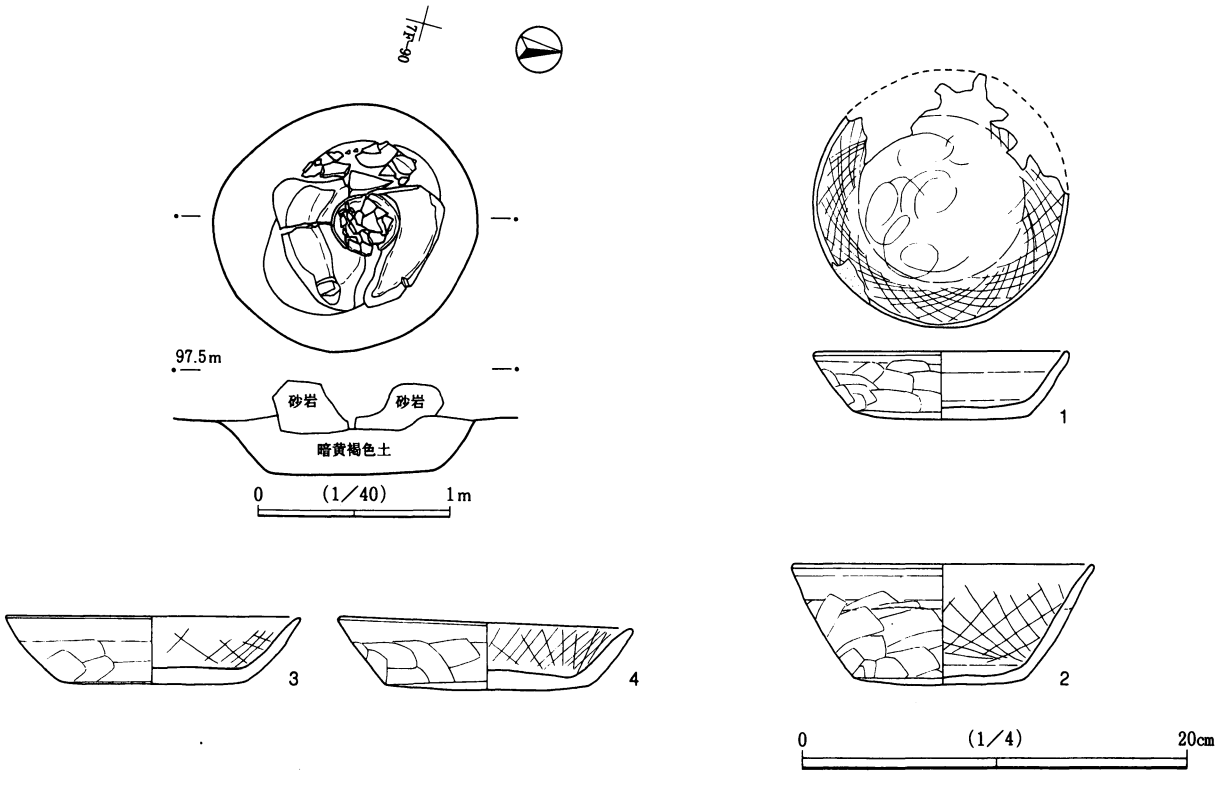
2　遺構・遺物

奈良時代

火葬墓

SK002（第59図，第1表，図版10）

調査区南側，土坑SK005の北東4ｍほどの距離，7F-90に位置する。周溝は検出されなかったことから，石櫃単独埋葬施設と思われる。軟質砂岩の石櫃は外容器として円形に成形され，中央部が杯の大きさに掘りくぼめられている。1～4の土師器の杯を骨蔵器として使用したものと思われ，骨片が発見されている。調査時の所見では1，3，4は上，2は下とあるが，詳細は不明である。また，石櫃の上部は発見されていないが，表土除去の際に失われた可能性もある。1～4は杯で，体部外面はヘラケズリが施され，内面には斜格子状の暗文が見られる。8世紀第2四半期のものと思われる。



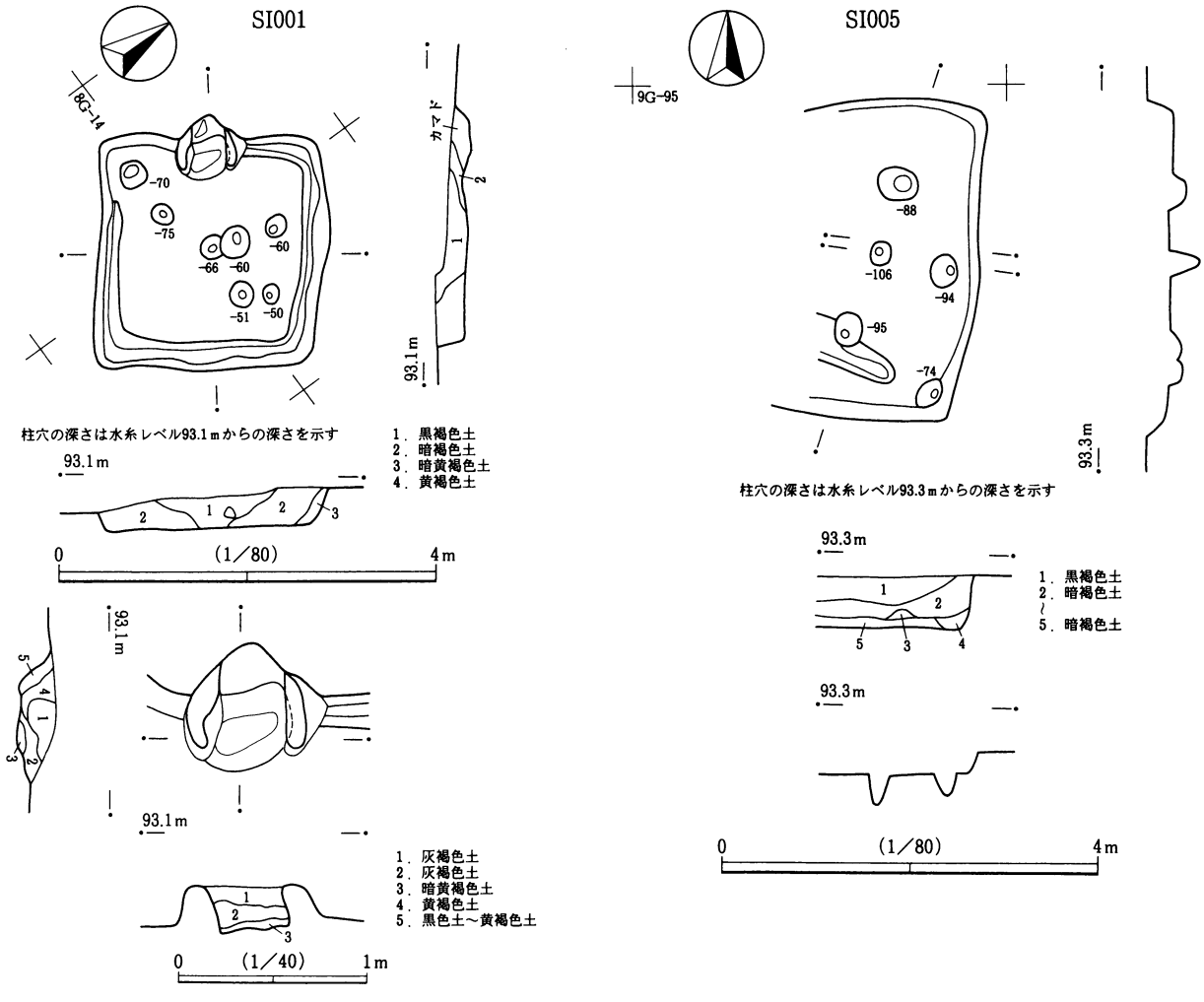
第59図　SK002・SK002出土土器

平安時代

竪穴住居跡

SI001（第60図，第１表，図版11）

調査区南東端，竪穴住居跡SI002の北東側に近い，8G-15に位置する。平面形状は一辺が2.4ｍの方形を呈する。確認面からの掘り込みは，0.3ｍと比較的浅い。床面は平坦で，壁に沿って幅20cm，深さ５cmほどの周溝が一周し，壁はほぼ垂角に立ち上がる。カマドは北西側壁のほぼ中央に作られている。柱穴は合計７か所検出されているが，主柱穴と特定できるものがなく，詳細は不明である。数10点の縄文土器とともに６点の土師器片が出土しているが，図示できるものはなかった。



第60図　SI001・SI005

SI005（第60図，第１表，図版11）

竪穴住居跡SI001から距離にしておよそ10ｍの，南側の調査区の東端，10G-06に位置する。西側を壊されているが，残された約半分から，平面形状は一辺が3.5ｍの方形を呈すると考えられる。確認面からの掘り込みは，0.2ｍと浅い。床面は平坦で，壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドおよび周溝は検出されていない。柱穴は５か所検出されたが，主柱穴と特定できるものはなく，詳細は不明である。また南側壁に近く，柱穴と重複して溝状のくぼみがあるが，詳細は不明である。数10点の縄文土器とともに８点の土師器片が出土しているが，図示できるものはなかった。

中　世

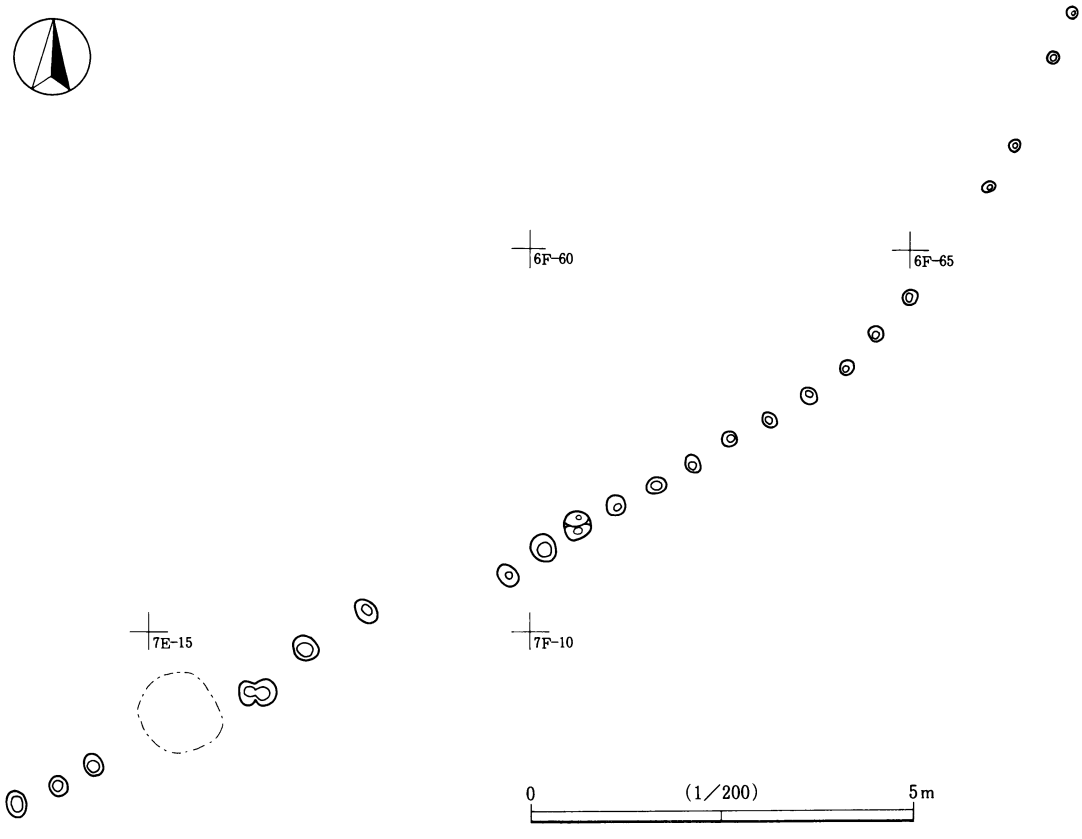
柵　列

SA001（第61図，第１表，図版11）

調査区中央やや南側の，一部竪穴住居跡SI010と重複するグリッド６Ｆから７Ｅにかけて，22か所のピットが北東から南西にかけて検出された。ピットの大きさは直径が0.2ｍ，深さが0.1ｍ～0.2ｍとほぼ同じ大きさである。図示できるものはなかった。

その他

これまでに報告したもの以外に数点の弥生時代後期の土器，さらに近世の銭貨として新寛永１点が出土しているが，図示できるものはなかった。



第61図　SA001

第１表　遺構観察表

遺構番号	位置	種類	時代	規模（m） 長径（辺）	規模（m） 短径（辺）	深さ（m）	平面形状	主軸方向	カマド（炉）	柱穴（ピット） 有無	柱穴（ピット） 数(本)	他の施設	遺物出土状況	重複関係	備考
SI － 001	8G － 15	竪穴住居跡	平安時代	2.4	2.4	0.3	隅丸方形	NW － SE	有	有	7	周溝	極めて少ない		主柱穴は不明
SI － 002	8G － 30	竪穴住居跡	縄文中期	(4.0)	－	0.2	やや楕円形	－	有？	有	.39	周溝(一部)	土器の出土少　礫・黒曜石の出土多い	SI-007,SK-011（新旧不明）	主柱穴は5本？
SI － 003	7G － 82	竪穴住居跡	縄文中期	3.9	3.4	0.2	やや楕円形	－	有	有	13		土器・黒曜石の出土多少あり		主柱穴は4本
SI － 004	8F － 82	竪穴住居跡	縄文中期	6.3	5.9	0.1	ほぼ円形	－	有	有	31	埋甕 張出？	遺物の出土は散逸、黒曜石多い	SK-004（新）	主柱穴4本
SI － 005	10G － 06	竪穴住居跡	平安時代	3.5	(3.5)	0.2	隅丸方形?	N － SE	不明	有	5		極めて少ない		東側半分検出
SI － 006	8F － 75	竪穴住居跡	縄文中期	(8.0)	－	－	円形？	－	有	有	22		遺物の出土は散逸		主柱穴は4本
SI － 007	8G － 62	竪穴住居跡	縄文中期	3.4	3.1	0.1	やや楕円形	－	無	有	11		遺物の出土はなかった	SI-011,SK-011（新旧不明）	主柱穴は不明
SI － 009	8F － 90	竪穴住居跡	縄文中期	2.7	－	0.1	円形	－	無	有	4		遺物の出土は散逸、黒曜石多い		主柱穴は不明
SI － 010	7E － 00	竪穴住居跡	縄文中期	4.5	4.4	0.1	円形	－	有？	有	10		遺物の出土で礫・黒曜石が非常に多い	SA001（新）	黒曜石の出土多い
SI － 011	3C － 06	竪穴住居跡	縄文中期	5.5	5.4	0.3	円形	－	有	有	30		遺物の出土は散逸、黒曜石多い	SK013（新旧不明）	主柱穴は5本、地割れによる段差あり
SK － 002	7F － 90	火葬墓	奈良時代	0.7	0.6	0.1	楕円形	－				石櫃	土師器坏2点		
SK － 003	8G － 93	陥穴	縄文早期	2.1	1.7	0.9	楕円形	NE － SW		無			遺物の出土はほとんどない		
SK － 004	7F － 81	土坑	縄文中期	2.0	1.6	0.1	楕円形	WWN － EES		有	3		礫・黒曜石の出土が少し	SI-004（旧）	
SK － 005	8E － 07	土坑	縄文中期	1.6	1.3	0.3	楕円形	NNE － SSW		無			遺物の出土はほとんどない		
SK － 007	9E － 19	土坑	縄文中期	3.2	2.4	0.2	楕円形	NW － SE		無			遺物の出土はほとんどない		
SK － 010	9E － 78	土坑	縄文中期	2.9	1.4	0.3	楕円形	NE － SW		無			遺物の出土はほとんどない		
SK － 011	8G － 43	小竪穴	縄文中期	(3.8)	－	－	円形？	－		有	9		遺物の出土はほとんどない	SI-007,SI-002（新旧不明）	竪穴住居跡？
SK － 012	9F － 12	土坑	縄文中期	5.1	1.6	0.3	長楕円形	ENE － WSW		無			遺物の出土はほとんどない		
SK － 013	3C － 28	小竪穴	縄文中期	(3.5)	－	－	円形？	－		有	21	埋甕	遺物の出土で礫・黒曜石が多い		竪穴住居跡？、地割れによる段差あり
SA － 001	6F 7F －	柵列	中世	0.2	－	0.1～0.2		NE － SW			22			SI-010（旧）	
SH － 001～158	3C／6F／7F／8·9FG	ﾋﾟｯﾄ群1～4	縄文中期					－			158		ピット中から稀に遺物が出土		SH-121から埋設土器出土 大別して４か所に集中する（ピット群1～4）

※SI-008、SK-001、006、008、009は欠番である。なお、SK-006はSI-006の炉である。

第２表　縄文土器観察表

No.	遺構	遺物番号	挿図	分類	遺存度	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	焼成	色調（内／外）	備考
1	SI　004	2	第14図1	深鉢	完形	29.8	42.6	8.6	長石	良	橙色,黒色	口縁部にLRLヨコ，胴部にLRLタテ
2	SI　006 9F － 21	2,3,4,14,20,2110,21 10	第17図1	深鉢	1/5	(27.9)	(19.9)	－	砂粒・石英・雲母	良	赤褐色	表面に黒色付着物
3	SI　006	5,10,11,12,13,16,23	第17図2	深鉢	1/10	(33.6)	(8.4)	－	砂粒・長石・石英・雲母	良	にぶい褐色	口縁部，頸部に爪形文
4	SI　006	17,18,19	第17図3	深鉢	－	(25.4)	(10.4)	－	砂粒・石英・雲母多	良	灰黄褐色	８の字状の突起の貼り付け，隆帯の貼り付け，竹管状工具による連続刺突，沈線文
5	SI　006	6,15,23	第17図4	深鉢	－	－	(15.5)	－	長石・雲母		橙色	隆帯の貼り付け，ヘラ状工具による押し引き圧痕，ナデ
6	SI　009	12,52,67	第20図1	深鉢	－	－	－	－	砂粒・雲母	良	褐色	把手，粘土紐の貼り付け，爪形文
7	SI　010	746,774	第23図1	台付深鉢	5/7	(10.8)	(14.8)	5.0	砂粒・石英	良	橙色	二次焼成あり
8	SI　010	62,423,426,427,428 429,430,431,432,433 434,435,436,437,439 440,442,443,444,445 446,447,448,449,451 782	第23図2	深鉢	－	－	(21.7)	－	雲母・長石	良	橙色	口縁部に突起とアーチ状の把手，４単位の波状口縁
9	SI　010	418,761	第23図3	深鉢	1/10	(25.2)	(11.8)	－	雲母・ｽｺﾘｱ・砂粒	良	明黄褐色	口縁部にRL，胴部にL
10	SI　010	782	第23図4	深鉢	1/10	(19.0)	(10.5)	－	石英・砂粒	良	暗褐色／明赤褐色	口縁部に指頭圧痕による凹み，胴部はミガキ後，ヘラ状工具によるナデ
11	SI　010 7F － 010	54,695,765,768,769 770,771,772,773,779 782 13	第23図5	深鉢	9/10	16.8	(18.7)	－	雲母	良	灰褐色/明赤褐色	内外面ともナデ
12	SI　011	1,9	第27図1	深鉢	1/10	－	(28.5)	－	砂粒	良	暗黄褐色／橙	頸部に３条の沈線，上の沈線を切るように隆帯を貼り付け，胴部はRLRタテ，垂下する波形の沈線
13	SI　011	15	第27図2	深鉢	－	－	－	－	砂粒・雲母・石英	良	にぶい褐色	把手，ヘラ状工具によるキザミ，円形竹管による刺突
14	SI　011 3C － 009	2,3,17 27	第27図3	深鉢	1/10	－	(18.5)	－	砂粒・雲母	良	赤褐色／明褐色	隆帯，直線的な沈線と渦巻き状の沈線，三叉文，先の丸い平らな工具による刺突
15	SI　011	15	第27図4	深鉢	1/10	(20.0)	(19.6)	－	砂粒・石英・雲母	良	にぶい褐色	縄文を施文後，弧状の沈線により区画，磨り消し
16	SK　013	2,5,6,7	第33図1	深鉢	1/3	(21.0)	(20.5)	－	砂粒・石英	良	灰黄褐色	口唇部にLR斜，口縁部と胴部にLRタテ
17	SK　013	3	第33図2	深鉢	1/10	(16.4)	(15.3)	－	砂粒・長石	良	黒褐色／赤褐色	口唇部に指頭圧痕，残りはナデ
18	SH　121	1,2	第37図5	深鉢	1/6	－	(14.0)	(12.7)	砂粒・石英多・雲母	不良	橙色	隆帯，浅い沈線，３本のくし状工具による条線，摩滅が激しい

No.	遺構	遺物番号	挿図	分類	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	焼成	色調（内／外）	備考
1	3C － 29	114	第45図1	小型深鉢	－	(12.0)	(4.0)	－	石英	良	にぶい橙色	口唇部にキザミ，頸部に突起，押し引き沈線
	3D － 50	1,15										
2	2C － 96	8	第45図2	小型深鉢	2/5	－	(8.8)	－	雲母・白色砂粒	良	赤褐色	頸部の隆帯上に綾杉文
	3C － 16	12,13,29										
	14T	679										
3	10F － 18	2,5	第45図3	浅鉢	－	(18.0)	(4.1)	－	雲母多・長石	良	にぶい橙色	Lタテ施文後，隆帯の貼り付け
4	7F － 68	34	第45図4	浅鉢	5/6	－	(8.1)	5.4	長石・石英・雲母	良	橙色	半截竹管による連続刺突，片口の注口で、把手が想定
5	10F － 14	7	第45図5	深鉢	－	－	(15.6)	－	雲母・長石・砂	良	明褐色	隆帯による楕円区画，半截竹管による波状の沈線
	10F － 18	5										
	10F － 38	1										
	10F － 48	8										
6	3D － 10	3,23	第45図6	深鉢	－	－	(9.6)	－	雲母・長石	良	橙色	隆帯による楕円区画，押し引き沈線
7	9E － 27	10	第45図7	深鉢	－	－	(20.9)	(11.7)	石英	良	橙色	頸部に隆帯，ヘラ状工具による刺突
	9E － 28	1,4,10										
	9E － 29	10										
	9E － 30	7										
8	10F － 15	5,	第45図8	浅鉢	－	(20.0)	(10.2)	－	雲母多・長石	良	にぶい橙色	隆帯の貼り付け
	10F － 37	5										
9	10F － 38	7	第45図9	深鉢	－	－	(15.6)	－	雲母	良	明赤褐色	隆帯の貼り付け、キザミ、把手
	10F － 39	7,10										
10	3C － 17	85	第45図10	深鉢	－	－	(7.1)	－	石英	良	橙色	地文にRL，ヘラ状工具による押し引き，把手
11	2C － 97	20,62	第47図54	深鉢	－	－	(11.9)	－	雲母	良	にぶい褐色	口縁部に円盤状の突起とアーチ状の把手，口縁部と頸部に隆帯，押し引き
12	10F － 16	1	第48図64	深鉢	－	－	(10.3)	－	雲母多・長石多	良	にぶい黄橙色	隆帯の貼り付け，２列１組の角押文
13	10F － 14	1	第49図86	深鉢	－	－	(5.2)	－	長石	良	にぶい赤褐色	渦巻き状の貼り付け，ヘラ状工具によるキザミと押し引き
	10F － 39	7										
	10F － 49	10										
14	10G － 11	2	第49図87	深鉢	－	－	(8.5)	－	長石	良	にぶい赤褐色	渦巻き状の貼り付け，隆帯による区画、ヘラ状工具による連続刺突，２条の沈線と竹管による刺突
15	10F － 15	3	第49図88	深鉢	－	－	(9.5)	－	長石多・雲母	良	橙色	RLを地文，隆帯の貼り付け，ヘラ状工具による連続刺突
16	9F － 64	11	第49図89	深鉢	－	－	(6.8)	－	長石	良	橙色	口縁部にキザミ，頸部に円形突起，ヘラ状工具による連続刺突
17	10F － 48	8	第49図90	深鉢	－	－	(8.1)	－	石英少	良	明赤褐色	２本の粘土紐による渦巻き状の突起，へら状工具による連続刺突と波状の沈線，三叉文
	10F － 37	3										
18	1T	1	第49図91	深鉢	－	－	(7.5)	－	長石	良	橙色	突起と隆帯の貼り付け，キザミ，ヘラ状工具による押し引き沈線
19	10G － 20	7	第49図92	深鉢	－	－	(10.9)	－	石英	良	橙色	粘土紐による突起，ヘラ状工具による連続刺突
20	1T	1	第49図93	深鉢	－	－	(5.3)	－	雲母多・長石	良	明褐色	頸部の突起か
21	9F － 64	11	第49図94	深鉢	－	－	(6.7)	－	小石	良	にぶい褐色	口縁部をテラス状に張り出し，粘土紐による突起の貼り付け，キザミ，沈線
22	3T	1	第49図95	深鉢	－	－	(10.6)	－	雲母・長石・砂	良	明赤褐色	粘土紐による突起，凹み部にヘラ状工具による刺突
23	10F － 18	5	第50図108	深鉢	－	－	(9.0)	－	石英	良	にぶい黄橙色	玉抱三叉文風の文様
	10F － 49	10										
24	10F － 14	12	第51図146	深鉢	－	－	(6.0)	－	雲母・長石	良	橙色	鶏頭状の突起

第3表　土器片錘観察表

No.	出土地点	遺構種類	時　期	長軸長cm	短軸長cm	長短比	重　量g	部　位	分類	挿図番号	備　考
	SI-009	住居跡	中期	5.50	5.50	1.00	40.7	胴部	Ⅰb	20 - 13	
	SI-010	住居跡	中期	(2.95)	(4.70)	1.59	(12.5)	胴部	Ⅰa	24 - 23	
1	10F-38	グリッド	中期	6.10	4.50	0.74	45.0	口縁部	Ⅱc	54 - 1	穿孔あり
2	3C-16	グリッド	中期	6.90	9.70	1.41	63.2	胴部	Ⅰb	54 - 2	
3	10F-27	グリッド	中期	(4.80)	(6.10)	1.27	(45.5)	胴部	Ⅰc	54 - 3	
4	7E	グリッド	中期	(5.1)	(5.1)	1.00	(29.4)	胴部	Ⅰa	54 - 4	
5	7F-00	グリッド	中期	(4.7)	5.0	1.01	(29.5)	胴部	Ⅱc	54 - 5	
6	9F-61	グリッド	中期	5.90	4.90	0.83	41.9	胴部	Ⅱb	54 - 6	
7	14-T	トレンチ	中期	6.80	4.80	0.71	62.0	胴部	Ⅱa	54 - 7	
8	10F-27	グリッド	中期	4.00	4.70	1.18	28.0	胴部	Ⅱc	54 - 8	
9	10F-19	グリッド	中期	3.70	2.95	0.80	10.6	胴部	Ⅱb	54 - 9	
10	3-T	トレンチ	中期	(2.90)	(3.90)	1.34	(10.8)	胴部	Ⅲc	54 - 10	
11	10F-16	グリッド	中期	(2.35)	(3.80)	1.62	(14.1)	胴部	Ⅰa	54 - 11	
最　小		対　象		3.50	2.95		10.6				
最　大		対　象		6.90	9.70		63.2				
平　均		対　象		5.56	5.26		41.6				

※長軸長及び短軸長欄の（数字）は土器片錘の一部が欠損しているので現存値を記した。また重量も同様である。
※長軸及び短軸の分類は、対の切り込みを結ぶ方向を長軸とし、それに直行する方向を短軸とした。

第4表　土製円盤観察表

No.	出土地点	遺構種類	時　期	長軸長cm	短軸長cm	重　量g	部　位	挿図番号	備　考
1	10F-38	グリッド	中期	5.50	(4.00)	(24.4)	胴部	54 - 12	
2	14T	トレンチ	中期	3.5	3.4	16.3	胴部	54 - 13	

第5表　縄文時代石器観察表

出土位置	遺物番号	種類	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	挿図番号	備考
SI－002	0035	石鏃	黒曜石	19.2	18.9	3.6	0.89	9-1	未製品？
SI－002	0023	石核	黒曜石	27.0	34.0	11.0	9.84	9-2	
SI－002	0002	敲石	安山岩	57.5	58.5	34.0	146.62	9-3	欠損
SI－002	0057	敲石	砂岩	76.3	50.4	37.8	210.14	9-4	
SI－003	0001	石鏃	黒曜石	16.8	11.7	3.6	0.52	12-1	
SI－003	0001	石鏃	黒曜石	14.6	12.9	3.0	0.49	12-2	先端部欠
SI－003	0050	石鏃	黒曜石	23.7	17.4	5.1	1.13	12-3	脚部欠
SI－003	0058	石鏃	黒曜石	24.7	12.9	5.2	1.17	12-4	一部欠
SI－003	0057	石鏃	黒曜石	31.6	22.1	7.8	3.97	12-5	未製品
SI－003	0032	石鏃	黒曜石	21.7	9.7	3.6	0.51	12-6	脚部欠
SI－003	0061	調整痕有剥片	黒曜石	25.0	23.0	9.0	4.29	12-7	
SI－004	0012	石鏃	黒曜石	21.3	18.4	4.9	1.14	15-1	脚部欠
SI－004	0019	打製石斧	砂岩	66.0	33.6	10.5	30.84	15-2	
SI－009	0042	石鏃	黒曜石	25.0	14.8	5.1	1.31	21-1	
SI－009	0021	石鏃	黒曜石	24.3	17.8	4.2	1.39	21-2	脚部・先端部欠
SI－009	0017	敲石	流紋岩	63.0	63.8	40.0	193.83	21-3	欠損，側縁部に使用痕
SI－010	0763	石鏃	チャート	25.9	14.6	7.4	1.95	25-1	
SI－010	0318	石鏃	黒曜石	17.4	10.1	1.8	0.24	25-2	
SI－010	0782	石鏃	黒曜石	26.3	14.7	4.1	0.86	25-3	脚部欠
SI－010	0714	石鏃	黒曜石	10.6	12.0	2.5	0.32	25-4	先端部欠
SI－010	0195	敲石	砂岩	91.0	50.0	22.7	168.14	25-5	
SI－010	0782	敲石	砂岩	80.0	66.5	46.5	340.00	25-6	
SI－010	0041	打製石斧	凝灰岩	90.0	56.0	23.5	142.44	25-7	
SI－010	0739	打製石斧	砂岩	90.0	90.5	26.0	192.32	25-8	
SI－010	0133	打製石斧	砂岩	79.4	90.5	22.8	201.60	25-9	643と接合
SI－010	0643	打製石斧	砂岩	－	－	－	－	25-9	133と接合
SI－011	0001	石鏃	黒曜石	23.0	22.0	7.2	2.44	29-1	
SI－011	0003	石鏃	黒曜石	17.8	15.2	4.6	1.04	29-2	
SI－011	0004	石鏃	黒曜石	16.5	13.6	6.5	0.92	29-3	
SI－011	0003	石鏃	黒曜石	26.0	13.5	5.3	1.56	29-4	脚部欠
SI－011	0016	石鏃	黒曜石	26.3	21.3	9.5	4.76	29-5	先端部欠，未製品？
SI－011	0001	石鏃	黒曜石	22.6	16.3	4.7	1.11	29-6	
SI－011	0004	石鏃	黒曜石	16.2	12.0	3.6	0.48	29-7	
SI－011	0005	石鏃	頁岩	28.0	22.5	3.7	2.32	29-8	
SI－011	0014	石鏃	黒曜石	22.3	14.2	3.5	0.72	29-9	一部欠
SI－011	0003	石鏃	黒曜石	19.8	15.1	6.0	1.25	29-10	脚部欠
SI－011	0014	石鏃	黒曜石	24.2	15.2	4.8	1.22	29-11	
SI－011	0015	石鏃	黒曜石	25.0	17.1	4.9	1.31	29-12	脚部欠
SI－011	0004	削器	砂岩	41.2	28.1	4.3	5.49	29-13	
SI－011	0003	石鏃	黒曜石	16.1	17.8	4.1	0.99	29-14	脚部・先端部欠
SI－011	0003	石鏃	黒曜石	13.8	19.5	4.4	0.97	29-15	先端部欠
SI－011	0004	石鏃	黒曜石	22.6	15.7	5.6	1.31	29-16	脚部・先端部欠
SI－011	0004	石鏃	黒曜石	13.5	21.2	4.8	0.78	29-17	脚部のみ
SI－011	0001	石鏃	異形石器	18.7	19.5	5.0	0.86	29-18	
SI－011	0014	石鏃	黒曜石	16.0	18.9	4.6	1.06	29-19	先端部欠
SI－011	0012	石核	黒曜石	27.5	32.0	20.0	18.88	29-20	
SI－011	0004	両極石器	黒曜石	23.5	22.5	13.5	7.24	29-21	
SI－011	0004	調整痕有剥片	黒曜石	30.0	18.0	13.0	4.97	29-22	
SI－011	0014	石核	黒曜石	24.5	26.0	13.0	4.77	29-23	
SI－011	0016	剥片	黒曜石	18.0	29.0	5.0	1.98	29-24	
SI－011	0017	剥片	黒曜石	23.0	16.0	5.5	1.28	29-25	
SI－011	0018	剥片	黒曜石	30.0	14.0	10.0	3.08	29-26	
SI－011	0018	打製石斧	凝灰岩	105.0	45.0	22.0	124.96	30-27	制作途中？
SI－011	0004	打製石斧	砂岩	94.0	67.0	30.0	236.81	30-28	15と接合，制作途中？
SI－011	0015	打製石斧	砂岩	－	－	－	－	30-28	4と接合，製作途中？
SI－011	0008	打製石斧	砂岩	76.0	57.0	11.0	42.88	30-29	
SI－011	0015	打製石斧	安山岩	99.0	79.0	35.5	340.00	30-30	欠損

出土位置	遺物番号	種類	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	挿図番号	備考
SI －011	0004	打製石斧	ホルンフェルス	53.0	50.0	19.0	48.82	30-31	胴部のみ
SI －011	0010	打製石斧	砂岩	71.0	80.5	28.0	185.34	30-32	欠損
SI －011	0007	打製石斧	ホルンフェルス	61.5	50.5	16.0	67.73	30-33	欠損
SI －011	0004	敲石	流紋岩	132.0	98.0	57.5	1065.00	30-34	
SI －011	0001	敲石	砂岩	108.0	47.0	37.0	285.43	30-35	
SI －011	0003	敲石	砂岩	49.0	47.0	22.0	72.12	30-36	欠損，端部に使用痕
SI －011	0011	石皿	安山岩	175.0	253.0	70.0	4455.00	30-37	欠損
SK －013	0005	石鏃	黒曜石	23.8	17.9	5.7	1.99	34- 1	有茎
SK －013	0005	石鏃	黒曜石	13.6	14.0	4.3	0.61	34- 2	先端部欠
SK －013	0006	石鏃	黒曜石	15.2	12.6	3.2	0.47	34- 3	脚部欠
SK －013	0006	石鏃	黒曜石	17.5	11.4	4.1	0.56	34- 4	脚部・先端部欠
SK －013	0006	石鏃	黒曜石	15.1	16.5	4.5	0.89	34- 5	脚部・先端部欠
SK －013	0005	石鏃	黒曜石	15.7	17.2	4.7	1.31	34- 6	未製品
SK －013	0006	剥片	黒曜石	28.5	26.0	6.0	3.67	34- 7	
SK －013	0005	剥片	黒曜石	19.0	8.0	34.0	3.17	34- 8	
SK －013	0004	敲石	砂岩	163.0	64.0	51.0	760.00	34- 9	
SH －006	0001	石鏃	黒曜石	18.7	19.7	5.1	1.20	38- 1	先端部欠
SH －121	0002	磨石	砂岩	69.0	59.0	46.0	202.41	38- 2	欠損
SH －121	0002	敲石	砂岩	45.0	55.0	48.0	153.21	38- 3	欠損
3C － 07	0086	石鏃	黒曜石	18.3	14.1	7.5	1.51	39- 1	一部欠
3C － 16	0030	石鏃	黒曜石	15.3	15.0	4.1	0.71	39- 2	
3C － 29	0112	石鏃	黒曜石	30.8	22.9	12.3	5.60	39- 3	未製品？
2C － 97	0060	石鏃	黒曜石	16.6	12.2	2.9	0.44	39- 4	
3C － 07	0085	石鏃	黒曜石	20.6	22.2	6.5	2.04	39- 5	先端部欠
3C － 39	0015	石鏃	黒曜石	15.5	20.1	6.1	1.87	39- 6	脚部・先端部欠
3C － 27	0344	石鏃	黒曜石	12.7	18.0	6.1	1.19	39- 7	未製品？，14T
3C － 06	0124	石鏃	黒曜石	11.7	9.2	4.1	0.38	39- 8	一部欠，14T
2C － 88	0009	石鏃	黒曜石	15.7	17.8	3.2	0.66	39- 9	
3C － 05	0005	石鏃	黒曜石	14.1	12.5	2.6	0.28	39-10	
3C － 05	0008	石鏃	黒曜石	13.2	12.4	3.2	0.32	39-11	
3C － 19	0092	石鏃	黒曜石	15.2	11.2	3.4	0.29	39-12	
3C － 27	0357	石鏃	黒曜石	20.5	11.7	3.6	0.49	39-13	14T
3C － 39	0015	石鏃	黒曜石	24.9	17.1	4.0	1.19	39-14	
3C － 06	0062	石鏃	黒曜石	27.0	22.5	40.0	1.85	39-15	
3C － 06	0013	石鏃	黒曜石	19.5	17.8	4.8	0.98	39-16	脚部欠
3C － 17	0043	石鏃	黒曜石	20.8	19.6	3.5	0.96	39-17	未製品？
2C － 88	0023	石鏃	黒曜石	18.6	12.0	3.5	0.54	39-18	脚部欠，14T
2C － 97	0060	石鏃	黒曜石	23.6	13.8	6.5	1.62	39-19	脚部欠
3C － 17	0085	石鏃	黒曜石	19.0	14.8	3.9	0.66	39-20	脚部・先端部欠
3C － 18	0067	石鏃	黒曜石	17.2	16.3	4.5	1.05	39-21	脚部・先端部欠
3C － 27	0058	石鏃	黒曜石	18.3	17.5	4.4	1.05	39-22	脚部・先端部欠
3C － 28	0063	石鏃	黒曜石	13.6	13.9	4.4	0.51	39-23	脚部・先端部欠
3D － 21	0008	石鏃	黒曜石	19.4	20.6	4.5	1.10	39-24	脚部・先端部欠
3D － 62	0006	石鏃	黒曜石	18.6	16.6	4.8	0.91	39-25	脚部・先端部欠
2C － 96	0027	石鏃	黒曜石	17.9	14.4	4.6	0.86	39-26	先端部欠
3C － 28	0067	石鏃	黒曜石	23.7	18.5	5.8	1.71	39-27	先端部欠
3C － 07	0083	石鏃	黒曜石	12.4	14.2	3.3	0.42	39-28	脚部・先端部欠
3C － 06	0196	石鏃	黒曜石	11.3	19.1	3.5	0.63	39-29	先端部欠，14T
3C － 19	0097	石鏃	黒曜石	14.9	15.0	4.9	0.76	39-30	
3C － 27	0507	石鏃	黒曜石	16.1	16.8	4.5	1.02	39-31	先端部欠，14T
2C － 86	0796	石鏃	黒曜石	19.4	16.8	4.8	1.06	39-32	脚部・先端部欠，14T
3C － 07	0085	石鏃	黒曜石	12.9	12.6	3.7	0.53	39-33	先端部欠
3C － 08	0024	石鏃	黒曜石	12.9	14.0	4.0	0.49	39-34	一部残
3C － 08	0305	石鏃	黒曜石	15.9	13.4	4.6	0.66	39-35	一部残，14T
3C － 16	0680	石鏃	黒曜石	14.0	18.8	3.4	0.60	39-36	脚部・先端部欠，14T
3C － 19	0091	石鏃	黒曜石	16.9	17.0	4.0	0.71	39-37	脚部・先端部欠
2C － 87	0799	石鏃	黒曜石	21.9	9.1	4.6	0.67	39-38	脚部のみ，14T
2C － 87	0885	石鏃	黒曜石	31.8	9.6	4.6	1.01	39-39	脚部のみ，14T

出土位置	遺物番号	種類	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	挿図番号	備考
2C − 89	0424	石鏃	黒曜石	31.2	14.1	5.2	1.51	39-40	脚部欠，14T
2C − 98	0036	石鏃	黒曜石	22.1	8.8	5.7	0.84	39-41	錐？
3C − 15	0017	石鏃	チャート	11.9	10.2	4.5	0.44	39-42	先端部のみ
3C − 19	0020	石鏃	黒曜石	20.3	11.5	4.4	0.57	39-43	脚部欠
3C − 28	0074	石鏃	黒曜石	16.0	10.5	4.3	0.55	39-44	脚部欠
3C − 28	0075	石鏃	黒曜石	13.4	14.8	5.1	0.88	39-45	脚部・先端部欠
3C − 17	0081	石鏃	黒曜石	36.4	25.1	13.5	9.83	39-46	未製品？
3C − 18	0483	石鏃	黒曜石	32.8	17.0	7.5	3.59	39-47	未製品？，14T
3C − 17	0076	調整痕有剥片	黒曜石	17.5	22.8	12.0	5.28	39-48	
3C − 17	0078	剥片	黒曜石	22.0	21.0	10.5	3.41	39-49	
3C − 18	0017	剥片	黒曜石	28.0	24.0	11.0	3.46	40-50	
3C − 25	0003	剥片	黒曜石	23.0	4.0	23.0	2.04	40-51	
3C − 28	0074	剥片	黒曜石	28.0	22.0	5.0	2.22	40-52	
3C − 28	0074	剥片	黒曜石	41.0	31.0	9.0	7.74	40-53	
3C − 19	0093	打製石斧	安山岩	110.0	55.0	14.0	100.99	40-54	接合，製作途中？
3C − 59	0004	打製石斧	凝灰岩	60.5	31.0	23.0	45.71	40-55	刃部付近
3C − 15	0027	敲石	安山岩	65.5	52.5	36.0	177.10	40-56	
3D − 10	0008	敲石	流紋岩	57.3	60.5	48.0	197.93	40-57	欠損
3C − 08	0048	敲石	流紋岩	49.2	46.0	32.5	71.21	40-58	欠損
3C − 49	0014	敲石	砂岩	54.0	48.0	21.0	70.12	40-59	欠損
7F − 68	0051	石鏃	黒曜石	15.3	9.7	4.2	0.42	41- 1	脚部のみ
7F − 78	0008	磨製石斧		120.0	47.0	31.0	281.62	41- 2	
7F − 58	0005	敲石	流紋岩	71.5	55.0	31.0	169.87	41- 3	
7F − 68	0009	敲石	砂岩	65.5	59.5	33.5	167.29	41- 4	
SI − 001	0001	石鏃	黒曜石	25.8	12.2	4.2	1.11	42- 1	
SI − 001	0001	石鏃	黒曜石	17.2	9.1	3.4	0.41	42- 2	脚部
8G − 12	0047	石鏃	砂岩	15.7	11.1	3.5	0.54	42- 3	先端部のみ
8G − 01	0021	剥片	黒曜石	21.0	21.0	6.0	1.56	42- 4	
8G − 22	0011	剥片	黒曜石	31.0	13.0	5.5	1.25	42- 5	
8G − 23	0035	剥片	黒曜石	26.0	29.0	6.0	2.09	42- 6	
7G − 81	0064	打製石斧	ホルンフェルス	105.5	55.0	27.5	199.08	42- 7	刃部欠損
7G − 91	0013	敲石	流紋岩	53.0	62.5	33.0	140.35	42- 8	欠損
8G − 21	0009	敲石	片岩	41.0	24.0	18.5	32.27	42- 9	欠損，端部に使用痕
9G − 11	0003	石鏃	安山岩	20.9	12.7	3.5	0.82	43- 1	脚部欠
9F − 36	0008	石鏃	黒曜石	21.6	14.9	3.6	0.81	43- 2	脚部のみ
9F − 85	0007	石核	黒曜石	27.5	33.0	14.8	10.07	43- 3	
9G − 94	0002	石核	黒曜石	24.0	44.0	37.0	38.12	43- 4	
8F − 65	0001	両極石器	黒曜石	38.5	27.0	12.0	12.60	43- 5	
8F − 77	0002	石核	黒曜石	22.0	53.0	16.0	16.12	44- 6	
9F − 45	0002	剥片	黒曜石	26.0	24.0	7.0	2.44	44- 7	
9G − 91	0006	剥片	黒曜石	20.0	27.0	7.5	3.17	44- 8	
9F − 32	0019	打製石斧	砂岩	56.0	41.0	17.5	50.63	44- 9	刃部付近
10G − 02	0003		軽石	64.0	68.0	33.5	35.61	44-10	
3C − 00	0001	石鏃	黒曜石	15.8	13.9	3.5	0.56	55- 1	一部欠
6E − 42	0001	石鏃	黒曜石	11.6	7.5	3.9	0.28	55- 2	先端部のみ
7E − 78	0001	石鏃	黒曜石	25.4	20.1	4.1	1.36	55- 3	
7E − 39	0001	石鏃	黒曜石	18.4	14.2	3.9	0.82	55- 4	脚部のみ
9E − 09	0003	石鏃	黒曜石	19.6	16.7	4.1	0.86	55- 5	
7F − 00	0001	石鏃	黒曜石	20.3	20.6	3.5	0.81	55- 6	
7F − 00	0001	石鏃	黒曜石	19.7	15.6	3.9	0.77	55- 7	一部欠
7F − 00	0006	石鏃	黒曜石	17.0	10.1	3.5	0.50	55- 8	脚部のみ
9F − 82	0003	石鏃	黒曜石	25.4	22.2	5.9	2.62	55- 9	脚部・先端部欠
9F − 87	0004	石鏃	黒曜石	17.3	20.9	3.6	10.00	55-10	脚部・先端部欠
10F − 37	0004	石鏃	石英	18.9	15.0	6.5	1.41	55-11	一部欠
10G − 11	0003	石鏃	安山岩	27.0	20.5	7.3	3.36	55-12	脚部欠
1 T	0002	石鏃	黒曜石	16.9	19.1	4.3	0.96	55-13	先端部欠
3 T	0001	石鏃	黒曜石	17.9	14.7	4.3	0.93	55-14	脚部・先端部欠
14 T	0001	石鏃	黒曜石	13.8	14.3	2.5	0.39	55-15	

出土位置	遺物番号	種類	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	挿図番号	備考
14 T	0001	石鏃	黒曜石	16.6	12.8	4.4	0.56	55-16	一部欠
16 T	0001	石鏃	黒曜石	14.2	10.5	4.0	0.32	55-17	脚部欠
表面採集	—	石鏃	黒曜石	19.2	13.5	4.0	0.83	55-18	一部欠
表面採集	—	石鏃	黒曜石	16.3	17.3	3.4	0.77	55-19	先端部欠
表面採集	—	石鏃	黒曜石	26.3	20.8	7.8	2.50	55-20	脚部欠
表面採集	—	石鏃	黒曜石	10.8	12.0	4.0	0.47	55-21	脚部・先端部
表面採集	—	石鏃	黒曜石	14.1	16.0	3.8	0.60	55-22	先端部のみ
表面採集	—	石鏃	黒曜石	15.8	11.0	4.1	0.52	55-23	脚部のみ
表面採集	—	石鏃	黒曜石	10.7	17.0	4.0	0.60	55-24	脚部のみ
7F — 61	0001	石核	黒曜石	25.0	34.0	14.0	8.59	55-25	
9F — 95	0002	石核	黒曜石	21.0	27.0	30.0	12.93	55-26	
10G — 21	0009	石核	黒曜石	18.0	24.5	21.0	8.53	55-27	
2 T	0001	石核	黒曜石	34.0	35.0	14.0	15.59	55-28	
21 T	0001	石核	黒曜石	28.0	28.0	8.0	6.65	55-29	
7F — 00	0001	石核	黒曜石	34.5	24.5	14.0	11.08	56-30	
7F — 59	0001	両極石器	黒曜石	27.0	27.0	10.0	5.43	56-31	
9F — 20	0012	両極石器	黒曜石	34.0	22.5	10.5	8.52	56-32	
8E — 88	0006	剥片	黒曜石	34.5	31.0	7.0	6.95	56-33	
10F — 27	0005	石鏃未製品	黒曜石	21.0	18.3	7.0	2.06	56-34	
10G — 33	0002	調整痕有剥片	黒曜石	25.0	23.5	11.0	6.22	56-35	
8E — 48	0001	剥片	黒曜石	20.5	23.5	14.0	6.46	56-36	
9F — 63	0005	剥片	黒曜石	28.0	21.0	6.0	3.62	56-37	
9F — 71	0002	剥片	黒曜石	24.0	29.0	7.0	4.41	56-38	
9F — 75	0006	剥片	黒曜石	51.0	31.5	12.0	11.36	56-39	
9F — 82	0008	石核	黒曜石	24.0	37.0	20.0	14.00	56-40	
9F — 92	0003	石核	黒曜石	26.0	37.0	17.0	10.33	56-41	
9F — 93	0007	石核	黒曜石	23.0	47.0	15.0	10.54	57-42	
9F — 93	0007	剥片	黒曜石	38.5	20.0	13.0	6.61	57-43	
9F — 95	0008	剥片	黒曜石	23.0	23.0	6.0	1.91	57-44	
9F — 93	0007	石核	黒曜石	21.0	27.0	22.0	12.03	57-45	
5 T	0001	剥片	黒曜石	44.0	58.5	19.0	28.07	57-46	
9E — 17	0011	打製石斧	ホルンフェルス	65.0	50.0	22.5	78.69	57-47	刃部欠損
9F — 72	0005	打製石斧	安山岩	61.5	61.0	26.5	112.53	57-48	刃部付近
9F — 83	0002	打製石斧	流紋岩	40.0	41.0	17.5	35.59	57-49	刃部付近？，製作途中？
10G — 10	0008	打製石斧	砂岩	56.5	45.0	22.7	55.92	57-50	刃部付近
14 T	0481	打製石斧	ホルンフェルス	82.0	47.5	11.5	44.73	57-51	欠損
1 T	0003	打製石斧	安山岩	57.5	35.5	23.5	44.95	57-52	胴部一部
表面採集	—	打製石斧	ホルンフェルス	98.0	63.0	29.5	273.23	57-53	柄部欠損
表面採集	—	打製石斧	砂岩	64.0	39.0	26.5	63.22	57-54	胴部付近？
3C — 29	0041	敲石	片岩	83.5	33.0	26.0	117.87	58-55	欠損
3D — 61	0007	敲石	砂岩	120.0	68.0	35.0	415.00	58-56	欠損，平坦部に使用痕
3D — 73	0001	敲石	砂岩	129.0	83.5	49.0	640.00	58-57	一部欠損
4D — 68	0001	敲石	砂岩	82.0	66.0	54.0	360.00	58-58	欠損
6E — 89	0001	敲石	流紋岩	120.5	81.0	38.5	545.00	58-59	使用による欠損？
7F — 72	0001	敲石	流紋岩	—	—	—	—	58-59	
8E — 97	0012	敲石	安山岩	78.5	40.0	34.0	179.43	58-60	一部
9E — 29	0001	敲石	流紋岩	70.5	51.0	21.5	121.30	58-61	
10F — 03	0002	敲石	砂岩	55.5	31.0	42.0	83.79	58-62	一部
10F — 18	0006	敲石	流紋岩	62.5	62.5	36.0	298.12	58-63	
1 T	0003	磨石	砂岩	71.0	56.0	28.5	101.84	58-64	欠損
14 T	0184	敲石	流紋岩	86.0	73.0	57.0	395.00	58-65	
14 T	0066	敲石	砂岩	67.5	37.0	14.5	55.22	58-66	

第3章　ま　と　め

第1節　縄文時代

発掘調査の成果は縄文早期の陥穴1基，中期前半の竪穴住居跡8軒，小竪穴2基，土坑5基，ピット群4か所，石鏃製作跡4か所などが検出され，関連する遺物が出土した。縄文早期の遺構は陥穴1基のみであるが，撚糸文系の土器などが少量確認されている。この早期の陥穴を除けば，他のほとんどは縄文中期前半の時期が中心である。土器型式で言えば阿玉台式，および勝坂式と若干の加曽利E式の中期初頭から中葉にかけての期間に集落が営まれたと考えられる。

なお，練木遺跡採集の土器および黒曜石の原産地推定について，大村　裕氏，建石　徹氏によって詳細な分析がなされている[1)]。

第2節　奈良時代以降

奈良時代の遺構として，石櫃単独埋葬施設の火葬墓が検出されている。石櫃は外容器で，骨蔵器は土師器の杯2点と考えられる。時期は8世紀第2四半期と思われる。方形区画を伴わない最も古い例かもしれない。なお，未報告であるが，練木遺跡の北西側では平成12年度に，練木遺跡と同じく館山道建設に伴う調査で，木更津市南羽鳥遺跡，君津市踊ヶ作遺跡で石櫃等を伴う火葬墓が発見されている。

また，本県の火葬墓については半澤幹雄氏[2)]，渡邉昭宏氏[3)]による紹介がある。

ほかに，奈良時代以降の遺構としては平安時代の竪穴住居2軒，中世の柵列1条が検出されている。

注1　大村　裕　2002　「二つの「顔」を持った土器　－千葉県君津市練木遺跡出土中期縄紋土器の研究－」『土曜考古　第26号』　土曜考古学研究会

　　建石　徹　2002　「練木遺跡採集中期縄文土器の胎土分析ならびに黒曜石の原産地推定　－大村論文のコメントをかねて－」『土曜考古　第26号』　土曜考古学研究会

注2　半澤幹雄　1996　『市原市武士遺跡1』　（財）千葉県文化財センター

注3　渡邉昭宏　2000　『千葉東金道路（二期）埋蔵文化財調査報告書5』　（財）千葉県文化財センター

写 真 図 版

練木遺跡周辺航空写真（昭和42年撮影）

1．練木遺跡全景（北から）

2．練木遺跡全景（南から）

1. 第1トレンチ（東北東から）

2. 第2トレンチ（北から）

3. 第3トレンチ（南から）

4. 第4トレンチ（南南西から）

1．第13トレンチ（南西から）

2．第14トレンチ（南西から）

3．第17トレンチ（南から）

4．第22トレンチ（東から）

2．８Ｇグリッド遺構検出状況１（北から）

1．第18トレンチ遺構検出状況（西から）

4．基本土層（８Ｆ-19グリッド西壁）

3．８Ｇグリッド遺構検出状況２（北から）

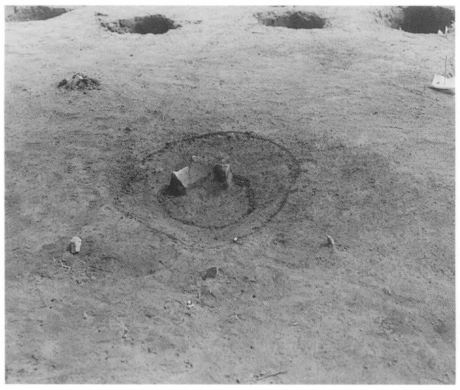
図版6

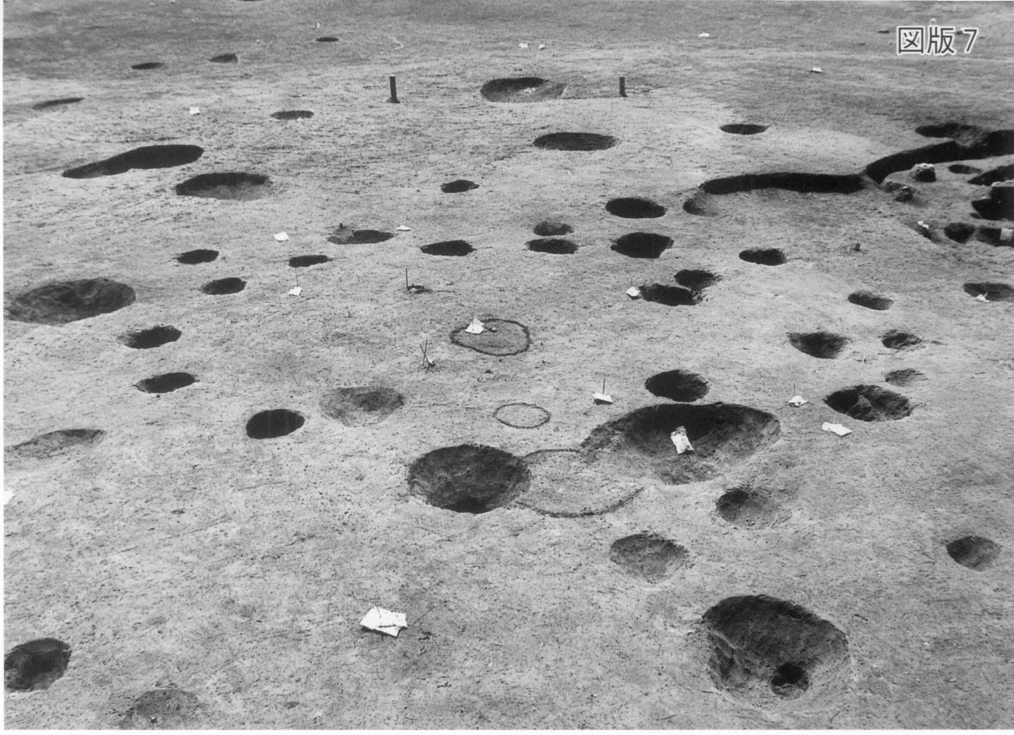
1. SI002（南西から）

2. SI003（北から）

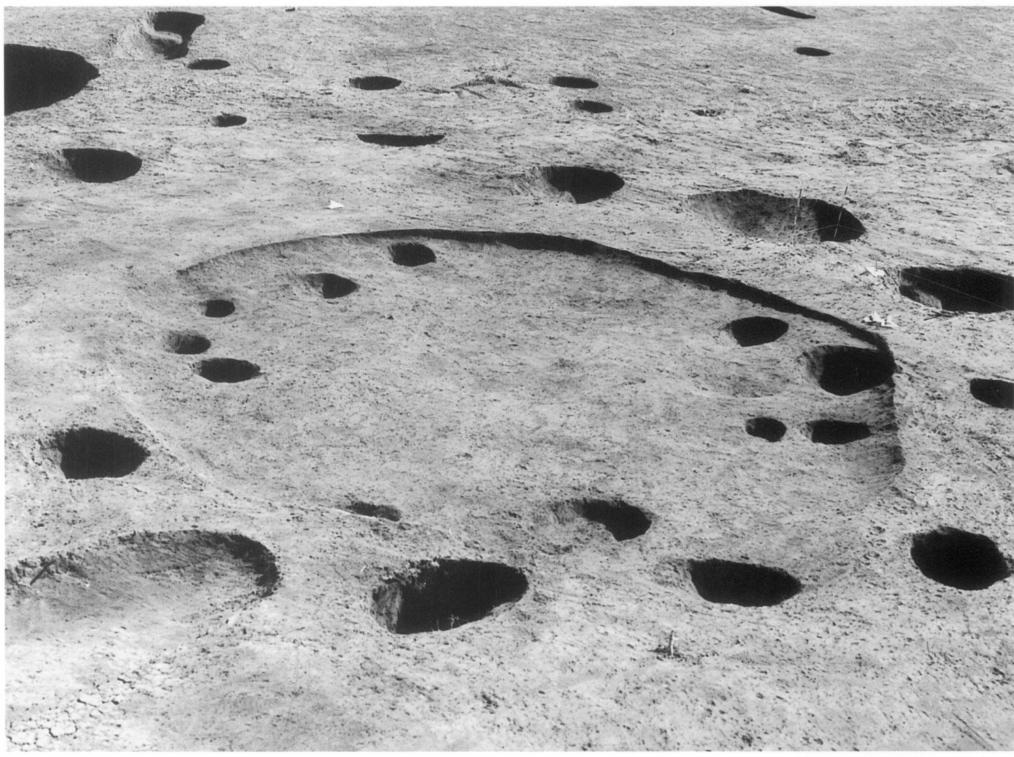
3. SI004（東から）

1. SI006（北から）





2. SI007（北東から）



3. SI009（南西から）

図版 8

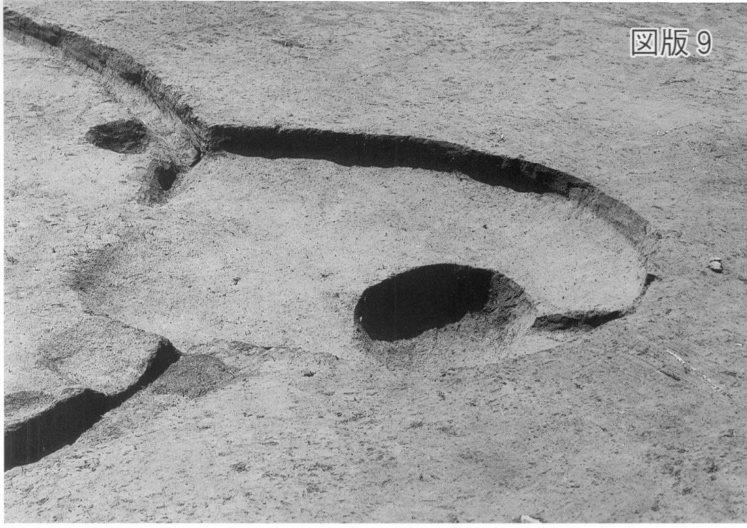
1. SI010（東から）

2. SI011（南から）

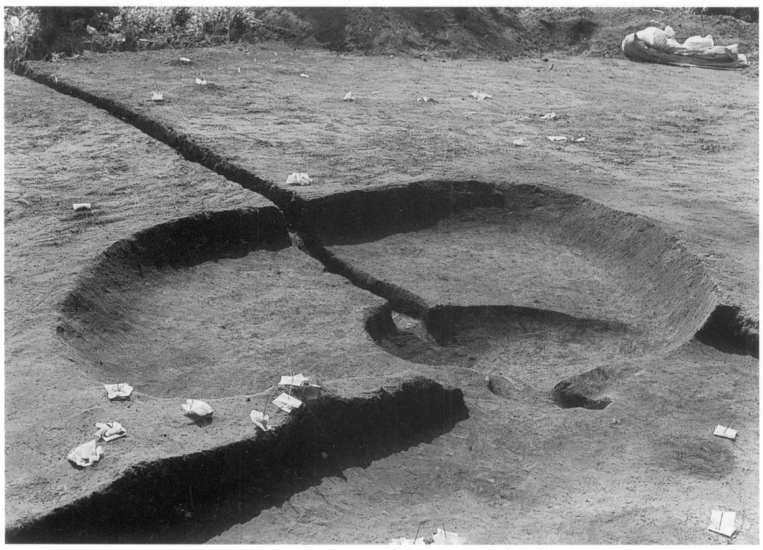
3. 9F-00～10G-00グリッド遺物出土状況（南西から）

4. 10G-00グリッド遺物出土状況（西から）

1. SK003（北から）



2. SK004（北から）



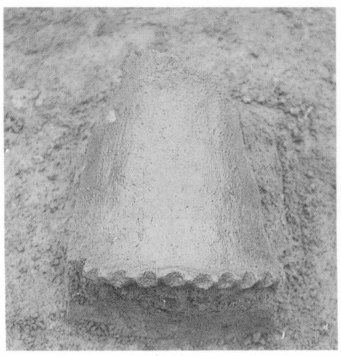
3. SK007（北東から）

4. SK010（西から）

5. SK011（北から）

6. SK012（西から）

7. SK013（北東から）



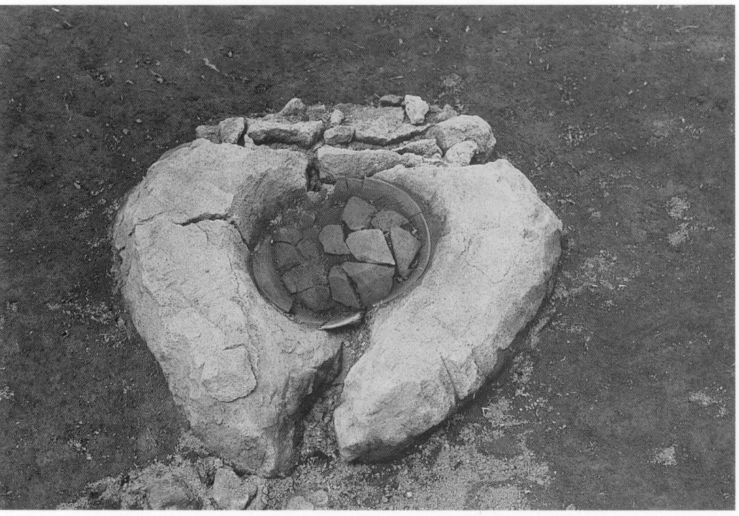
8. SK013遺物出土状況 1
（北東から）

9. SK013遺物出土状況 2
（南東から）

図版10

1. SH121（東から）

2. 7F-68グリッド埋甕（西から）



3. SK002（1）東から

4. SK002（2）東から

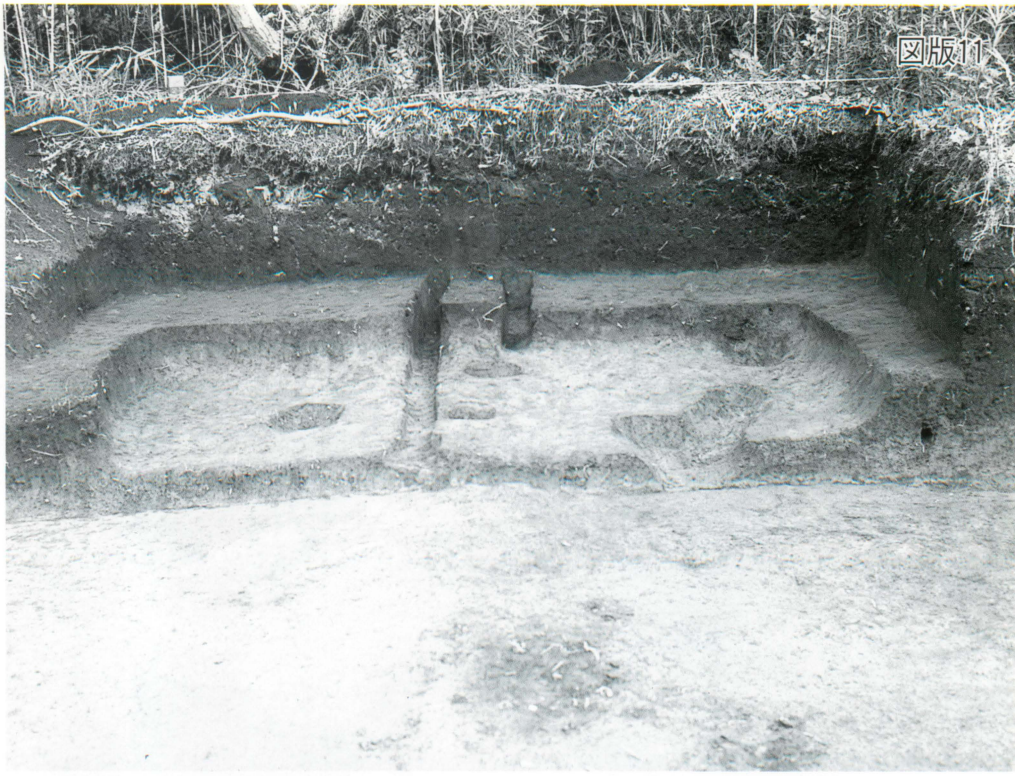
5. 出土土器（1）

6. 出土土器（2）

7. 出土土器（3）

8. 出土土器（8）

1. SI005（西から）



2. SI001（南東から）

3. SA001（南東から）

SI 004

SI 010

SI 010

SI 006

SI 010

SI 011

SI 006

SI 010

SI 011

SI 006

SI 011

SI 010

SI 011

SI 006

SI 010

SI 011

SI 009

遺構出土土器（1）

遺構出土土器（2）・グリッド出土土器（1）

S I 002

S I 003

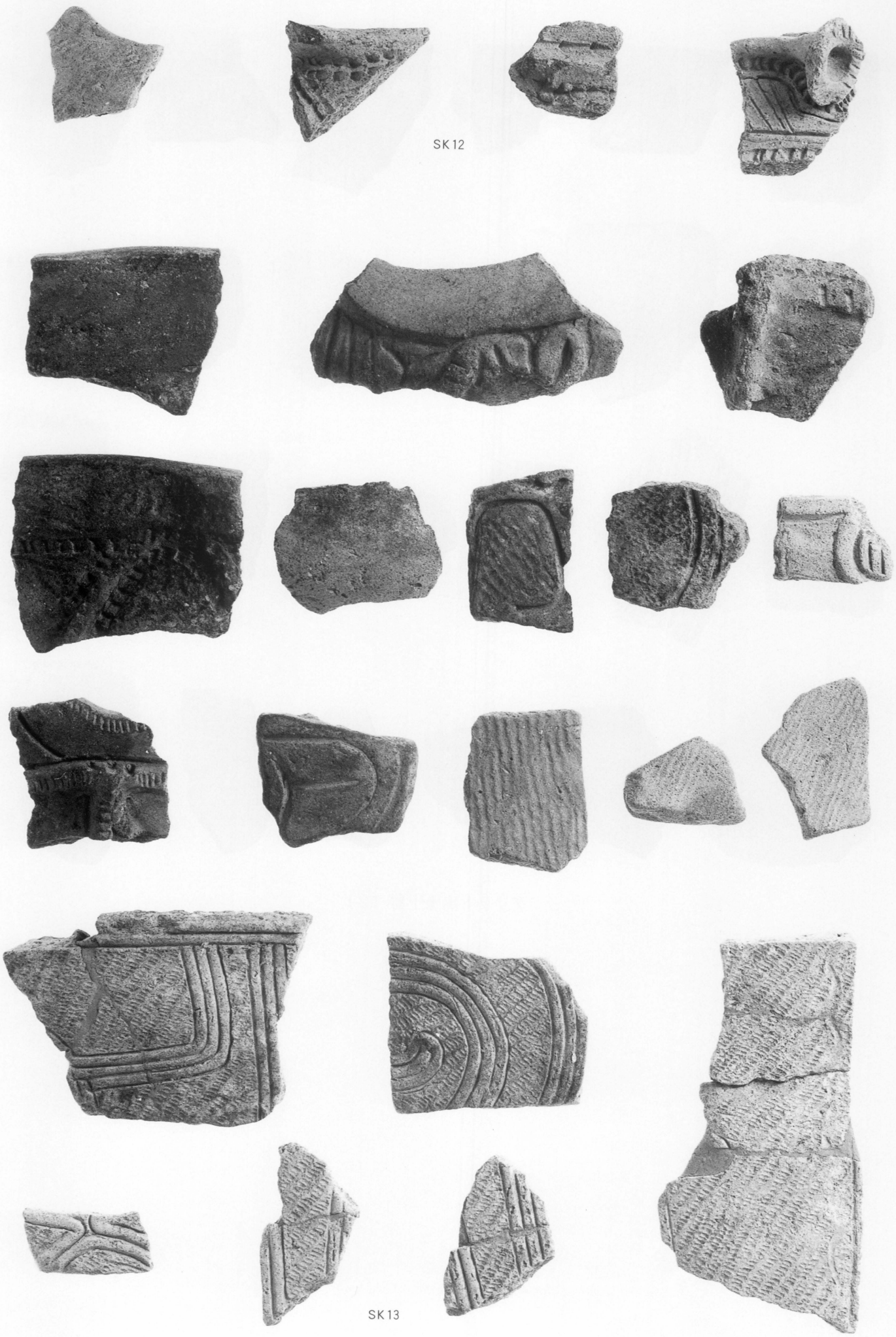
S I 004

S I 006

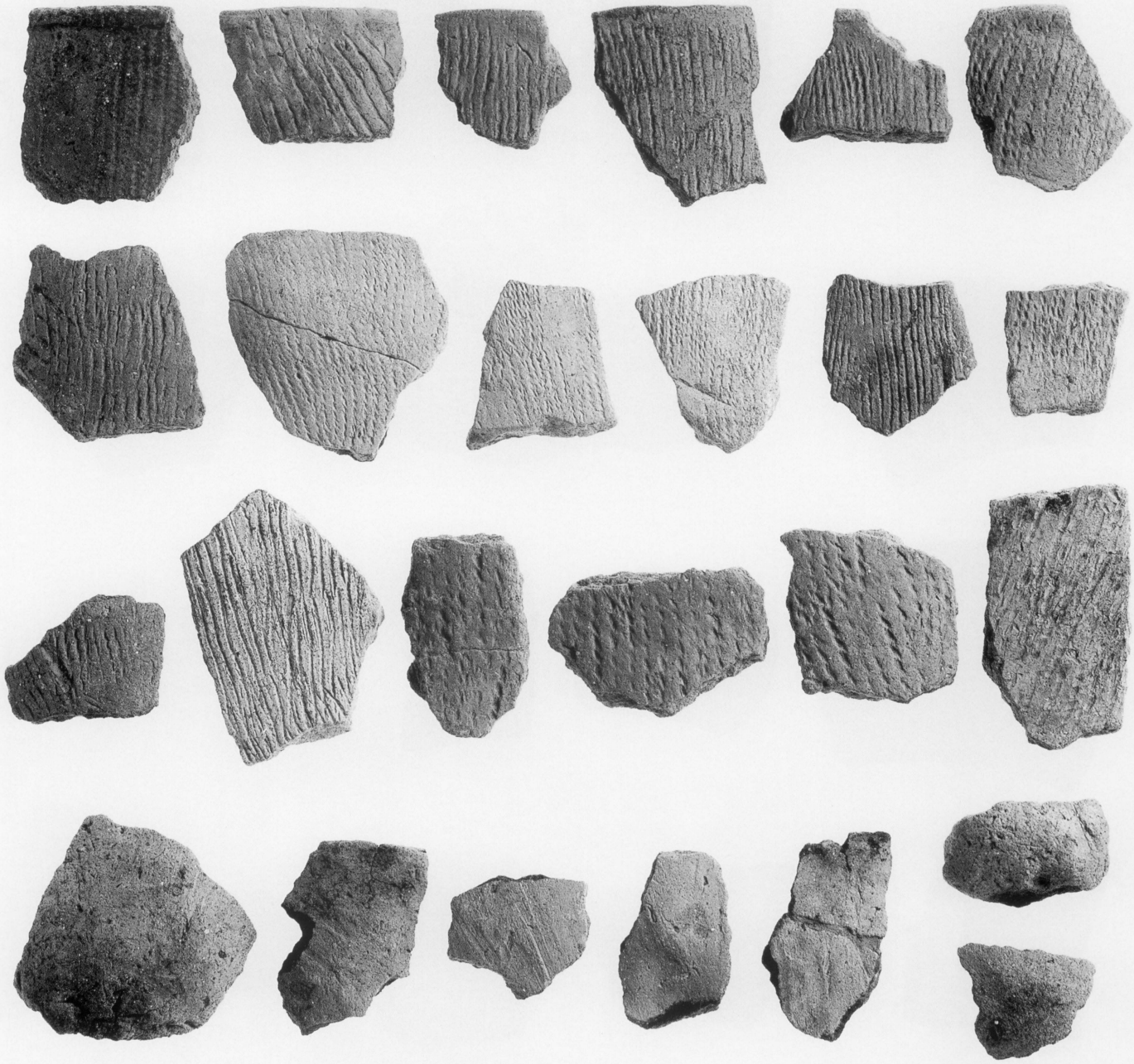
遺構出土土器（3）

遺構出土土器（4）

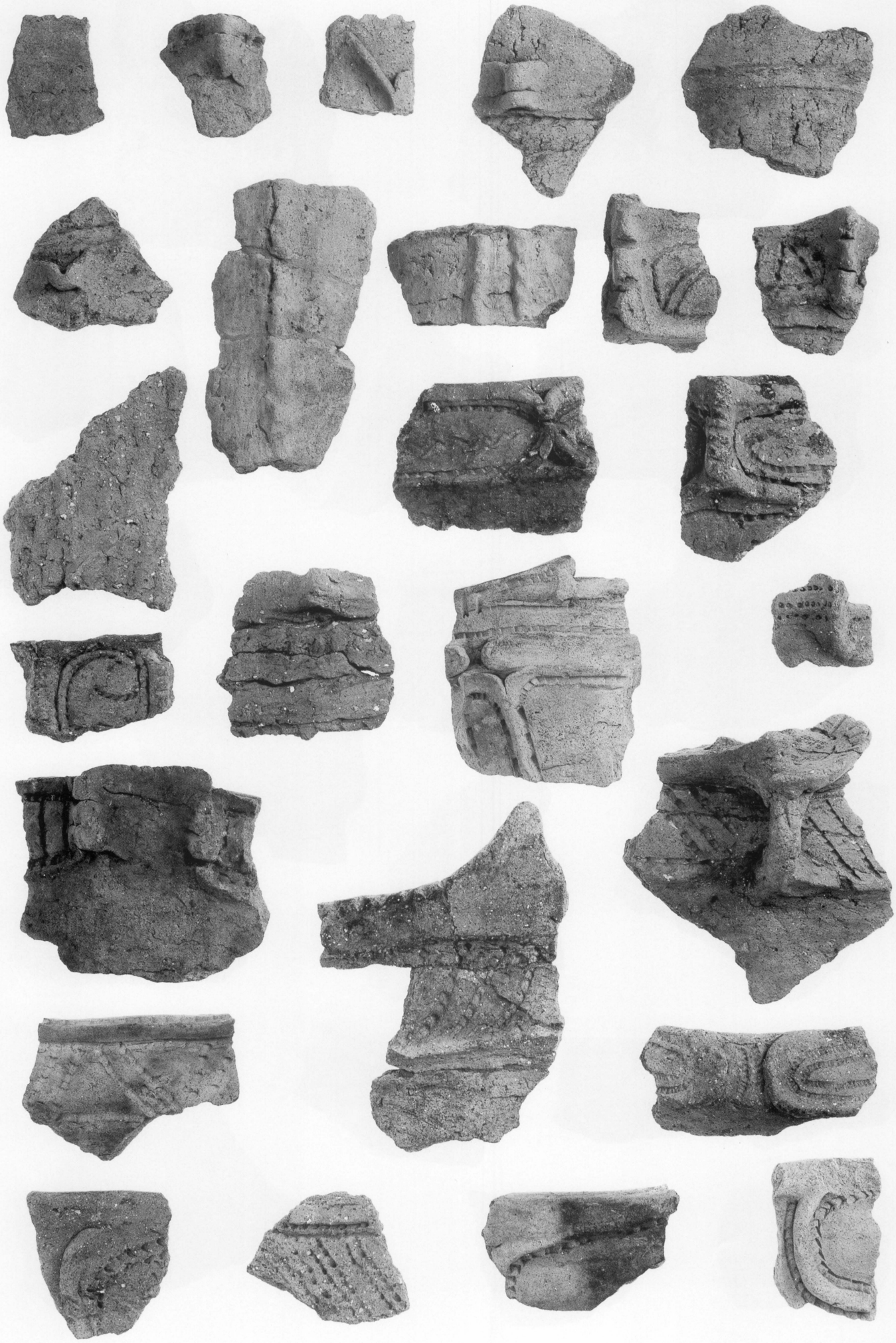
遺構出土土器（5）



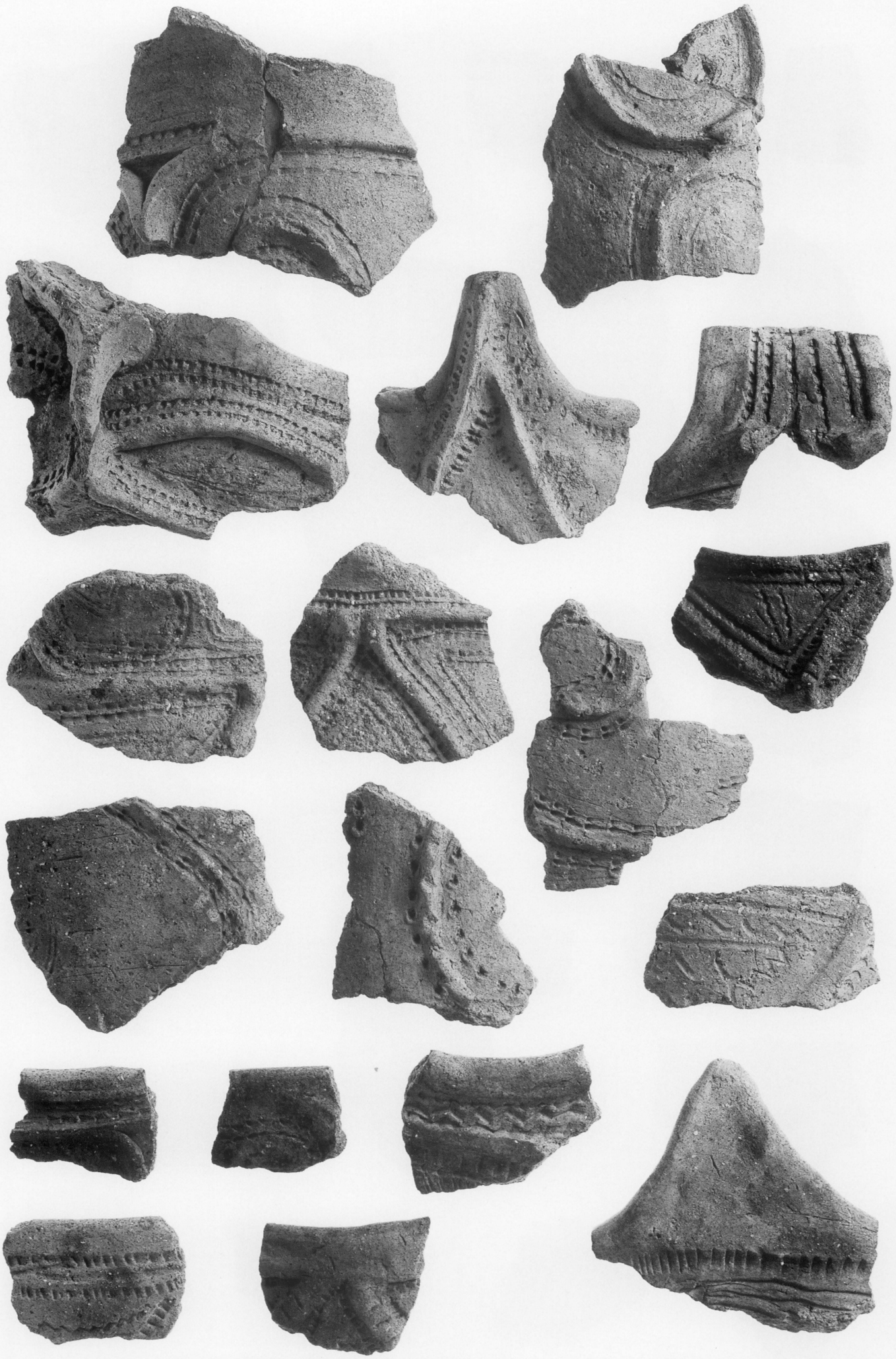
遺構出土土器（6）



グリッド出土土器（2）



グリッド出土土器（3）

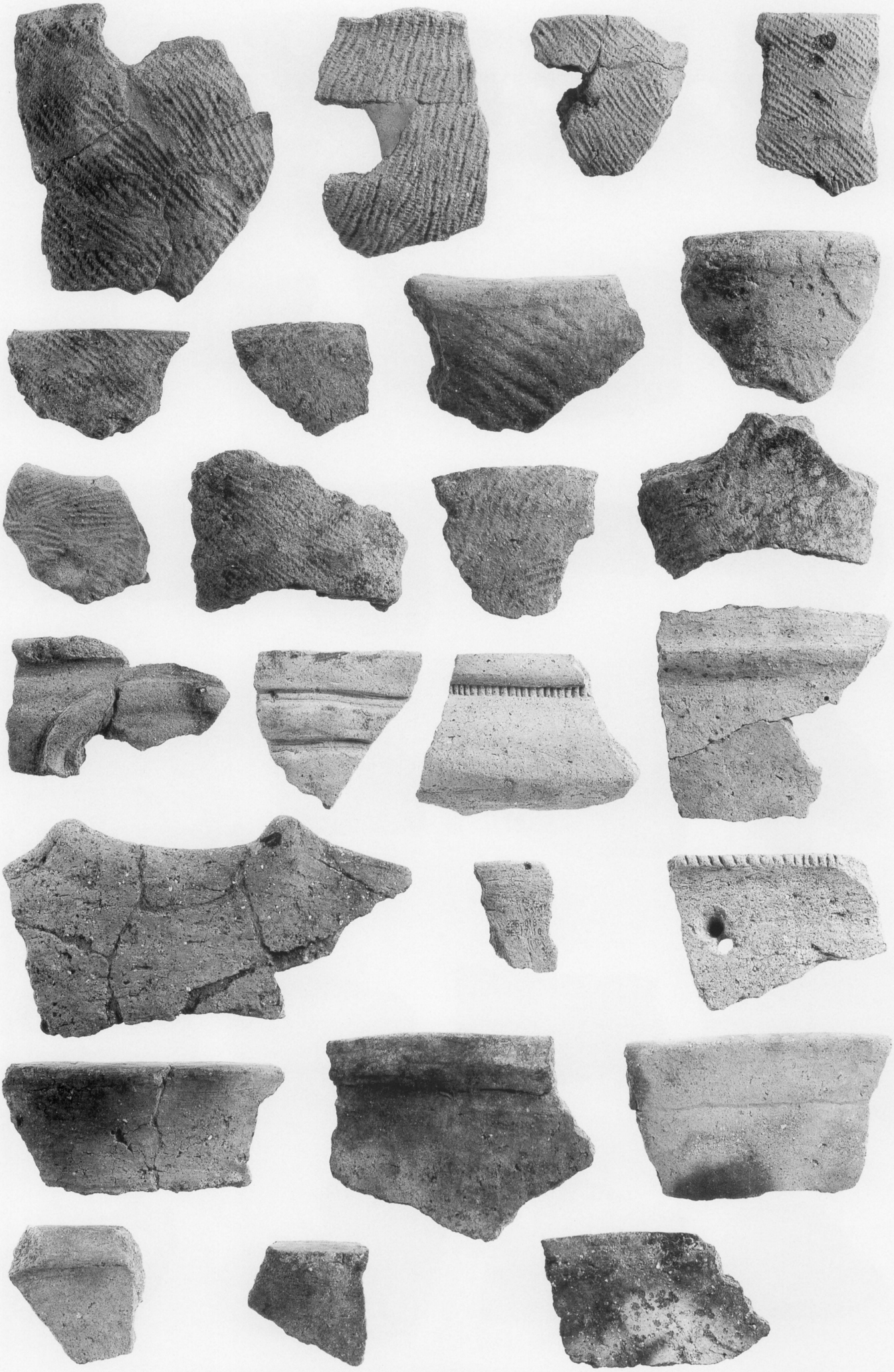


グリッド出土土器（4）

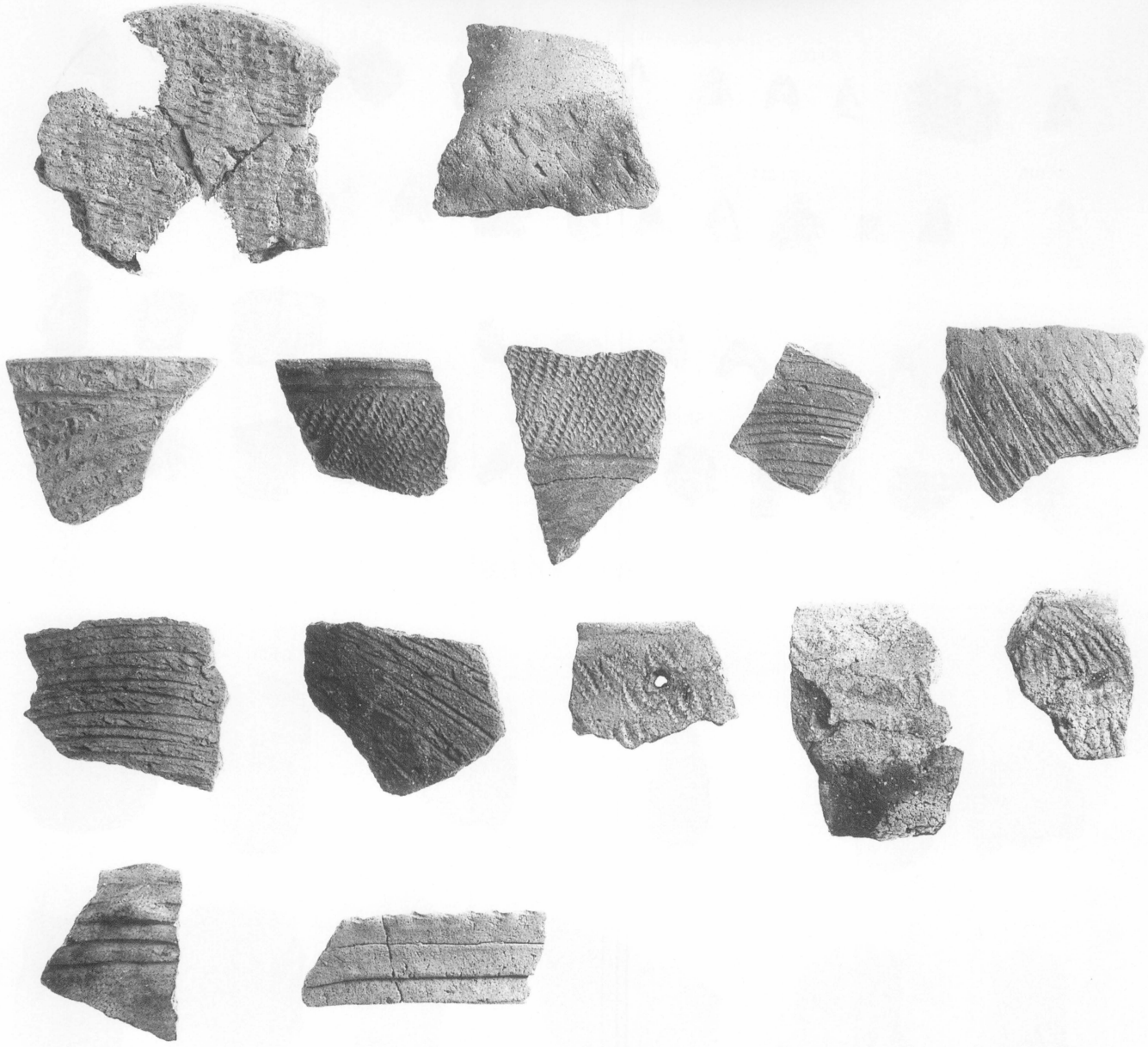
グリッド出土土器（5）

グリッド出土土器（6）

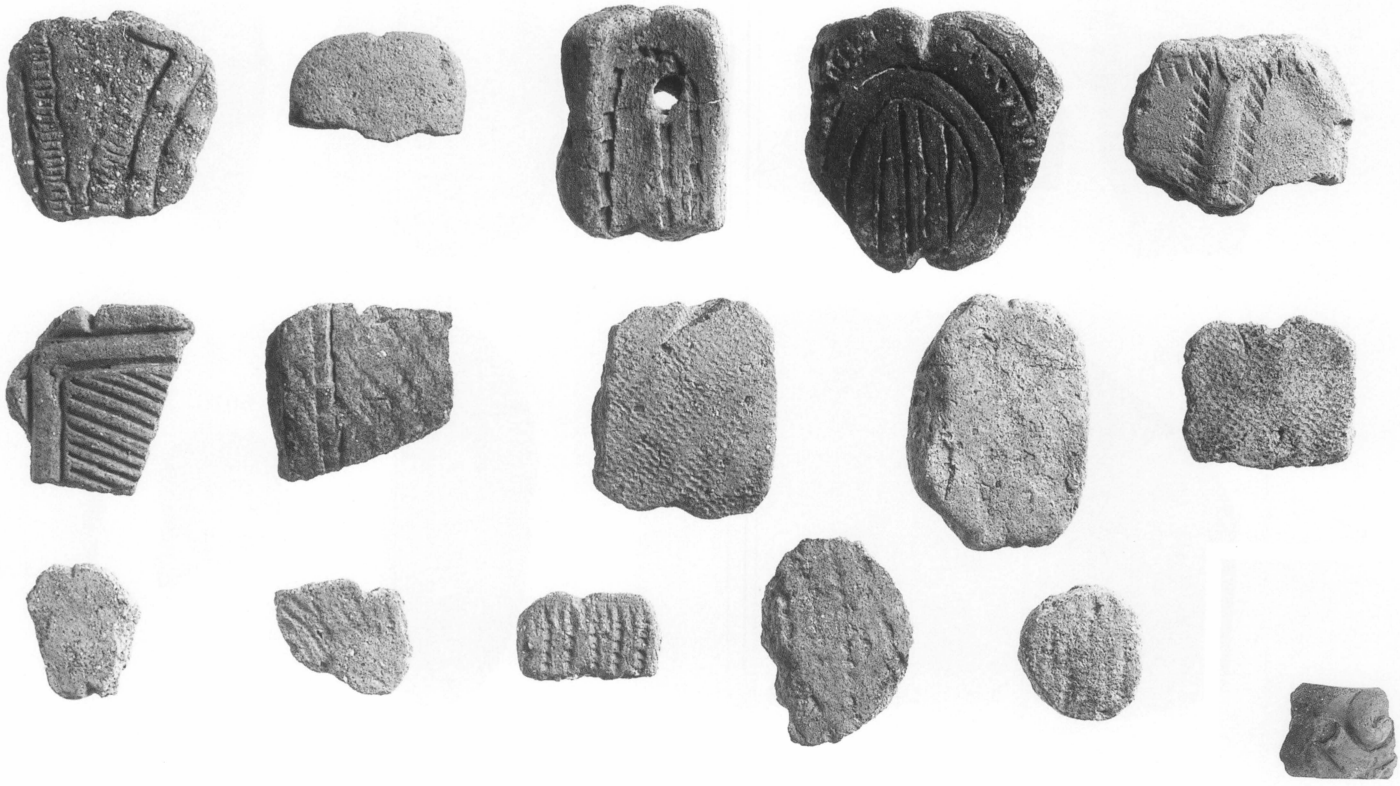
グリッド出土土器（7）



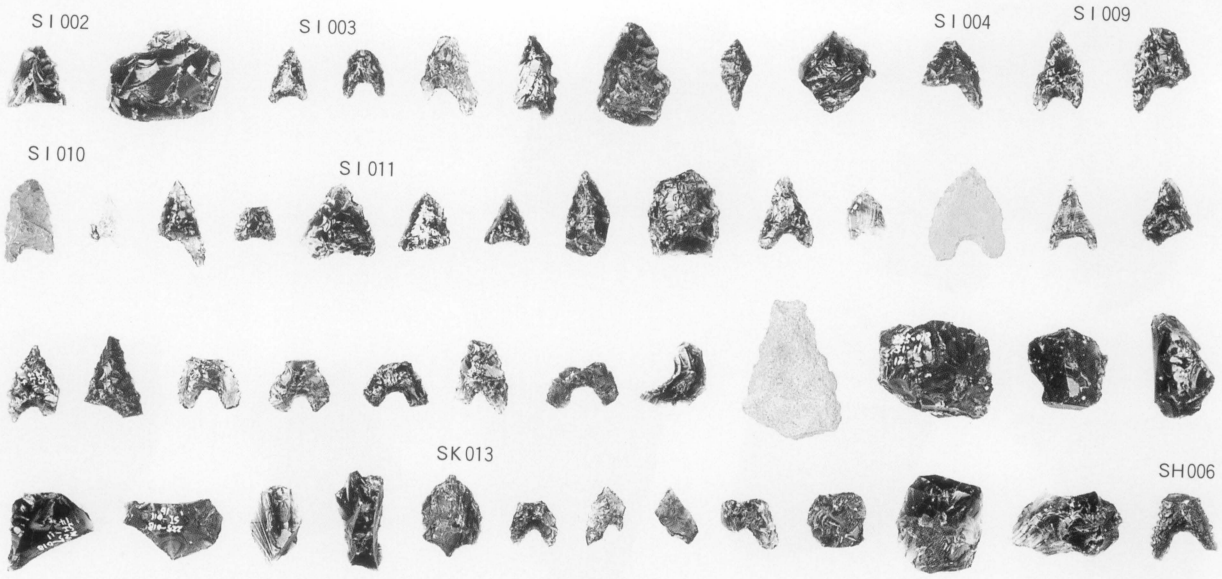
グリッド出土土器（8）



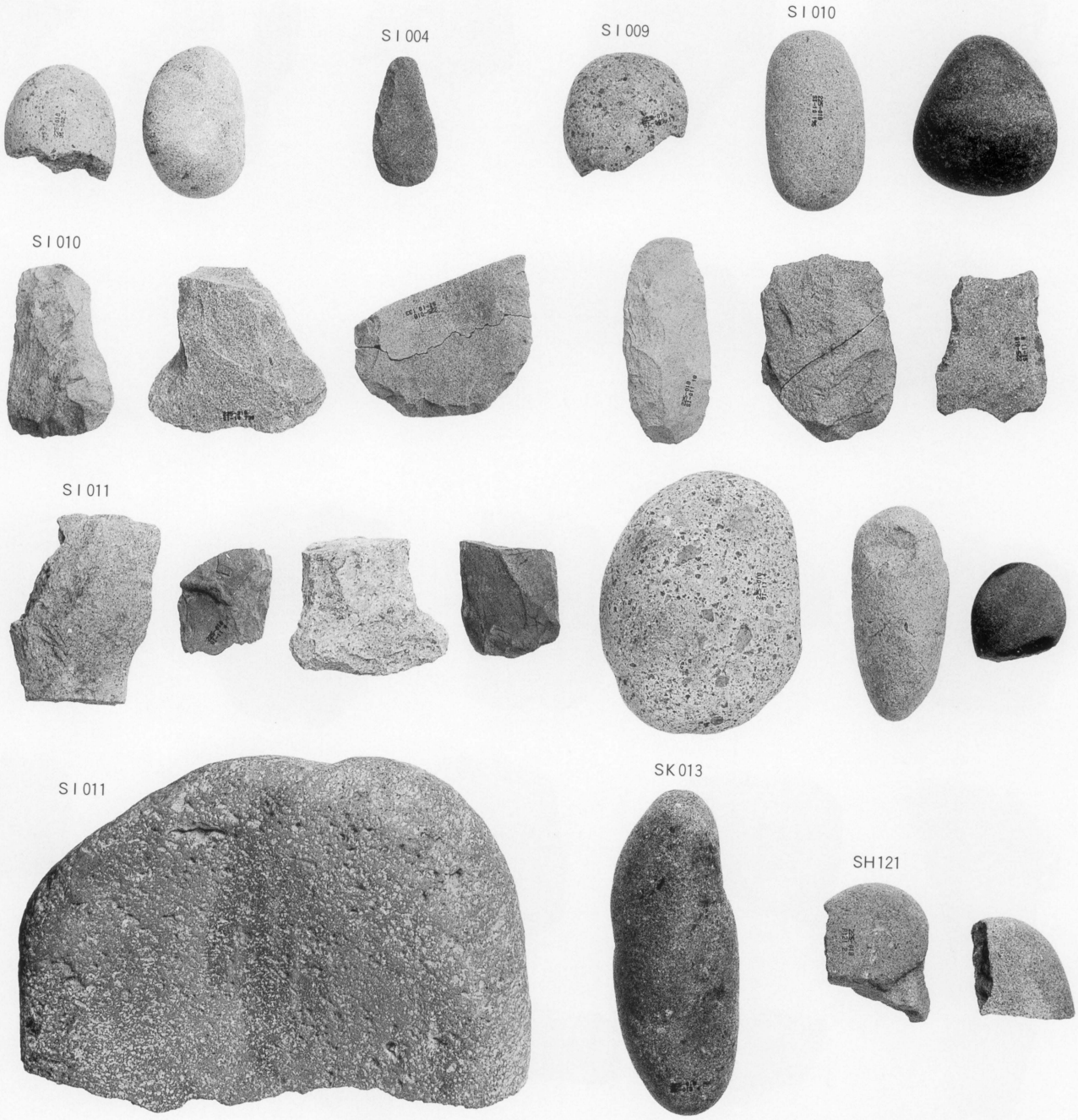
グリッド出土土器（9）



遺構・グリッド出土土製品

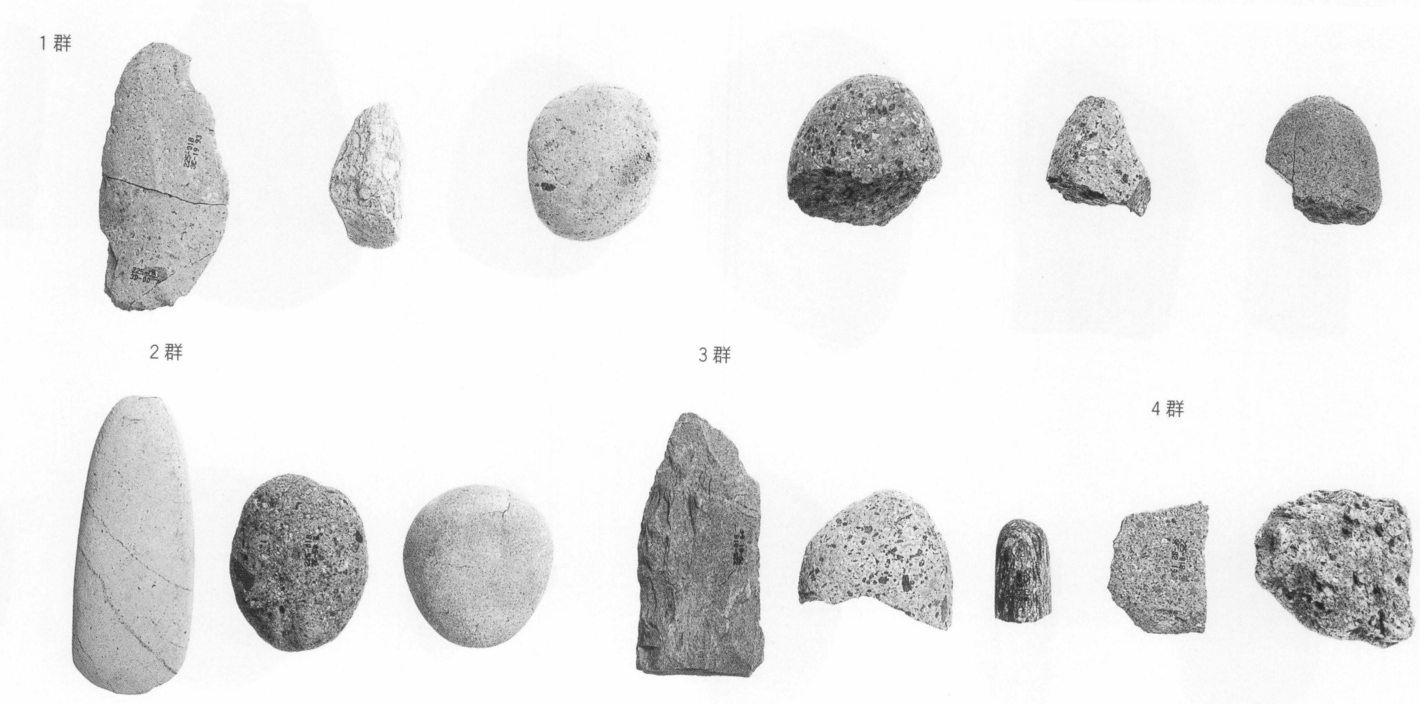


遺構出土剥片石器



遺構出土礫石器

石鏃製作跡出土剥片石器



石鏃製作跡出土礫石器

グリッド出土剥片石器

グリッド出土礫石器

報告書抄録

ふ り が な	ひがしかんとうじどうしゃどう（きさらづ・ふっつせん）まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	君津市練木遺跡
巻　　次	1
シ リ ー ズ 名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第460集
編 著 者 名	高橋博文，田島　新，半澤幹雄
編 集 機 関	財団法人　千葉県文化財センター
所　在　地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　　TEL. 043(422)8811
発 行 年 月 日	西暦2003年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
練木遺跡 （ねりきいせき）	千葉県君津市練木 （ちばけんきみつしねりき）	225	018	35度 19分 38秒	139度 56分 57秒	2000.05.08 ～ 2000.09.29	9,200㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
練木遺跡	集落跡 包蔵地	縄文時代	竪穴住居跡　8軒 小竪穴　2基 土坑　5基 石器集中地点　4か所 ピット群　4か所	縄文土器・石器・礫	阿玉台式、勝坂式を主体とする縄文時代中期前葉の集落と石鏃の製作跡が検出された。 奈良時代の火葬墓からは８世紀中半の土師器とともに石櫃が発見された。
	墓域	奈良時代	火葬墓　1基	土師器	
	集落跡	平安時代 中・近世	竪穴住居跡　2軒 柵列　1条	銭貨	

千葉県文化財センター調査報告第460集
東関東自動車道（木更津・富津線）埋蔵文化財調査報告書１
－君津市練木遺跡－

平成15年３月25日発行

編　　集　財団法人　千葉県文化財センター
発　　行　日本道路公団
東京都港区虎ノ門1-18-1
財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2
印　　刷　大和美術印刷株式会社
千葉県木更津市潮浜2-1-10